

授 業 科 目 名	哲学		
担 当 者 名	吉田 正史		
科 目 コ ー ド	2200001	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	われわれはどこから来たのでしょうか。われわれはこの世で何をのでしょうか。われわれはどこへ行くのでしょうか。要するに、われわれはいったい何なのでしょうか。この問いこそ哲学の命とも言えましょう。この核心的で本来最高の人類的関心事であるはずの問題を先哲の言葉に耳を傾けながら考えてみましょう。		
授業の到達目標	・ 神と世界、自由と不死性といった伝統的な哲学の問題の基礎的な理解を通じて、人生を見つめる、より広くより深い精神的背景を身につけること。		
授 業 計 画			
1.	はじめに		
2.	霊魂の不滅 死後存続研究史		
3.	霊魂の不滅 仏教の輪廻転生説		
4.	霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ①退行催眠被験者の諸事例		
5.	霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ②前世記憶保持者の諸事例		
6.	霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ③小泉八雲の勝五郎再生譚		
7.	霊魂の不滅 死後存続は可能か -ジェイムズの脳の伝達機能説-①脳科学の基本的立場		
8.	霊魂の不滅 死後存続は可能か -ジェイムズの脳の伝達機能説-②伝達説対生産説		
9.	霊魂の不滅 死後存続は可能か -ジェイムズの脳の伝達機能説-③伝達説のもたらす来世観		
10.	霊魂の不滅 死後存続は可能か -ベルクソンの心脳関係論-		
11.	神の存在 信仰とその正当性の問題		
12.	神の存在 神の摂理と自由意志		
13.	神の存在 愛の躍動と創造的進化		
14.	恋愛 倉田百三の恋愛論		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業 15 回終了後に提出を求めるレポート			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・ 授業中に指示した参考図書を読むことが望ましい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・ 適宜資料等を配布する。			
参考書又は参考資料等			
・ スティーブンソン「前世を記憶する子どもたち」笠原敏雄 訳 (日本教文社、平成 2 年)			
・ その他参考図書は授業中に適宜指示する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・ 質問のある場合、メールは使わずに直接当方研究室 (1 号館 207 室) まで来られたい (研修日を除けば、基本的に午後 5 時まで研究室に在室)。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshida@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	心理学		
担 当 者 名	福崎 淳典		
科 目 コ ー ド	2000001	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	「心理学」とは人間の心を科学的に解明する学問である。人はなぜそのような行動をしたのか、なぜそのような気持ちになったのかなど、心理学を学ぶことによって、自分や他者の気持ちを推測し、論理的あるいは客観的に理解することが可能になる。本講義では、多義にわたる心理学の分野を紹介し、社会人として必要なコミュニケーションについても学ぶ。		
授業の到達目標	①心理学の基礎知識を学び、人間の心の仕組みを知る。 ②心理学の知識を社会生活と結びつけて考える。 ③人間関係の心理を学び、簡単なコミュニケーション技術を習得する。		
授 業 計 画			
1.	心理学とは何か	心理学の考え方を体験する	
2.	認知	知覚と思考のメカニズム	
3.	学習	学習と記憶の理論	
4.	心理学実験	心理学の実験についての紹介	
5.	教育	学級課題に対する理解と対応、動機づけ	
6.	コミュニケーション	対人関係論	
7.	パーソナリティ	パーソナリティの理解とその特性	
8.	対人関係パターン	対人関係を知る	
9.	態度と態度変化	態度や態度変化における心の仕組み	
10.	社会の動き	集合現象とマスメディア	
11.	危機対応	災害心理学	
12.	健康とストレス	ストレスへの対処法	
13.	臨床①	心の病気、心理療法、心理検査	
14.	臨床②	臨床心理学の応用、ストレスマネジメント	
15.	まとめ	大学生活に生かすための心理学	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
レポート	授業内小テスト	授業内課題及びコメントシート	
40%	30%	30%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・普段から人の話をきちんと聞くことを心掛けるようにしてください。 ・また、心理学で学んだことと自分の体験を結び付けて考えておきましょう。 ・授業内でレポート課題を出すのでそこで自分の体験を振り返ること。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学に興味のある人はぜひ受講してください。保育学科は発達心理学、教育心理学で学ぶため、その分野以外を取り上げていきます。 ・授業内でグループワークや課題を行います。積極的に参加してください。 ・大学生活に生かすために心理学を学びたいと思う人は、受講してください。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	美術		
担 当 者 名	都 留 守		
科 目 コ ー ド	2000002	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修

授業の概要と方法
 「対話による美術鑑賞」と「表現活動」を一体化した授業です。『見つめる感じる考える Watch Feel Think』の活動から生まれた各自の意見を交流し合うことで、芸術作品のテーマや作者の思いに迫り、自己の価値観を高め・深め・広げる鑑賞を行います。意見の交流を通して、自己の相対比や他者理解が促されます。学習者が発見し関心をもった課題を全員で考え、共同で知識を構成していく授業です。そして、鑑賞活動を通して得た感動や学びをもとに自由に自己表現します。

授業の到達目標
 「美術を通して豊かな感性をもつ人間形成」を目指す。
 1. 作品鑑賞を通して、見つめる力・感じる力・考える力を養う。
 2. 芸術作品と出会って、見つけた課題を自分の言葉で表現する力を養う。
 3. 他者の意見を受け入れ、自分の見方・感じ方・考え方を高め・深め・広げる。
 4. 鑑賞を通して得た感動や学びをもとに、自己表現をする力を養う。

授 業 計 画

1. オリエンテーション、「トリックアート」色々な見方、感じ方、表し方に出会う。
2. デューラーの作品「祈りの手」を鑑賞し、作品に込めた思いに触れ、鉛筆で「祈りの手」を描こう。
3. 古賀春江「無題」を鑑賞し、その続き話を創作して、水性色鉛筆でミニ紙芝居を描こう。
4. ゴッホについて知り、ゴッホが「ひまわり」に込めた思い・願いを受け止め、「私のひまわり」をオイルパステルで描こう。
5. マティスの作品「ジャズ」を鑑賞し、コラージュの技法で、自分の好きな音楽を表現しよう。
6. ドガの作品「マネとマネ夫人像」を鑑賞し、作品の切り取られた部分を想像してパステルで表現しよう。
7. 田中敦子の作品を鑑賞し、「作品」の主題を手掛かりに、丸い色紙とカラーペンで表現をしよう。
8. 白髪一雄の作品「切利天」を鑑賞し、目に見えない音や動きを表現した表現方法を手掛かりに、絵の具と紙粘土で音や動きを表現しよう。
9. 糸園和三郎の作品「老婦と子ども」を鑑賞し、「老婦と子ども」の表現を手掛かりに、「過去・現在・未来」をモノトーンで表現しよう。
10. 海老原喜之助「靴屋」を鑑賞し、「靴屋」の表現の特徴を手掛かりに「2人の関係」をオイルパステルで表現しよう。
11. ピカソの描いた「90歳の自画像」を鑑賞し、オイルパステルで幼い子どものように自由な描き方で「自画像」を表現しよう。
12. ターナーの作品「解体されるために最後の停泊地に曳かれてゆく戦艦テメレル号」を鑑賞して、ターナーが表そうとしたテーマを手掛かりにして、水性色鉛筆で表現しよう。
13. 浜田 知明の作品「ボタンB」を鑑賞し、浜田 知明が作品に込めた思いを受け止め、コンテパステルで表現しよう。
14. 木下晋「103年の闘争3 2003」に描かれたものを感じ取ろう。
15. 「達磨」と「だるま」について知り、わたしの「だるま」を描き、「美術」のまとめと評価をしよう。

成績評価の方法 [評価項目と割合]

「鑑賞を通して膨らんだイメージを表現する」活動で生まれた作品を評価する	毎時間「振り返りカード」の観点別自己評価をもとに評価する。	毎時間「振り返りカード」の記述（感想など）で評価する。	「作品カード」に書かれたコメントの内容を評価する。
50%	20%	20%	10%

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

- ・授業で学んだ芸術家について、本学の図書館や北九州市立美術館などの美術館に各自で行って調べる。
- ・授業中に疑問に思ったことやもっと知りたいと思ったことを各自で研究する。

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

1. 『見つめる感じる考える Watch Feel Think』=鑑賞学習資料：北九州市立美術館を活用した学習プログラム
2. 『見つめる感じる考える Watch Feel Think』=平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」報告書

その他の (受講生への要望等)	
<p>※授業後、鑑賞した作家や作品について自主的に調べたり、展覧会に行つて鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りカード」を毎時間提出します。 ・「作品鑑賞カード」「作品カード」は、必要に応じて配布します。 ・「鑑賞資料」は、必要に応じて配布します。 ・「スケッチブック」は、全員に配布し、毎時間使用します。 ・作業がしやすい服装で参加してください。 ・絵の具セット、小道具セット (はさみ、のり、カッター、定規など)、硬筆材 (サクラクレパス 12色セット) を各自で用意すると授業に取り組みやすくなります。 	
担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
tsuru@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	国語		
担 当 者 名	増田 夏彦		
科 目 コ ー ド	2000003	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	<p>言葉は、発話者の心や心遣いが表現される大切なものである。日本語の言語としての特徴を知ることは、日本語を正しく効果的に使うためにも重要なことであり、日本文化への理解をより一層深めることにもなる。</p> <p>日本語の基礎を見直しながら、日本語の特徴を探っていく。</p>		
授業の到達目標	<p>敬語・文法・語彙・文字・表記・新しい表現・表現技巧等の基礎を見直しながら、言葉を適切に表現して物事を正確に理解する能力を養成し、言語能力や表現能力の向上を図る。</p> <p>また、国語を通して思考力や想像力を伸ばし、感情を豊かにすることがこの授業の目標である。</p>		
授 業 計 画 (○数字はテキスト付属の演習問題の番号)			
1.	オリエンテーション ……授業についての説明・授業計画。国語表現について。		
2.	会話表現(基礎編) ……敬語の使い方について学ぶ。		
3.	会話表現(基礎編) ……敬語表現について練習を重ね、実践的に学ぶ。①		
4.	会話表現(基礎編) ……言葉の乱れについて学ぶ。		
5.	会話表現(応用編) ……自己紹介の仕方について学ぶ。②		
6.	会話表現(応用編) ……保育の現場での話し方について学ぶ。		
7.	会話表現(応用編) ……就職面接等での話し方について学ぶ。		
8.	文章表現(基礎編) ……平仮名・片仮名の正しい字形について学ぶ。③		
9.	文章表現(基礎編) ……教育漢字の正しい字形について学ぶ。④		
10.	文章表現(基礎編) ……現代表記や用字用語・慣用句について学ぶ。⑤⑥		
11.	文章表現(基礎編) ……漢字の誤用や当て字について学ぶ。⑦		
12.	文章表現(基礎編) ……差別語等や記号について学ぶ。⑧		
13.	文章表現(基礎編) ……重複表現について学ぶ。⑨		
14.	文章表現(応用編) ……原稿用紙のルールについて学ぶ		
15.	文章表現(応用編) ……原稿用紙を用いて、実際に文章を書く。		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢・提出物		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育者になるための国語表現	田上貞一郎	萌文書林	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の中で、適宜紹介していきます。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
<p>※成績評価については、定期試験を行い、授業への取組み姿勢や提出物などを加味して、総合的に評価する。</p> <p>・とにかく社会人になって損をしない、恥をかかない国語力だけは身に付けてください。</p> <p>・テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者(なくした者を含む)には単位を出せません。</p> <p>・テキスト以外にもプリントを配布します。※各自ファイルを用意すること。</p>			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義の前後 10 分間は、小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	文学		
担 当 者 名	増田 夏彦		
科 目 コ ー ド	2000004	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	文学史と有名作品の冒頭および内容から、日本文学を概観する。また、詩歌などの鑑賞も行う。		
授業の到達目標	1) 日本文学の概要を、文学史や有名作品から知る。 2) 詩歌などを鑑賞できる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション……授業の説明・計画, 日本文学史の時代区分と分類		
2.	上代の文学……文学史と作品		
3.	中古の文学……文学史と作品 (韻文学)		
4.	中古の文学……文学史と作品 (散文学)		
5.	中世の文学……文学史と作品		
6.	近世の文学……文学史と作品 (散文学)		
7.	近世の文学……文学史と作品 (韻文学・劇文学)		
8.	近代の文学……文学史と作品		
9.	現代の文学……文学史と作品		
10.	詩歌……詩集・歌集など		
11.	外国の文学……作家と作品		
12.	日本文学冒頭文……古文・現代文		
13.	詩歌……和歌・短歌の鑑賞		
14.	詩歌……俳諧・俳句の鑑賞		
15.	まとめ……講義のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢・提出物		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・講義に出てきた作品は、図書館で探して手に取ってみること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新版二訂 必携国語		第一学習社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の中で、適宜紹介していきます。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
※成績評価については、定期試験を行い、授業への取組み姿勢や提出物などを加味して、総合的に評価する。			
・日本文学の歴史を学ぶことにより、一般常識と精神的な豊かさを身に付けてください。			
また、講義の中で興味のわいた作品は、是非とも通読してみてください。			
・テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者(なくした者を含む)には単位を出せません。			
・テキスト以外にもプリントを配布します。※各自ファイルを用意すること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義の前後 10 分間は、小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	日本国憲法		
担 当 者 名	狭間 直樹		
科 目 コ ー ド	2000005	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修 幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	<p>私たちは日本というひとつの国をつくり、様々なルール、すなわち法律を決めて日々暮らしている。一人ひとりの自由や平等、国を運営していくしくみを定めた法律が日本国憲法である。この授業では、なるべく身近な話題から、憲法のもつ意味や、憲法をめぐる様々な議論を考えていこう。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権や政治に関する用語を適切に理解する。 2. 人権や政治に関する新聞記事やニュース番組に関心をもつ。 3. 人権や政治に関する様々な議論について、自身の考えを深める。 		
授 業 計 画			
1.	個人の尊重		
2.	日本国憲法の構成		
3.	自由権①表現の自由		
4.	自由権②表現の自由とプライバシー		
5.	自由権③信教の自由		
6.	自由権④信教の自由、政教分離原則		
7.	自由権⑤人身の自由		
8.	自由権⑥人身の自由、冤罪		
9.	裁判所のしくみ		
10.	生存権		
11.	生存権、社会保障制度、生活保護		
12.	統治のしくみ①平和主義		
13.	統治のしくみ②国会		
14.	統治のしくみ③内閣		
15.	統治のしくみ④地方自治		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験（筆記試験）			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に資料を配付する。			
参考書又は参考資料等			
・必要に応じて講義中に紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・講義中の私語には厳しく注意する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
hazama@kitakyu-u.ac.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		社会学	
担 当 者 名		栗林 精司	
科 目 コ ー ド	2000006	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の多様な側面を考え、自分の「立ち位置」を知り、生き方を考える。 ・テーマごとに「現実」のデータ事例に基づいて理解していく。 ・講義、板書を中心に授業。 	
授業の到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の社会が歴史的にどう形成されてきたのか、その推移を知る。 2. 将来どうなるか考え、自分が進む方向の一助になる知識を身につける。 3. 現在の社会の問題について一定の理解を持つ。 	
授 業 計 画			
1.	イントロダクション	—社会学について 何が対象か	
2.	社会階層	歴史的な社会階層の変遷、階層行動、自分ほどの階層か	
3.	人口論 (1)	少子高齢化とは その現状	
4.	人口論 (2)	少子化の推移、原因を考える (未婚、晩婚)	
5.	人口論 (3)	高齢化の推移、原因 (寿命など)	
6.	人口論 (4)	少子高齢化の問題、世代間アンバランス、解決策は…	
7.	学校から職業人へ	—高等教育機関への進学率アップ、雇用問題	
8.	流行を考える	—流行語を通して	
9.	豊かな社会と格差「相対」「絶対」	貧困率にみる格差、セーフティネット	
10.	少数者の視点 (1) 障がい者	—弱者からみると社会の本質がうかがえる	
11.	少数者の視点 (2) 在日外国人	—ボーダレス化、国際化が進む日本社会	
12.	成人とは	—成人年齢の考え方、少年法、民法、参政権について	
13.	ジェンダー	—女性の生き方、性差別など	
14.	親密性のワナ	—個人化、孤立化する中で「スマホ」など過剰に親密さを求める姿は…	
15.	幸福・希望について	—生きていくうえでの幸福、その尺度/生きる力を強くするには	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
期末課題レポート		小レポート (加点方式)	
80%		20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義後に課された「重要傾向」についてレポートする。 ・次回テーマを伝えるので、自分にとっての課題を考える。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜資料を配布する。 			
参考書又は参考資料等			
○「少子化白書」「労働白書」日々の新聞記事など			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・重要テーマの講義後に小レポート。 ・期末に課題レポート。 ・毎週配布するレジュメ資料に内容を肉付けすること。 ・社会の旬の話題 (ニュース) に関心を持つこと。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		講義終了後 10 分間は、小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。	

授 業 科 目 名	文化史		
担 当 者 名	恒遠 俊輔		
科 目 コ ー ド	2000007	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	日々の暮らしの中のごく身近な文化にスポットライトをあて、その歴史をたどってみる。そこには先人たちの知恵が隠されていて、我々にとって学ぶことが多い。そして、それは現代という時代が抱えている様々な問題を解く手がかりを与えてくれるものでもある。授業は、資料を配布し、講義と板書を中心に進める。		
授業の到達目標	経済至上主義、科学万能の現代である。それ故、地球環境の破壊は深刻化し、人類は生存の危機に直面している。又、人々の間では経済格差が拡大し、とりわけ社会的弱者にとって生きづらい世相になってしまっている。我々は自身のライフスタイルの見直し、価値観の転換を迫られていると言わなければならないが、授業がそのきっかけづくりになればと思う。		
授 業 計 画			
1.	文化史を学ぶにあたって	……	歴史を学ぶことの意味について考える（よりよい未来創造のために）
2.	男女共同参画社会を旨として	……	性差別の歴史を学ぶ。与謝野晶子の詩を読む。
3.	森の文化考	……	①国土の約70%を占める山や森が育んだ文化について考える。
4.	〃	……	②エコロジーと宗教（特にアニミズムについて考える）
5.	日本の祭り	……	種々の祭を通して日本人にとって神とは何かを考える。
6.	茶の文化と日本人	……	①茶樹栽培と喫茶の歴史
7.	〃	……	②茶道と日本の文化
8.	江戸文化を考える	……	①未来につなげてはならない江戸文化
9.	〃	……	②未来につなげたい江戸文化
10.	相撲の歴史	……	①相撲の歴史をたどる。
11.	〃	……	②相撲にみる宗教性（呪術・鎮魂）について考える。
12.	暦について	……	暦のなりたち、年中行事について
13.	日本人の死生観	……	①仏教の浄土信仰について
14.	〃	……	②死の準備教育（終活）の必要性について
15.	まとめ		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	小テスト及び授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
我々は様々な情報を簡単に入手できる時代に生きている。 好奇心を旺盛にして身の周りの文化のルーツについて、自ら調べてみる姿勢を養ってほしい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に、適宜資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tuneto1225@hi2enjoy.ne.jp		kubotesan.1225@ezweb.ne.jp	

授 業 科 目 名	情報処理学		
担 当 者 名	林 勝裕		
科 目 コ ー ド	2000008	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修 幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	<p>本講義では、コンピュータ操作とインターネットを利用した情報処理に慣れ、日常生活や仕事の中で有効活用するための情報活用能力を身につけます。</p> <p>幼児教育活動での利用が予測されるアプリケーションソフトウェアの実践的活用ができるように、演習課題では教育現場に即した内容を想定しています。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows の基本操作ができ、ネットワーク端末としてのコンピュータを利用し、電子メールの基礎的使用方法、Web 検索の簡単な方法など、インターネットを使用した正しい情報の収集・加工ができる。 ・ Word を使用して文書整形を文章入力、文字の装飾、ページレイアウト、作表、図形挿入ができる。 ・ Excel を使用して数値データ処理、表整形、関数の使用、グラフ作成ができる。 ・ Power point を使用してプレゼンテーション資料の作成ができる。 		
授 業 計 画			
1.	コンピュータの基礎：コンピュータの仕組み、ハード・ソフトウェア、OS 等		
2.	Windows の基本操作：マウスの操作、ウィンドウの操作、日本語入力		
3.	インターネットの有効利用：インターネットの概要、情報の検索・加工等		
4.	電子メールの仕組みと設定：電子メールの仕組みと学内でのメール利用環境設定		
5.	電子メール演習：ビジネス様式の電子メール演習		
6.	(Word)基本操作演習 1：文章入力、文字の設定変更、描画オブジェクト、図形描写		
7.	(Word)基本操作演習 2：テキストボックス、特殊効果文字、クリップアート		
8.	(Word)課題作成 1：ペイントの基本操作、「園だより」課題作成		
9.	(Word)課題作成 2：「園だより」課題提出（印刷物・メール貼付・ファイル COPY）		
10.	(Power point)基本操作 1：プレゼンテーションの基礎、図形挿入、アニメーションの設定、画面切り替え「園だより」の素材（データ）を使って課題作成		
11.	(Power point)基本操作 2：プレゼンテーションの基礎、図形挿入、アニメーションの設定、画面切り替え「園だより」の素材（データ）を使って課題提出		
12.	(Excel)基本操作演習 1：データ入力の基礎計算式、書式の変更、Word に Excel の表を貼り付け		
13.	(Excel)基本操作演習 2：オートフィル、基本的関数、罫線、グラフ等		
14.	(Excel)実技試験		
15.	(Excel)基本操作演習 3：「児童台帳」、「日々の記録の例」作成		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	Word・Excel の課題	Power point の課題	Excel の実技試験
40%	40%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・ 基礎から応用まで幅広い内容となっていますので、毎回の講義の復習は必須です。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
情報処理入門 Windows 7 版 - Office2013 対応 -	システムテクニカルサービス（株）	システムテクニカルサービス（株）	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
・ 授業の後半になると課題作成が多くなりますので、提出期限に遅れないようにすること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
kat-hayashi@healthcare-m.ac.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		人間科学	
担 当 者 名		塩田 光重	
科 目 コ ー ド	2000009	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	「人とは何か」という問題に科学的に取り組んでみよう。我々のなじみ深い自然科学が人間以外の物質・エネルギー・生物の科学、そして社会科学が人間社会の科学、人文科学が人間の文化の科学であるのに対し、人間科学は複雑極まりない人間そのものを対象とする科学である。人間の幸福とは何かについても考える。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の働きを理解する。 2. 脳の働きを理解する。 3. 幸福の意味を考える。 4. 人類移動の歴史を理解する。 5. 生物進化の歴史を理解する。 		
授 業 計 画			
1.	人間科学とはなにか		
2.	分子生物学の幕開け		
3.	人間の二つの情報世界		
4.	出アフリカ 遍歴 20 万年		
5.	脳はいかに進化したか		
6.	脳の基本構造、脳内物質		
7.	男と女		
8.	グローバルな世界		
9.	「国家の品格（藤原正彦）」を読む		
10.	「銃・病原菌・鉄（ジャレド・ダイヤモンド）」を読む		
11.	脳の報酬系		
12.	「幸福」を考える		
13.	免疫 38 億年の物語		
14.	iPS 細胞		
15.	動的平衡		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業への取組み姿勢		レポート	
50%		50%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・随時、参考資料を紹介しますので、予習して頂きたい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
・講義中に適宜資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ○「養老孟司の人間科学講義」養老孟司（筑摩書房） ○「国家の品格」藤原正彦（新潮新書） ○「銃・病原菌・鉄」ジャレド・ダイヤモンド（草思社） 			
そ の 他（受講生への要望等）			
・実際に社会で起き、報道される人間の諸行動についても、何故かと考えて見よう。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
mitprinshiota@gmail.com		講義前 10 分間非常勤講師室にて質問等対応可。	

授 業 科 目 名		地球と生命	
担 当 者 名		高井 真夫	
科 目 コ ー ド	2200003	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修
授業の概要と方法	<p>科学の進歩のお陰で我々の生活も豊かなものとなってきた。しかし、その反面、地球環境問題などの新たな課題も発生し、このままでは近い将来、地球の自然環境は悪化し、人類のみならずあらゆる生物が存亡の危機にさらされてしまうのではないかと心配されている。そこでこの授業では、我々人類にとってかけがえのないこの地球について、現在の姿と過去の歴史、生命の誕生と進化、環境問題などのテーマを柱に、幅広い自然科学の常識をわかりやすく解説し、地球の環境を保護し、維持することの重要性、命の大切さについて理解を深める。併せて、自然界に対する総合的(科学的)な見方、考え方の全体像を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の環境を保護し、維持することの重要性、及び命の大切さについて自主的に考える能力を身につける。 ・自然科学の考え方、方法を理解し、保育者を目指す学生として知っておいて欲しい自然科学(地球惑星科学)に関するさまざまな基礎知識を習得する。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション	授業内容全体の説明	
2.	自然科学とは	自然科学の考え方	
3.	宇宙について	宇宙の誕生と銀河系の誕生	
4.	太陽系について 1	太陽系の誕生	
5.	太陽系について 2	太陽系の構造と惑星	
6.	惑星としての地球 1	地球誕生と地球の構造	
7.	惑星としての地球 2	地球の変動と地表の変化	
8.	生命の起源と誕生 1	生命の起源について	
9.	生命の起源と誕生 2	生命誕生について	
10.	地球誕生・生命誕生	これまでのまとめとしてビデオで紹介	
11.	生物の進化	生物の進化、進化論、生物の分類	
12.	生物としてみたヒト	ヒトを構成する生元素及び物質について	
13.	地球環境問題とヒト 1	地球環境問題の紹介、解説	
14.	地球環境問題とヒト 2	地球環境問題が人類（生物）へ及ぼす影響を考える	
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
定期試験		授業への取組み姿勢	
80%		20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・日頃から自然科学に関するテレビ番組、新聞記事、科学雑誌などには興味を示しておいて欲しい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
・講義中に適宜、資料を配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
・保育者を目指す学生として知っておいて欲しい自然科学に関する基礎的な事項をできる限りやさしく解説するが、段階的に授業を進めるため、欠席すると不利になるので注意すること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
takai@hcc.ac.jp		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名		国際理解	
担 当 者 名		竹並 正宏	
科 目 コ ー ド	2000010	授 業 形 態	※講義と研修
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	<p>本学は、平成13年に韓国・釜山女子大学と姉妹校締結をした。教育目標として、学生達のより積極的な国際意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで国際的感覚を持った人材を育成することをテーマに、釜山女子大学は建学の理念である現代の韓国社会の要請に応ずる人材の育成と徳性教育により、創意、誠実、礼節をそなえた明るく礼儀正しい人材を育て上げる教育に重点を置いた大学である。日韓の文化を相互に理解し、韓国語をトータルに学び、いかに実践的に活用できるかを目的とする。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 学生達のより積極的な参加意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで、国際的感覚を持った人材に成長しようとする姿勢が身に付いている。 2. 日本と韓国との文化を相互に理解して、また韓国語をトータルに学び、その学んだことをいかに実践的に活用できる姿勢が身に付いている。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション……国際交流の目的について		
2.	マナーについて……目上に対する挨拶の仕方（会話）・挨拶の仕方		
3.	韓国の教育について……学歴社会の特徴（会話）・挨拶の仕方		
4.	韓国の食生活について……韓国料理と食文（会話）・数の数え方①		
5.	韓国の自然について……各都市の把握とオンドル（会話）・数の数え方②		
6.	韓国の交通について……地下鉄やタクシーの乗り方（会話）買い物での会話①		
7.	韓国の姓氏について……父系の血統（会話）・買い物での会話②		
8.	韓国の家屋について……建築と町並み（会話）・買い物での会話③		
9.	韓国の年中行事について……年間の風習（会話）・時間と曜日①		
10.	韓国の経済について……同族的経営（会話）・時間と曜日②		
11.	韓流スターについて……日本における韓流（会話）・ホテルでの会話①		
12.	日韓の歴史について……韓国人の対日観①（会話）・ホテルでの会話②		
13.	日韓の文化交流について……韓国人の対日観②（会話）・場面別会話①		
14.	渡航手続きについて……最終日程の説明指導（会話）・場面別会話②		
15.	結団式		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
報告書	研修中の態度	授業への取組み姿勢	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>・国際化の取り組みの中で、海外で日本人としての自覚に基づき目的や状況に応じた適切な言動をとることが重要であることを認識して臨む。</p>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
・プリントを配布（テレビでハンゲル講座等）			
参考書又は参考資料等			
○「韓国入門」山本剛士（三省堂選書）			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>・定期試験は実施しない。担当教員が、事前学習の受講態度、研修中の状況及び研修終了後の報告書(レポート)を総合的に評価する。 ・テレビでハンゲル講座などの視聴覚を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 ・学生達のより積極的な参加意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで、国際的感覚を持った人材に成長しようとする姿勢が身に付くように世界で起きている諸問題に目を向けて授業に臨んでほしい。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	英語 I		
担 当 者 名	梅崎 義雄 ・ 高野 裕子		
科 目 コ ー ド	2000017	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>チャプター毎のテーマにあった頻出用語を正しい英語の音で発音することによりリスニング力をあげる。各テーマについて書かれた英文を読み、その読解能力を養う。コミュニケーションに必要なフレーズを会話形式で練習する。以上により、保育の現場での英語コミュニケーション能力を養う。また、会話では欠かせない英文作成能力を高めるため、基本的な英文法を TOEIC 用副教材で学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<p>① 保育関連の英単語を発音し聞き取れる。 ② 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが使えるようになる。 ③ 様々な保育に関する英文を読むための基礎文法をマスターしながら、TOEIC の解答力アップにつなげる。</p>		
授 業 計 画			
1.	“The School Year Begins” ①Words&Idioms, Useful Expressions		
2.	“The School Year Begins” ②Listening, Exercises		
3.	“Arrival” ①Words&Idioms, Useful Expressions		
4.	“Arrival” ②Listening, Exercises		
5.	“Playtime in the Classroom” ①Words&Idioms, Useful Expressions		
6.	“Playtime in the Classroom” ②Listening, Exercises		
7.	“In the Sandbox” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
8.	“In the Playground” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
9.	Grammar 1 一般動詞・be 動詞		
10.	“Lunchtime” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
11.	“Changing Clothes ” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
12.	“Nap Time” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
13.	“Blowing Bubbles” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
14.	“A Sick Child” Words&Idioms, Useful Expressions, etc.		
15.	Grammar 2 疑問文・否定文・命令文		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト	授業への取組み姿勢	
50%	25%	25%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<p>・小テストとして、各単元終了時に Words&Idioms 及び Useful Expressions にでた英単語や英文を、口述、あるいは、シャドーイング (教師に続いて口述) してもらうので、準備してくる。</p>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
English for Nursery Schools and Kindergartens [revised]	森田和子	三修社 2010 年	
TOEIC TEST 英文法 出るところだけ		アルク	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<p>※成績評価については、授業中に行う小テストと定期試験を行い、総合的に評価する。 ・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参すること。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	英語 II		
担 当 者 名	梅崎 義雄 ・ 高野 裕子		
科 目 コ ー ド	2000018	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	引き続き、チャプター毎のテーマにあった頻出用語を正しい英語の音で発音することによりリスニング力をあげる。各テーマについて書かれた英文を読み、その読解能力を養う。コミュニケーションに必要なフレーズを会話形式で練習する。以上により、保育の現場での英語コミュニケーション能力を養う。また、会話では欠かせない英文作成能力を高めるため、基本的な英文法を TOEIC 用副教材で学ぶ。		
授業の到達目標	① 保育関連の英単語を発音し聞き取れる。 ② 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが使えるようになる。 ③ 様々な保育に関する英文を読むための基礎文法をマスターしながら、TOEIC の解答力アップにつなげる。		
授 業 計 画			
1.	“Preparation for the Sports Day” ①Words&Idioms, Useful Expressions		
2.	“Preparation for the Sports Day” ②Listening, Exercises		
3.	“The Sports Day” ①Words&Idioms, Useful Expressions		
4.	“The Sports Day” ②Listening, Exercises		
5.	“Going for a Walk” ①Words&Idioms, Useful Expressions		
6.	“Going for a Walk” ②Listening, Exercises		
7.	“Discovering Autumn”		
8.	“Drawing & Letter Writing”		
9.	Grammar 3 前置詞		
10.	“A Snowy Day”		
11.	“Leaving for Home”		
12.	“School Diary”		
13.	“Bean-Throwing Day”		
14.	“With Thanks for a School Year”		
15.	Grammar 4 疑問詞を使った疑問文		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト	授業への取り組み姿勢	
50%	25%	25%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・小テストとして、各単元終了時に Words&Idioms 及び Useful Expressions にて英単語や英文を、口述、あるいは、シャドーイング (教師に続いて口述) してもらうので、準備してくる。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
English for Nursery Schools and Kindergartens [revised]	森田和子	三修社 2010 年	
TOEIC TEST 英文法 出るところだけ		アルク	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、授業中に行う小テストと定期試験を行い、総合的に評価する。 ・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参すること。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	スポーツ健康科学 I		
担 当 者 名	石原 勇次郎		
科 目 コ ー ド	2000019	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	講義においては、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。特に「スポーツ健康科学 I」では自身の身体の状態を把握・理解することに注力する。また、実技においては、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、自らが主体的な姿勢で取り組み、各種スポーツのルールを理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解する。本科目を通して保育者として必要な資質能力を講義と実践を通して高める。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の身体の状態を把握・理解する。 2. 健康の維持・増進の為の知識を得る。 3. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。 4. スポーツのルールを理解した上で、自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。 5. 保育者として必要な使命感や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解を高めることができる。 		
授 業 計 画			
1.	実技 オリエンテーションおよび学内レクスポ大会に向けた練習①		
2.	実技 学内レクスポ大会に向けた練習②（出場種目の練習）		
3.	実技 体力測定①（成人期を前にした身体状態の把握）		
4.	実技 体力測定②（持久力の測定と私生活における運動習慣と食生活の調査）		
5.	実技 ニュースポーツ①（ドッチビーにおけるルールと基本テクニックの理解と習得）		
6.	実技 ニュースポーツ②（試合）		
7.	実技 フットサル①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
8.	実技 フットサル②（基礎練習と試合）		
9.	実技 バトミントン①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
10.	実技 バトミントン②（基礎練習とダブルス試合）		
11.	実技 バトミントン③（ダブルス試合）		
12.	実技 選択種目①（スポーツ健康科学 I で経験した種目からクラスで選択）		
13.	実技 選択種目②（スポーツ健康科学 I で経験した種目からクラスで選択）		
14.	講義 運動やスポーツの魅力（必要性和楽しさの仕組み）		
15.	講義 心身の発育発達（発育発達に必要な運動の理解と前期のまとめ）		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業への取り組み姿勢	講義毎の小レポート	理解度確認小テスト	ゲーム結果
60%	20%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・前期最後の講義にて小テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。 ・新聞等を読み、日頃からスポーツ、健康に関する情報を収集するよう努めること。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>※成績評価について、授業態度評価は授業後に記入する自己評価表と教員による評価を合わせたものとする。</p> <p>①講義を行う際は前週までに掲示をするので、各自確認を行い、指定された講義室に筆記用具を持って集合すること。毎回の授業では資料を配布し記述をしてもらいます。授業の終わりに感想や意見を記述する小レポートを課します。</p> <p>また、前期まとめの際に、配布資料をもとにした理解度確認小テストを実施するので、各自資料の管理を行い受講すること。</p> <p>②実技は基本的に第一体育館で実施しますが、場所の変更が生じる際は前週に告知をします。実技の際はピアス、アクセサリ等はずして集合し、運動に適した服装と運動靴（体育館では指定されたシューズ）を着用すること。</p> <p>尚、体調不良により実技に参加できない場合は速やかに担当教員に申し出ること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ishiharay@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	スポーツ健康科学 II		
担 当 者 名	石原 勇次郎		
科 目 コ ー ド	2000020	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>「スポーツ健康科学II」では、原則的に「スポーツ健康科学I」を習得してから履修するものとする。講義においては、スポーツ健康科学Iに引き続き、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。また、実技では、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、各種スポーツのルールを理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解し、自らが主体的な姿勢で実践する。本科目を通して、保育者として必要な資質能力を講義と実践を通して高める。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持・増進の為の知識を得る。 2. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。 3. スポーツのルールを理解した上で、自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。 4. 運動の楽しさを知り、運動を習慣化できる。 5. 保育者として必要な使命感や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解を高めることができる。 		
授 業 計 画			
1.	講義 オリエンテーション		
2.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
3.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール②（基礎練習と試合）		
4.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール③（応用練習と試合）		
5.	実技 バレーボール・ソフトバレーボール④（試合）		
6.	実技 バスケットボール①（ルールと基本テクニックの理解・習得）		
7.	実技 バスケットボール②（基礎練習と試合）		
8.	実技 バスケットボール③（応用練習と試合）		
9.	実技 バスケットボール④（試合）		
10.	実技 選択種目①（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
11.	実技 選択種目②（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
12.	実技 選択種目③（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
13.	実技 選択種目④（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択）		
14.	講義 運動やスポーツの効果と安全（心身への影響）		
15.	講義 将来を見据えた運動への取り組み（体力テストの結果とまとめ）		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業への取り組み姿勢	講義毎の小レポート	理解度確認小テスト	ゲーム結果
60%	20%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・後期最後の講義にて小テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。 ・新聞等を読み、日頃からスポーツ、健康に関する情報を収集するよう努めること。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>※成績評価について、授業態度評価は授業後に記入する自己評価表と教員による評価を合わせたものとする。</p> <p>①講義を行う際は前週までに掲示をするので、各自確認を行い、指定された講義室に筆記用具を持って集合すること。毎回の授業では資料を配布し記述をしてもらいます。授業の終わりに感想や意見を記述する小レポートを課します。</p> <p>また、前期まとめの際に、配布資料をもとにした理解度確認小テストを実施するので、各自資料の管理を行い受講すること。</p> <p>②実技は基本的に第一体育館で実施しますが、場所の変更が生じる際は前週に告知をします。実技の際はピアス、アクセサリ等はずして集合し、運動に適した服装と運動靴（体育館では指定されたシューズ）を着用すること。</p> <p>尚、体調不良により実技に参加できない場合は速やかに担当教員に申し出ること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ishiharay@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		音 楽 I	
担 当 者 名		瓦 林 他	
科 目 コ ー ド	2200060	授 業 形 態	演 習
学 年	1	開 講 期	前 期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>「音楽 I」では、養成校として基本的に「基礎技能」であり教科として関連のある「保育の内容・方法の理解」に基づく科目である。「音楽 I」では、授業構成として①ピアノ基礎技術②理論（前期）③声楽（前期）から構成されている。授業の展開として本学では 2 コマで設定され、前半 90 分がピアノ基礎技術の個人指導。後半 90 分の声楽では、園児と一緒に歌えることを第一に考え、基礎的な発声を習得しながら身体表現（ボディパーカッション）についても学びます。そこで「音楽 I」では、子どもと直接的な関わりの中で主体化された内容の教材であり、保育を展開する上での基礎的な方法や技術、そのために必要な教具・教材等に関する知識や技能、保育の環境構成や援助のあり方等、現場における音楽に関する基礎的な技術を身につけなければならない。</p>		
授業の到達目標	<p>①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づき保育現場で生かすために、「音楽 I」では音楽的基礎技術を身につけると共に音楽的能力と表現力並びに音楽的感性を高めることを目標とする。 ②保育者として子どもの発達段階に応じた音楽的表現を子どもの歌と一緒に身体的表現活動（ボディパーカッション）しながら基礎的なリズムを修得することを目標とする。また、基礎的知識と技術を修得することで保育現場において保育者としての使命感、責任、愛情を持って支援できる能力を身につけることを目標とする。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：ピアノの受講目的と心構え並びにグレード表の説明。学生のピアノ進捗状況確認。音楽理論（ピアノ教本についての音符、テンポ、リズム、表情記号等について指導）声楽（現場において活躍できるだけの発声能力を身に付けさせる）		
2.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論 2（音符について）・声楽（音階での発声）2。		
3.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（記号・リズムについて）・声楽（音階での発声）3		
4.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（音名について）・声楽（コーユープンゲンの練習）4		
5.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（音階について）・声楽（コーユープンゲンの練習）5		
6.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（記号について）・声楽（コーユープンゲンの練習）6。		
7.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（臨時記号について）・声楽（コーユープンゲンの練習）7。		
8.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（異名同音について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）8。		
9.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（記号、調号について・リズム）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）9。		
10.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（和音について・リズム）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）10。		
11.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（合奏について①）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）11。		
12.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（合奏について②）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）12。		
13.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（移調について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）13。		
14.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（移調について）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）14。		
15.	ピアノの基礎技術を学ぶ：「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）I による個人指導。音楽理論（まとめ）・声楽（こどものうた・ボディパーカッション）15。		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	事前・事後学習状況		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の練習が技術向上に結び付き事前及びレッスン終了後の練習をする。 ・前期の試験に向け、ピアノは試験曲を暗譜。音楽理論をまとめる。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
Let's play the BEYER	荒井弘高 監修	圭文社	
最新ピアノマーチアルバム	中目徹 監修	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実	チャイルド社	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
※成績評価については、日常の事前・事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）・405 室（黒川）にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音 楽 II		
担 当 者 名	瓦 林 他		
科 目 コ ー ド	2200061	授 業 形 態	演 習
学 年	1	開 講 期	後 期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	「音楽Ⅱ」では、養成校として基本的な「音楽の基礎技術」を修得し、ピアノの基礎技術向上に向けて個人指導を行う。そこで「音楽Ⅱ」では、保育現場において子どもとの直接的な関わりの中でピアノを生かすために、また保育を展開する上で基礎的な方法や技術、保育の環境構成や援助のあり方等を含め音楽に関する基礎的音楽的表現能力を身につければならない。		
授業の到達目標	<p>① 幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づき保育現場で生かすために、「音楽Ⅱ」では音楽的基礎技術を身につけると共に音楽的能力と表現力並びに音楽的感性を高めることを目指す。さらに、高度なピアノ技術習得に向けて総合的に学習することを目標とする。</p> <p>② 更に、上級者については保育者として子どもの発達段階に応じた音楽表現に関する基礎的な知識と技術向上に向けて修得することを目指す。同時に、保育現場において保育者としての使命感、責任、愛情を持って支援できる能力を身に付けることを目標とする。</p>		
授 業 計 画			
1.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
2.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
3.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
4.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
5.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
6.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
7.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
8.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
9.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
10.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
11.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
12.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
13.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
14.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
15.	ピアノの基礎技術を学ぶ：進度に応じて「STEP BY STEP」のステップⅡを中心に 51 番～73 番の修得を目指す。		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
Let's play the BEYER	荒井弘高 監修	圭文社	
最新ピアノマーチアルバム	中目徹 監修	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実	チャイルド社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
※成績評価については、日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）・405 室（黒川）にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音 楽 III		
担 当 者 名	瓦 林 他		
科 目 コ ー ド	2200062	授 業 形 態	演 習
学 年	2	開 講 期	前 期
単 位 数	1	履 修 方 法	保 育 士 選 択
授 業 の 概 要 と 方 法	<p>「音楽Ⅲ」では、授業内容として①幼児唱歌②マーチ③自由曲（ブルグミュラー等）で構成され 90 分で実施している。但し、この教科は幼稚園教諭免許・保育士資格に必要な単位の選択科目として本学では設定している。また、幼稚園教諭・保育士として現場において音楽的表現活動が円滑に行われるよう、その音楽的能力を高めることを目指している。本学では基本的に必修選択として位置づけている。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>① 音楽の授業を通して、幼稚園教育要領及び保育所保育指針とのつながりを重視し、「音楽Ⅲ」で身に付けた音楽技術を持って、かつ磨かれた音楽的能力及び表現力を保育現場において確実に円滑に表現活動ができることを目標とする。</p> <p>② 更に、子どもたちに対して、自然に音楽的表現活動が可能となるようなピアノ技術能力を高めることを目標とする。</p>		
授 業 計 画			
1.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」ステップⅢを中心に一覧表によるピアノ個人指導。		
2.	ピアノ技術指導（応用編）：幼児唱歌を習得するための作品の音楽性、表情及び歌い方について指導する。		
3.	ピアノ技術指導（応用編）：マーチ及び幼児唱歌については、リズム、テンポ、曲の表情について指導する。		
4.	ピアノ技術指導（応用編）：ブルグミュラー等については、作品の要求されるテクニックについて指導する。		
5.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌及びマーチの修得を目指す。		
6.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
7.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
8.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
9.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
10.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
11.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
12.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
13.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
14.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
15.	ピアノ技術指導（応用編）：「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。		
成 績 評 価 の 方 法	〔評価項目と割合〕		
定期試験	授業への取り組み姿勢		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習	（準備学習・事後学習等）		
・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
最新ピアノマーチアルバム	中目徹 監修	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実	チャイルド社	
ブルグミュラー25の練習曲	ブルグミュラー	全音楽譜出版社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。			
そ の 他	（受講生への要望等）		
※成績評価については、日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）・405 室（黒川）にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音楽 IV		
担 当 者 名	瓦林 他		
科 目 コ ー ド	2200063	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	「音楽IV」では、授業内容として①幼児唱歌②マーチ③自由曲（ブルグミュラー等）で構成され 90 分で実施している。但し、この教科は幼稚園教諭免許・保育士資格に必要な単位の選択科目として本学では設定している。また、2年後期では保育者として現場に赴くことになるので音楽的表現活動が更に円滑に行われるよう、その音楽的能力を高めることを目指している。本学では基本的に必修選択として位置づけている。		
授業の到達目標	① 音楽の授業を通して、幼稚園教育要領及び保育所保育指針とのつながりを重視し、2年後期に設定された「音楽IV」で身に付けた音楽技術を持って、かつ磨かれた音楽的能力及び表現力を保育者として保育現場において確実に円滑に表現活動ができることを目標とする。 ② 更に、子どもたちに対して、自然に音楽的表現活動が可能となるようなピアノ技術能力を高めると同時に子供たちへの音楽的環境づくりができるよう指導の目標とする。		
授 業 計 画			
1.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
2.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
3.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
4.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
5.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
6.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
7.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
8.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
9.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
10.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
11.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
12.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
13.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
14.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児消化及びブルグミュラーの修得を目指す。		
15.	ピアノ技術指導（応用編）：学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
最新ピアノマーチアルバム	中目徹 監修	音楽之友社	
こどものうた 200	小林美実	チャイルド社	
ブルグミュラー25の練習曲	ブルグミュラー	全音楽譜出版社	
参考書又は参考資料等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。			
そ の 他（受講生への要望等）			
※成績評価については、日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）・405 室（黒川）にて質問・応答を受ける。		

授 業 科 目 名	音楽演習		
担 当 者 名	藤松 純子 (合奏) ・ 佐々木 敦子 (わらべうた)		
科 目 コ ー ド	2200072	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	<p>【わらべうた】 「わらべうたは」は、子どもの遊びが心の中から生まれた歌である。従って、「わらべうた」は乳幼児期の音楽のあり方を考えるための示唆を与えてくれる。 本授業では、豊かな実践力を持った保育者となるために、「わらべうた」を通して、子どもたちに、どのようにかかわっていけば良いのかを具体的に学ぶことに重点を置く。</p>		
	<p>【合奏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概要は、発表会で練習の成果を発表したり、リズム遊びや小編成でのアンサンブルを体験する中で子ども又は保育現場での合奏指導について考える。 ・ 楽器を奏でる楽しみや、アンサンブルをする楽しさを体感し、保育者として豊かな感性を育み、表現力の向上を図ることを目標とする。 		
履修上の注意等	<p>※「音楽演習」は通年科目であるが、「わらべうた」を半期、「合奏」を半期として開講をする。従って、「音楽演習」の単位修得には「わらべうた」15回、「合奏」15回の受講が必要となる。また、出席回数については原則として「わらべうた」及び「合奏」を半期の科目として取扱う。</p>		
授業の到達目標	<p>【わらべうた】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に歌いながら体験し、「わらべうた」を知る。 2. 「わらべうた」を通して、子どもとのコミュニケーションを深められるようになる。 3. 「わらべうた」を通して歌唱能力、リズム感、聴感などの保育者としての音楽的基礎の向上をはかる。 4. 保護者にも「わらべうた」での子育ての楽しさを伝えられるようになる。 		
	<p>【合奏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種楽器の扱い方や奏法、基礎的な指揮法、音によるコミュニケーションの取り方、円滑なリハーサルの計画と進め方を習得する。 		
授 業 計 画 ※			
わらべうた		合奏	
1.	わらべうたとはなにか	16.	オリエンテーション/楽器の説明と取り扱いについて
2.	わらべうたの実践 (幼児) 鬼きめ、しぐさあそび、役交代あそび	17.	打楽器の奏法①スティックを使用して演奏する大きな楽器
3.	わらべうたの実践 (幼児) 門くぐり、鬼ごっこ、隊列をくむあそび	18.	打楽器の奏法②スティックを使用して演奏する小さな楽器
4.	わらべうたの実践 (幼児) かぞえうた、じゃんけんあそび、手あそび	19.	打楽器の奏法③鍵盤打楽器
5.	わらべうたの実践 (乳児) 体あそび、手あそび、指あそび、顔あそび	20.	アンサンブル①譜読み、練習
6.	わらべうたの実践 (乳児) 舟こぎあそび、膝のせあそび、腕あそび	21.	アンサンブル②発表
7.	わらべうたの実践とタッチケア (乳児)	22.	タンバリンを使つての隊列移動をしながらの表現① 譜読み、練習
8.	わらべうたの実践とタッチケア (親子用・子育て支援用)	23.	タンバリンを使つての隊列移動をしながらの表現②練習
9.	子どもに聞かせてあげる (こもりうた) (季節のうた) (行事のうた)	24.	タンバリンを使つての隊列移動をしながらの表現③発表
10.	わらべうたの実践と音楽的ねらい (拍とは) (リズムとは) (はやい、ゆっくりとは)	25.	ミュージックベルを使つての表現①譜読み、練習
11.	わらべうたの実践と音楽的ねらい (大小とは) (高低とは) (内的聴感とは) (音色の区別)	26.	ミュージックベルを使つての表現②発表
12.	わらべうたをカノンでうたう＝声局でうたう	27.	発表会に向けて①選曲と構成、練習
13.	グループで鑑賞曲を発表する	28.	発表会に向けて②練習
14.	グループで保育計画を考え発表する	29.	発表会のリハーサル
15.	まとめ/保育とは	30.	発表会での発表

成績評価の方法 [評価項目と割合]				
わらべうた			合奏	
授業への取組み姿勢	実技	レポート	定期試験	発表
40%	30%	30%	40%	60%
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)				
【わらべうた】: 配布されたプリント曲を事後、必ず復習してくること。				
【合奏】: 授業で譜読みした項目について、各自で練習してから次の授業にのぞむこと。				
使用テキスト				
書籍名	著者		出版社	
・講義中に適宜、資料を配布する。				
参考書又は参考資料等				
【わらべうた】				
○「幼稚園教育要領」				
○「保育所保育指針」				
○「幼保連携認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)				
○「幼稚園・保育園のわらべうたあそび」(明治図書)				
○「わらべうたと子ども」(古今社)				
その他の (受講生への要望等)				
【わらべうた】				
・実際に体を動かし、歌いながら遊ぶことを通して学ぶ				
・上述のとおり、配布されたプリント曲を事後必ず復習してくること。				
・動きやすい格好をして授業にのぞむこと。				
担当教員の連絡先等				
担当教員 E-mail			その他	
【合奏】: junkofujimatsu@gmail.com (藤松)			【わらべうた】: 授業終了後 10 分間は講義室にて待機。	

授 業 科 目 名		図画工作	
担 当 者 名		都 留 守	
科 目 コ ー ド	2200010	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、豊かな情操を養うことを目指して授業を行う。</p> <p>(授業の概要) 1年間を通して、材料・用具・表現方法・テーマなどと出会い、発想を広げ、構想を練り、表現の見通しを立て、表現活動を行う。作品完成後に作品鑑賞会をする。毎時間「振り返りカード」で自己評価をする。毎時間繰り返すことで、豊かな情操を養う授業を行う。</p> <p>前期では、オイルパステル、水彩絵の具によるモダンテクニックを活用した平面での表現活動に取り組む。また、共同制作の喜びを味わうようにする。</p> <p>後期では、手袋・和紙・糊・綿棒・新聞紙・水・紙粘土など身近な材料を活用した立体表現に取り組む。また、共同制作の喜びを味わうようにする。</p>		
授業の到達目標	<p>(通年目標)「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、感性をはたらかせ、つくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養う。保育者として必要な「造形への意欲・関心・態度」「発想・構造の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の育成を目指す。</p> <p>(前期目標) モダンテクニックを使って偶然できた色や形から発想を膨らませて構想を練り、表現する力を育成すると共に表現の喜びを味わわせる。パネルシアターをグループで制作することにより共同制作する力を育成すると共に制作の喜びを味わわせる。</p> <p>(後期目標) 目的や用途に合わせて素材を選び、つくり方を工夫し、色・形・素材の特性を生かした組み合わせを考えて表現をする力を育成する。と共にその喜びを味わわせる。グループ活動を通して認め合い・励まし合い・高め合う喜びを味わわせる。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション (本授業の目的、目標、授業内容・計画、評価方法など) 両面カーボン紙を使って「広がる模様」を描こう	16.	後期のシラバスについて知り、見通しをもとう 手袋人形をつくろう① デモンストレーションを見て、手袋人形作りの計画をたてよう
2.	オイルパステルで「ぼかし遊び」をしよう	17.	手袋人形をつくろう② 手袋人形をつくろう
3.	オイルパステルで「ステンシル遊び」をしよう	18.	手袋人形をつくろう③ 発表会をしよう
4.	「スクラッチ遊び」をしよう ① オイルパステルで下塗りをした上からアクリル絵の具を塗り、スクラッチ遊びの準備をしよう	19.	和紙でランプシェードをつくろう① ランプシェードの土台をつくろう
5.	「スクラッチ遊び」をしよう ② 竹串や割りばしペンで絵を描こう	20.	和紙でランプシェードをつくろう② 土台に水糊で和紙を貼ろう
6.	「スクラッチ遊び」をしよう ③ 作品カードのコメントを書いて鑑賞会をしよう	21.	和紙でランプシェードをつくろう③ 中身を抜いて、ランプシェードにあかりを灯そう
7.	「マーブリング遊び」をしよう	22.	紙粘土で遊ぼう① 紙粘土 (Kクレイ) でペットボトルを飾ろう
8.	「マドレー遊び」をしよう	23.	紙粘土で遊ぼう② 紙粘土 (Kクレイ) で絵を描こう
9.	モダンテクニックを使った「絵の具遊び」をしよう	24.	新聞紙でクリスマスツリーをつくろう① 新聞紙を棒にして骨組みをつくろう
10.	「マーブリング・マドレー・絵の具遊び」でできた画用紙でコラージュをしよう	25.	新聞紙でクリスマスツリーをつくろう② お花紙などを使って飾りをつけて完成しよう
11.	パネルシアターをつくろう① パネルシアター鑑賞・制作計画	26.	新聞紙でクリスマスツリーをつくろう③ 作品鑑賞会をしよう
12.	パネルシアターをつくろう② 下書き・彩色	27.	綿棒で立体をつくろう 綿棒をペーパーセメントで接着して立体をつくろう
13.	パネルシアターをつくろう③ 彩色	28.	染色液で「色水遊び」をしよう
14.	パネルシアターをつくろう④ 彩色・接着・切断・完成	29.	木材 (丸太・角材) を鋸で切ろう
15.	パネルシアターをつくろう⑤ 練習・発表会 前期の振り返り・自己評価	30.	1年間を振り返ってまとめと自己評価をしよう

成績評価の方法 [評価項目と割合]			
時間の制作に対する「意欲・関心・態度」「発想・構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を評価する。	毎時間提出する「振り返りカード」の記述から評価する	毎時間「振り返りカード」を使って、10項目の評価の観点をそれぞれ5段階で自己評価する	授業後、鑑賞した作家や作品について自主的に調べたり、展覧会に行って鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価する。
50%	30%	20%	+α
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
授業で学んだモダンテクニックなどを使って表現活動を行い、表現力を高める努力をする。 用途や目的に合わせた身近材の活用や表現方法の工夫などによる表現活動を行い、表現力を高める努力をする。授業で作成したパネルシアター・手袋人形などを、幼稚園・保育所・施設などの実習で活用する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
「振り返りカード」毎時間配布します。毎時間提出します。			
「作品鑑賞カード」「作品カード」必要に応じて配布します。			
参考書又は参考資料等			
1. 「振り返りカード」毎時間配布します。毎時間提出します。 2. 「作品鑑賞カード」「作品カード」必要に応じて配布します。 ○小学校学習指導要領（図画工作） ○文部科学省検定済教科書小学校図画工作用「ずがこうさく1・2上、1・2下、図画工作3・4上、3・4下 ○図画工作5・6上、5・6下」及び指導書、「幼児造形教育の基礎知識」建帛社 ○幼稚園教育指導資料「指導と評価に生かす記録」文部科学省			
その他の（受講生への要望等）			
できるだけ次に制作するための資料を集めてきてほしい。制作を通して膨らんだイメージを大切にして、授業時間外にも表現活動をして欲しい。作品は、必ず作品観賞会・締め切りに間に合うように提出すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tsuru@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		体育	
担 当 者 名		木原 寛子	
科 目 コ ー ド	2200011	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>リズム感あふれる身体づくりと健康で安全な生活を営むために必要な知識や能力の向上を図る。自己の身体練磨及び生涯にわたる健康管理の方法を学び、幼児体育に必要な生活の中にあるリズムを特色ある「天野式リトミック」を通して修得し、継続する大切さと身体を動かす楽しさを実感し体得する。</p> <p>後期では前期に習得した「天野式リトミック」の基本のリズムを用いて、子どもと楽しく身体を動かす方法を学ぶ。保育現場に備えられている手具（縄、ボール、輪）マット、跳び箱、平均台の特徴を活かした運動あそびの展開方法を体得する。またグループ活動を通して個人の能力向上に留まらず、個々の能力を集団の中で活かすことを目指し、活用能力を育てる。保育者として心身の健康に心がけ、豊かな表現力で子どもたちと関わる力を育成する。</p>		
授業の到達目標	<p>①心豊かな保育者として子どもたちのお手本となる健康な身体と豊かな表現力を身につけ、安全な生活を営むために必要な知識や能力の向上を図る努力をする。</p> <p>②運動の重要性を理解し、「天野式リトミック」を体得する。身体を動かす楽しさを実感する。</p> <p>③個人とグループの実技試験に向けて、各自が協力を惜しまず、繰り返し練習し合格を目指し諦めない気持ちと努力することの大切さを学ぶ。</p> <p>④「救命救急法」の体得と幼児を対象とした水遊びを安全に実施するための留意点と楽しむ方法を学ぶ。</p> <p>⑤基本のリズムを使って全身運動に繋がる遊びを工夫する。（動物の模倣運動を表現したり、手拍子、足踏み、言葉で表現）</p> <p>⑥子どもの成長に合わせた様々な運動遊び（手具を用いて）を安全に魅力的に継続できるよう考え実践する。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・授業内容について (到達目標と天野式リトミック、運動の重要性を理解する)	16.	大学祭に向けて「全員リトミック」に取り組む (各クラスで基本のリズムを組み合わせる全身で表現する)
2.	「天野式リトミック」を通して、心身の繋がりと自己の身体を知るストレッチ 1分間トレーニング(毎回)	17.	前期に習得した「天野式リトミック」と各種ステップの復習
3.	音符の体得(四分音符、八分音符、二分音符、全音符) 手拍子、足踏み、全身で正しく表現する	18.	音符・拍子の総合練習 (各クラスで練習、リハーサルはなく練習時にイメージし、大学祭当日に発表)
4.	基本の音符(四分音符=1拍)を理解し、展開する方法を学ぶ	19.	基本のリズムを組み合わせるグループで動物・乗り物の模倣運動をつくる
5.	手拍子、足踏み、歩く(前後～左右～斜め～回る) スキップ、ギャロップなど基本の動作を体得する	20.	グループで発表
6.	発令で手足の音符を表現する	21.	基本のリズムを組み合わせるリズムをつくる、手足で表現し暗譜する/発令に合わせて動く
7.	個人で、2人組で、グループで、全員で音やリズムの変化を楽しみながら習得し、動く楽しさを感じる	22.	休止符による手足をコントロールするトレーニング
8.	「救命救急法」講義・実技	23.	手具を使用して、それぞれの特徴を活かした運動あそびを考える
9.	幼児を対象とした水遊びとその留意点について	24.	ボール・輪・縄を用いた運動遊びの展開と指導方法
10.	基本のリズムを使って動きを探求する 音楽に合わせて表現する	25.	ボール・輪・縄を組み合わせる運動あそびにつなげる
11.	ダンスステップ・基本のステップ(ギャロップ・ツーステップ・ワルツ・バランスステップ・スキップ)	26.	マット運動(横転・前転・側転)補助法を学ぶ
12.	音階(ドレミファソラシド)を両手で表現し基本のステップに合わせる (季節の歌、わらべ歌、童謡を歌いながら表現する)	27.	跳び箱(馬乗り・開脚乗り・閉脚乗り・跳び越し・台上前転)跳び方と補助法を学ぶ

13.	両手を使って「拍子」の体得（2・3・4・6拍子） カノン・分割・異拍子・手→拍子 ・足→音符で表現する（反復練習で習得）	28.	平均台・バランス運動（歩く前後・四つんばい・両手支持）
14.	総合練習 ・発令を聞き、瞬時に動ける身体をつくり集中力を高める・リズムを活かした模倣運動	29.	手具や器具を組み合わせて運動あそびを展開する（安全の配慮、子どもにとって魅力的な環境をつくる）
15.	前期まとめ	30.	後期まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業への取組み姿勢		実技テスト	
40%		30%	
		ノート・レポート	
		30%	
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・前時間に学んだ内容をノートに記入し、今後自分の資料として活用できるようまとめる。また、学んだ動きを一日一分でもトレーニングし体得出来るようにする。 ・ストレッチを習慣化し体力づくり及び健康維持を心がける。 			
使用テキスト			
書籍名		著者	出版社
・必要に応じて資料配布。			
参考書又は参考資料等			
・必要に応じて資料配布。			
その他の （受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・服装は実習着、体育館シューズを着用し、アクセサリ等の装着は禁止する。 ・髪の毛の長い学生は結ぶこと。授業内では自己の身体と向き合い、素直に行動すること。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tomo119k@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		国語（教職）	
担 当 者 名		勝山 優子	
科 目 コ ー ド	2200012	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深め、子どもが豊かな言語活動を身に付けていくにはどうすればよいのかを考察する。そのため、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」にもとづき、絵本・紙芝居・読み聞かせなどの児童文化財による言語活動や具体的保育の事例研究等を通して、保育者として子どもの心や言葉育ての支援の在り方を考える。演習、討論、発表、レポート等。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深める。 ・「言葉の源」は意欲であり、伝えるもとになるメリハリのある生活環境と伝えたい人が必要であることを理解し、保育者の基礎としての能力を身に付ける。 ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における領域「言葉」の内容を理解し、実践的な活動を通して、いろいろな言語活動を身に付ける。 		
授 業 計 画			
1.	授業概要およびオリエンテーション	16.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における言葉の指導の実際
2.	言葉をめぐるワークショップ 子どもにとっての言葉	17.	言葉を育てる文化的環境 児童文化財とは何か
3.	言葉の育つ道筋(1) 言葉の前の言葉	18.	「読み聞かせ」の重要性
4.	言葉の育つ道筋(2) 一語文	19.	読み聞かせをしよう(1) グループ A
5.	人とつながる言葉(1) 人との関わりと言葉 1～3 歳	20.	読み聞かせをしよう(2) グループ B
6.	人とつながる言葉(2) 人との関わりと言葉 4 歳・5 歳	21.	オリジナル「絵本」づくり
7.	保育の中の言葉 言葉の育ち 言葉の機能	22.	オリジナル「かるた」づくり
8.	言葉で考える 言葉で考えるための発達の道筋	23.	ストーリーテリング(1) 準備
9.	子どもの言葉を育てる指導	24.	ストーリーテリング(2) 実演
10.	「言葉」遊びから生まれる表現 遊び歌・数え歌	25.	文学作品を読む(1) 童話を読み感想を話し合う
11.	いろいろな言葉遊び(1) しりとり 回文等	26.	文学作品を読む(2) 詩を読み感想を話し合う
12.	いろいろな言葉遊び(2) パズル 反対言葉等	27.	パネルシアター・エプロンシアター・ブックトーク
13.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」	28.	紙芝居の実演
14.	言葉のかかわりにおける配慮と相談 保護者の心配ごと	29.	オリジナル「紙芝居」づくり
15.	まとめ 〈心と体と言葉の一体的発達〉	30.	まとめ 〈言葉を育てる児童文化財のいろいろ〉
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・5月の連休明けに、①絵本、②幼少年童話、③児童文学等を読んで感想文をレポート用紙一枚に書いて提出してもらいます。 ・後期のストーリーテリング、読み聞かせ、紙芝居等の作品を夏休み中に決定しておいてください。 ・26回目には、童話の感想文をレポート用紙一枚に書いて提出してもらいます。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、資料を配布します。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「演習 保育内容 言葉」戸田雅美 編著（建帛社）			
○「シードブック 保育内容 言葉」榎沢良彦、入江礼子 編著（建帛社）			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・教養を磨くため、自己挑戦的にノルマを決めて、毎日少しでも読書をする。 ・各活動で活用できる絵本、昔話、幼年童話等、1冊でも多く目を通す。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		保育制度論	
担 当 者 名		上村 初美	
科 目 コ ー ド	2200013	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	<p>幼児教育を志す者にとっては、幼稚園、児童福祉施設等（保育所も含む）に関する現行制度を理解することが求められている。</p> <p>そこで、教育行政の立場から、幼児教育の制度の仕組みやその考え方を学ぶことを目的とする。プリント・資料を提出して進めていきたい。</p>		
授業の到達目標	<p>公教育の原則及び法制度的な理念に関する用語を理解し、現実の教育問題を制度論的な視点から考察することを身に付ける。</p>		
授 業 計 画			
1.	子どもと保育の基本について		
2.	〔教育関係法にもとづく教育機関について〕①		
3.	〔教育関係法にもとづく教育機関について〕②		
4.	日本の学校制度の変遷と今後について		
5.	幼稚園、保育所に関する制度と法規について		
6.	〔幼稚園の管理運営の基本について 保育所の管理運営の基本について〕①		
7.	〔幼稚園の管理運営の基本について 保育所の管理運営の基本について〕②		
8.	〔保育者の身分や資格について／保育者の勤務条件とこれからの改善点〕①		
9.	〔保育者の身分や資格について／保育者の勤務条件とこれからの改善点〕②		
10.	法規にもとづく施設設備に関する事		
11.	保育所等、児童福祉における法的な措置について		
12.	幼児教育関係文書について		
13.	〔幼児教育の現状と課題／保育関連、新制度などについて〕①		
14.	〔幼児教育の現状と課題／保育関連、新制度などについて〕②		
15.	まとめ		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業への取り組み姿勢	その他（提出物）	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>・倉橋惣三 『育ての心』及び ルソー 著 『エミール』を読み、講義内容の理解に役立ててほしい。 （エミールは特に上巻を中心に）</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
最新保育資料集 2017	代表/森上史朗 大豆生田啓友・三谷大紀編	ミネルヴァ書房	
養護と教育が一体となった保育の言語化	全国社会福祉協議会 全国保育士会	トル	
参考書又は参考資料等			
<p>・参考文献、資料は授業中に適宜紹介する。</p>			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>・受講に際しては、礼節を弁えた態度で臨まれることを希望する。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名		教育方法論	
担 当 者 名		木本 節子 ・ 的野 和靖	
科 目 コ ー ド	2200014	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	教育・保育とは保育者が子どもの成長・発達を助長する営みである。その目的を実現するために保育者は毎日子どもを観察し保育方法を考え環境（情報活用能力を含む）を工夫し、子どもにかかわっていくのである。この授業では幼児期を中心に発達段階に則した子どもの姿を取上げ、保育内容やその活動などの保育の展開（指導・援助）特に附属幼稚園での行事に参加することによって幼稚園教育要領（五領域）とのつながりを学び保育者として留意すべき観点を学ぶことを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育方法の基本（保育の順序）を理解できる。 2. 幼稚園教育要領の改善点（環境による保育）について理解できる。 3. 保育形態の種類と問題点について理解できる。 4. 子どもへの接し方・指導方法について理解できる。 5. 情報機器及び教材の活用性について理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	教育・保育方法の基本（保育の営みについて）		
2.	教育・保育方法の基本（保育の営みと方法について）		
3.	保育の方法（保育の順序を理解する）①		
4.	保育の方法（保育の順序を理解する）②		
5.	事例を通して情報機器（ハード）と教材（ソフト）面での活用方法を学ぶ①		
6.	事例を通して情報機器（ハード）と教材（ソフト）面での活用方法を学ぶ②		
7.	筑紫オリンピック参加への準備（行事を展開するための方法）		
8.	筑紫オリンピック参加とその総評について		
9.	「保育者の願い」から生まれる方法（ねらいと内容）①		
10.	「保育者の願い」から生まれる方法（ねらいと内容）②		
11.	「環境」を生かした保育方法（環境による保育）①		
12.	「環境」を生かした保育方法（環境による保育）②		
13.	子どもにふさわしい園生活について		
14.	子どもにふさわしい保育形態について		
15.	まとめ（子どもの接し方）カルテ作成、アンケート、定期試験について		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・卒園した幼稚園などの保育形態などをインターネットなどで調べて授業に臨むこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
・資料配布			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「幼稚園教育要領」文部科学省 ・資料配布			
そ の 他（受講生への要望等）			
・自分なりの子ども観、保育観を持って授業に臨むこと。 ・幼稚園によって保育方法は多様である。幼き日に通園した幼稚園や保育園のことを思い出して授業に臨んでほしい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	保育指導論		
担 当 者 名	岩橋 敏子		
科 目 コ ー ド	2200015	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	指導とは、幼児を好ましい方向に導く総合的な捉えや行為である。そのことは保育者の大きな役割であり、保育者自身の保育観・資質によって子どもの育ちが変わってくる側面をもつ。1年次で修得した教育方法に繋げた指導論を学ぶことにより、実践力を学び指導力のある保育者を目指す。授業内容としては、講義を中心とし、数例の実践例から指導案作成を手がけていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育の基本の3つの重視事項を通して、具体的事例を基に指導力のある保育者としての姿が理解できる。 2. 幼児にとって、環境による教育・体験学習がなぜ大切であるかを理解できる。 3. 遊びをどのように捉え、援助していくか総合的指導の重要性について理解を深めることができる。 4. 幼児理解や援助のあり方により、保育が変わることが具体的に理解できる。 5. 子どもの自発性を尊重することと保育者の指導性の関係について理解を深めることができる。 6. 発達の時期に応じた保育のあり方について、指導案を作成する上で心がけるべき点などが理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	幼稚園教育要領解説 (1) 幼稚園教育要領及び保育所保育指針について再認識		
2.	幼稚園教育要領解説 (2) ねらい及び内容と5領域の捉え方について		
3.	環境による保育とはについて・・・人的、物的、自然的を捉えて		
4.	総合的指導について・・・5領域と総合的指導の捉え		
5.	保育方法の原理について・・・集団と個の育ち、自発性と指導性について		
6.	指導計画について・・・指導計画とは何か、指導計画の必要性		
7.	指導案作成 (1)・・・指導案の作成ポイント (日案作成事項)		
8.	指導案作成 (2)・・・援助と指導の捉え方		
9.	指導案作成 (3)・・・実践例を基に具体的に作成 (学生自身で作成)		
10.	指導案作成 (4)・・・実践例を基に具体的に作成 (添削された部分を訂正)		
11.	指導案作成 (5)・・・実践例を基に具体的に作成 (仕上げとまとめ)		
12.	保育活動の実践について・・・遊びの中の総合的指導の捉え・援助・幼児理解		
13.	保護者ニーズへの対応について・・・気になる子どもへの関わりについて		
14.	子どもの気になる現状について・・・気になる子どもへの関わり方について		
15.	まとめ・・・・・・・・・・保育指導論のまとめと評価		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取り組み姿勢	指導案の作成・提出	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・上記の他、授業中に次の授業までに行うべき予習、復習を実施すること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	
参考書又は参考資料等			
○「保育方法指導法の研究」森上史朗 他 (ミネルヴァ書房)			
○「保育所保育指針解説」厚生労働省			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に2回指導案作成を行う。 ・成績評価については、定期試験を行い総合的に評価する。 ・授業内容について理解不足の学生は授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けて下さい。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
t0106h0730@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		幼児の理解と教育相談	
担 当 者 名		寺本 普見子	
科 目 コ ー ド	2200016	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	近年、低年齢化した犯罪・学級崩壊・ひきこもり・情緒的問題（多動性障害・自閉症）等、幼児を取り巻く環境の変化は著しい。また、育児疲労・核家族化・相談者の欠如による孤独等の問題を抱える保護者も多い。このような現状を踏まえ、保育者は子育て支援のために保護者に対する心理学的援助を行うカウンセリングマインドを養う。本講義では、具体的な（身体的問題・精神的問題を抱える子をもつ保護者とのカウンセリング等）事例をあげて学習する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとのかかわりを習得する。 2. 子どもの問題行動を理解する。 3. 保育者の言葉かけを理解できる。 4. 保護者との接し方を学び習得できる。 5. 保育カウンセリングの方法を習得する。 		
授 業 計 画			
1.	講義オリエンテーション		
2.	乳幼児の観察と理解		
3.	子どもへの支援（1） - 実習経験を振り返る		
4.	子どもへの支援（2） - グループ討議		
5.	子どもの自己肯定感を育てる		
6.	子どもの心にとどく指導法（1） - 子どもの思いを聴く		
7.	子どもの心にとどく指導法（2） - 子どもの力を信じる		
8.	子どもの心と体のつながり（1） - 心と体の問題		
9.	子どもの心と体のつながり（2） - 情緒と行動の問題		
10.	保育者の言葉かけ（3） - 保護者への対応の基本的な流れ		
11.	聴き手に必要な態度条件		
12.	保育カウンセリングの位置づけ		
13.	保育カウンセリングの流れ		
14.	保育カウンセリングの演習		
15.	まとめ・到達目標・カルテ作成		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取り組み姿勢	提出物	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、準備学習、事後学習について連絡する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
幼児理解と評価	文部科学省	株式会社ぎょうせい	
参考書又は参考資料等			
○やさしく学べる「保育カウンセリング」 大竹直子 著			
そ の 他（受講生への要望等）			
①授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）すること。			
②提出物は期日までに提出すること。授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		教育実習事前・事後指導	
担 当 者 名		梶田 郁子	
科 目 コ ー ド	2200017	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	幼稚園教育の概要（幼稚園の役割・幼稚園における保育の基本等）を学習し、教育実習にそなえて保育者としての人間性について学ぶ。また、教育実習に臨む心構えと態度、教育実習記録の書き方、まとめ方等の教育実習に関する内容について実例を通して学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と心構えが理解できる。 2. 幼稚園の役割と幼児理解の大事さや発達過程が理解できる。 3. 実習の種類や実習記録の書き方が理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	実習の意義と目標(1) 実習とは何か・実習の種類・実習の時期と単位		
2.	実習の意義と目標(2) 幼稚園の生活と保育者の職務を理解する		
3.	実習の心構えと準備(1) 実習の心構えと心得について		
4.	実習の心構えと準備(2) 実習段階における内容と実習方法について		
5.	実習の心構えと準備(3) 実習に向けた提出書類と実習先幼稚園への連絡方法について		
6.	園生活と幼児理解(1) 幼稚園の一日の流れ、幼児の遊びの姿について		
7.	園生活と幼児理解(2) 幼児の発達理解について学ぶ		
8.	園生活と幼児理解(3) ビデオを通して教師の援助のあり方を学ぶ		
9.	実習記録の書き方(1) 実習記録とは何か		
10.	実習記録の書き方(2) 記録を書く目的や形式、書く視点の内容、記録をとる際の注意事項		
11.	実習記録の書き方(3) 観察実習の一日を記録するために 練習 (1) 週日案の書き方		
12.	実習記録の書き方(4) 観察実習の一日を記録するために 練習 (2) 生活の流れ、環境の構成、指導上の援助・配慮		
13.	実習記録の書き方(5) 観察実習の一日を記録するために 練習 (3) 園舎内・外		
14.	観察実習に向けた心構えと準備内容の確認		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
小テスト		授業への取組み姿勢	
70%		30%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすい文字を書くことを心がけ、日常よく使う漢字の練習をしてください。 ・実習記録簿の援助の書き方等は復習をしてください。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園実習保育所・施設実習〔第2版〕	大豆生田啓友、高杉展、若月芳浩編	ミネルヴァ書房	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学		
幼稚園の教育実習実施要項	東筑紫短期大学		
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進度に応じて、適宜紹介をする。 			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・前半は幼稚園や実習についての知識を講義にて学び、後半は実習記録の書き方を中心に演習で学ぶ。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
i.masuda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		教育実習事前・事後指導	
担 当 者 名		梶田 郁子	
科 目 コ ー ド	2200017	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	<p>1.実習終了後、自分が立てた実習目標に従って学んだこと、幼児観を形成するのにどのように役立ったかなどについて学び合う。</p> <p>2.実習先で得た貴重な体験をグループで発表し合い、幼稚園教育についての理解を深める。さらに実習体験を今後の学習に生かすと共に、自己の保育観、幼児観が持てるようにする。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 実習を基に、自分の幼児観や保育観を確かなものにでき、保育者像をもつことができる。</p> <p>2. 実習後自己評価して自分の課題を明確に持ち、保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>3. 実践力育成のために、幼児の発達と保育の展開について実践や事例を通して学ぶ。</p>		
授 業 計 画			
1.	2 回目の実習目標 (1) ・ 1 回目の実習を振り返り、2 回目の実習目標を明確にする ・ 実習記録の書き方について		
2.	2 回目の実習目標 (2) 部分実習の指導案を書く		
3.	2 回目の実習目標 (3) 一日実習の指導案を書く		
4.	幼稚園実習のまとめ (1) 実習記録のまとめ方,自己研究のまとめ方		
5.	幼稚園実習のまとめ (2) 実習後の振り返りと自己評価について分析		
6.	実習後に学んでおくこと (1) 実習で学んだ保育者の仕事について		
7.	実習後に学んでおくこと (2) 実習で学んだ幼児の発達と遊びについて		
8.	実習後に学んでおくこと (3) 幼児が充実する遊びについて		
9.	幼児理解と評価 (1) 幼児理解と評価の考え方		
10.	幼児理解と評価 (2) よりよい保育をつくり出すために		
11.	幼児理解と評価 (3) 適切な幼児理解と評価のために		
12.	幼小の接続を考えた保育展開 (1) グループで言葉・数量・科学リテラシーを育てる保育を考える		
13.	幼小の接続を考えた保育展開 (2) グループで考えた保育の感想・課題を話し合う		
14.	幼児が求める保育者像とは?		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業で書いたレポートや話し合いの記録等		授業への取組み姿勢	
70%		30%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・ より理解でき実践力を高めるのに繋がると思うので、事前に教科書や資料を読んで学習に臨んでほしい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」	文部科学省		
幼稚園教育要領解説	文部科学省		
実習の手引き	東筑紫短期大学		
幼稚園の教育実習実施要項	東筑紫短期大学		
参考書又は参考資料等			
・ 講義の進度に応じて、適宜紹介をする。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・ 実習に行く前は、実習に必要な内容を学習し、実習後はその実践を基に実践力を高めるような演習をする。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
i.masuda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	教育実習		
担 当 者 名	梶田 郁子		
科 目 コ ー ド	2200018	授 業 形 態	実習
学 年	1・2	開 講 期	後期(1年)・通年(2年)
単 位 数	4(※1年後期・2年通年を合計した単位数)	履 修 方 法	幼稚園教諭必修
授業の概要と方法	1年後期の附属幼稚園での観察実習、2年前期・後期2回の学外実習を通して、幼稚園の役割や機能を理解するとともに、幼児理解や保育理解を深める。 また、部分実習や一日実習を通して、保育の計画-実践-評価-改善と継続的に保育を改善しながら実践していくことの大切さについて理解を深める。さらに、保育者として自己の課題を明確に持つようにする。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習を通して幼児教育の重要性、保育者としてそなうべき人間性や技術の必要性等について理解する。 ○ 附属幼稚園での観察実習では、保育の観察記録を作成することを通して、園生活の流れ、保育のあり方を学ぶと共に、幼稚園の施設・設備・遊具等の配置、活用状況を観察し、幼児教育のあり方を理解する。 ○ 学外実習で幼児と触れ合う中で、幼児理解に努めると共に、部分実習や一日実習を通して幼児へのかかわり方や援助のあり方を理解する。また、具体的な保育者像を目指して自己課題を解決しようとする意欲をもつ。 		
授 業 計 画 [学外実習の内容含む]			
<p>1年次後期 : 附属幼稚園観察実習</p> <p>2年次前期 : 1週間の学外実習 参加実習・部分実習(絵本読み・手遊びなど)</p> <p>2年次後期 : 2週間の学外実習 部分実習・一日実習</p>			
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
実習記録と実習評価			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・ 基本的な生活態度を身につけるよう心がけてほしい。(身だしなみ・挨拶・言葉づかい・時間を守る等)			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省		
教職課程履修の手引き	東筑紫短期大学		
幼稚園の教育実習の実施要項	東筑紫短期大学		
参考書又は参考資料等			
・ 相談等に応じて、適宜参考資料を紹介する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の学内オリエンテーションは必ず出席すること。 ・ 実習記録は決められた期日までに必ず提出すること。 ・ 休んだり、実習記録が未提出だったりした場合は、追加補充実習参加となる。 ・ 無断欠席の場合は、実習中止になる場合がある。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
i.masuda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	保育原理		
担 当 者 名	前川 公一		
科 目 コ ー ド	2200019	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	乳幼児期の教育のあり方が将来の人間形成の基礎として極めて重要である。そのため、保育者には乳幼児を養護・教育し、心身の健やかな成長を助ける重要な責務と大きな期待が寄せられている。そこで、保育原理の授業では、保育の意義、保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想、保育の現状と課題などを学ぶようにする。そして、保育についての幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、よりよい保育を考える力を育てることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義や目的、保育所保育の特性について理解できる。 2. 子どもの発達と保育内容について知ると共に、保育の形態について理解できる。 3. 教育課程や保育課程と指導計画について学び、それらの内容や編成の手順を理解できる。 4. 幼稚園や保育所等の保育にあたっては、家庭や小学校、地域との連携が重要であることを理解できる。 5. 幼稚園や保育園の成立や発展について理解すると共に、その現状と課題を理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・教科の内容、講義の進め方、試験・評価の仕方		
2.	保育の意義・理念と課題・・幼児の教育		
3.	現代の子どもの問題・・家庭の養育力、地域環境		
4.	期待される子ども像・・社会的規範意識、コミュニケーション力		
5.	発達理論、5領域、保育所保育指針と養護		
6.	0, 1, 2歳児の発達と保育内容		
7.	3, 4, 5歳児の発達と保育内容		
8.	保育における国際化、外国人の子どもの保育		
9.	保育形態・・学級、グループ編成上の形態		
10.	子育て支援		
11.	教育課程、保育課程、保育計画		
12.	保育者の資質向上と評価		
13.	欧米における保育の歴史		
14.	日本における保育の歴史		
15.	保育原理のまとめと評価		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・授業の中で参考図書や文献を紹介するので、本学の図書館等で積極的に読んで下さい。また、新聞やテレビなどを通して、最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにして下さい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育原理-保育者になるための基本- [改訂版]	金村美代子 編著	同文書院	
参考書又は参考資料等			
・授業の中で、参考書や参考文献を紹介します。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・この授業は、保育にかかわる様々な課題や問題について広く学ぶので、保育園や幼稚園を見学し、教育や保育の実際についてイメージを膨らませておいて下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
maekawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	教育原理		
担 当 者 名	前川 公一		
科 目 コ ー ド	2000014	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	今、子どもたちに「生きる力」をはぐくむ保育者が求められている。そのため、保育者にはそのような教育実践ができる高い専門的力とそれを支える豊かな人間性や確固とした教育理念が必要となる。そこで、教育原理の授業では、教育の意義や目的及び児童福祉等の関わり、教育思想と歴史の変遷、基礎理論、教育制度、生涯学習社会の現状と課題を学ぶようにする。それにより、教育について幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、考える力を育てることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義や目的、教育と児童福祉について理解できる。 2. 欧米の教育思想が、日本の幼児教育の分野に大きな影響を及ぼしていることを理解できる。 3. 教育が制度として、どのように運営されているかについて理解できる。 4. 教育内容、方法、計画と評価のあり方について、歴史的な経緯を踏まえながら現代的な課題を理解できる。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・授業の内容、進め方などの説明。		
2.	教育の意義と目的		
3.	教育と児童福祉		
4.	古代の教育、中世の教育、近世の教育思想		
5.	近代の教育思想の成立、近代公教育制度の確立		
6.	日本の教育思想と子ども観		
7.	日本の教育制度の基礎、子どもの権利の特質、日本国憲法		
8.	日本の教育法規・教育行政の基礎		
9.	日本の学校教育に関する制度、教員に関する制度		
10.	教育実践の基礎理論と教育の方法		
11.	教育内容と教育指導の原理		
12.	教育実践の多様な取り組み		
13.	生涯学習社会の概念、教育評価		
14.	現代の教育課題		
15.	教育原理のまとめと評価		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・授業の中で参考図書や文献を紹介しますので、本学の図書館等で積極的に読んで下さい。また、新聞やテレビなどを通して、最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにして下さい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
改定2版・保育士養成講座第2巻「教育原理」	新 保育士養成講座編纂委員会	全国社会福祉協議会	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・授業の中で、参考書や参考文献を紹介します。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
・教育原理に取り上げる内容を十分理解し、保育者になる基礎的知識を身に付け、それらを生かした保育実践ができるようになることを期待します。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
maekawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	児童家庭福祉		
担 当 者 名	藤岡 良幸		
科 目 コ ー ド	2200020	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	児童家庭福祉の意義及び歴史的展開過程、法律、法体系・制度、行政・福祉機関・施設を学ぶとともに、福祉サービスの現状と課題、専門職としての保育士の役割、児童・家庭に対する相談援助活動について理解する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の現状を理解する。 2. 子どもの行動に関する問題を理解する。 3. 児童家庭福祉の歴史と仕組みを理解する。 4. 児童家庭福祉行政と実施機関を理解する。 5. 児童家庭福祉の実践を理解する。 		
授 業 計 画			
1.	現代社会における児童家庭福祉		
2.	児童家庭福祉の歴史的変遷		
3.	子どもの権利擁護		
4.	児童家庭福祉の法体系		
5.	児童家庭福祉の実施体系		
6.	少子化対策と子育て家庭への支援		
7.	母子保健と健全育成		
8.	子育てと保育サービス		
9.	子どもと暴力		
10.	保護が必要な子どもと支援		
11.	障害のある子どもと支援		
12.	少年非行と支援		
13.	子どもと貧困		
14.	多職種間の連携による支援		
15.	諸外国の児童家庭福祉及び教科のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取り組み姿勢		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・適宜、授業終了後に、理解度、到達度のアンケートをとる。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育者養成シリーズ「新版・児童家庭福祉論」	山崎順子、高玉和子、和田上貴昭 編著	一藝社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「保育福祉小六法 2016年度版」（みらい）			
○「社会福祉小六法 2017年度版」（ミネルヴァ書房）			
そ の 他（受講生への要望等）			
・各章ごとの予習、復習を必ず行うこと。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
y-fujioka7@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	児童家庭福祉演習		
担 当 者 名	藤岡 良幸		
科 目 コ ー ド	2200021	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	1 年次の「児童家庭福祉」を、教材作り、レポート作成、レポート発表等を通じて深めるとともに、保育所実習、幼稚園実習、施設実習などの体験を通して、児童家庭福祉を理解し、「保育実習Ⅰ（施設実習）」と関連づけて、被虐待児及び発達障害者・児を含めた障害者・児への対応を習得する。		
授業の到達目標	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の発達について理解する。 2. 児童家庭福祉について、演習、見学、レポート発表を通して深く理解する。 3. 保育所・幼稚園・施設における実習の経験を通して児童家庭福祉を理解する。 4. 大学祭や保育・教職実践演習につながる教材作りを学ぶ。 5. 視覚障害、身体障害の体験実習を通して児童家庭福祉について理解する。 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児や障害児等の生活習慣形成に必要な絵カードを作成する。 2. 保育者として必要な子どもの生活習慣の指導法を学ぶ。 3. 子どもの基本的な生活習慣について考察し、レポートを作成する。 4. 発達障害についての理解、環境構成考案など保育者としての心構えを習得する。 5. 子どもが示す様々な信号を受け止め、適切な対応法を学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	本講義の概要及びオリエンテーション	16.	絵カード作り (1) : 担当者指定の絵カード作成
2.	児童家庭福祉の現状について (DVD 視聴等)	17.	手作り教材作り (1) : ペン立てを作る
3.	下記のテーマを自由に選んでレポート作成。 里親制度、肢体不自由児、LD 児、ADHD 児、 ダウン症、自閉症児、盲聾啞児・ 軽度発達障害児、いじめ、児童虐待、子どもの 自殺、非行、子どもの貧困 等	18.	レポート作成 (遊びに関すること) (1)
4.	児童虐待事例に関するレポート作成	19.	子どもと保護者の対応を学ぶ (ビデオ視聴等) (1)
5.	レポート発表 (3 回目・4 回目分)	20.	絵カード作り (2) : オリジナル (自分で考えた) 絵カード作成
6.	第 1 回 絵カードづくり : 教科担当者指定の絵カード作成	21.	手作り教材作り (2) : ペットボトルを利用した教材を作る
7.	第 2 回 絵カードづくり : オリジナル (自分で考えた) 絵カード作成	22.	レポート作成 (食育に関すること) (2)
8.	知的障害児について学ぶ (DVD 視聴等)	23.	子どもと保護者の対応を学ぶ (ビデオ視聴等) (2)
9.	児童発達支援センター (到津ひまわり学園) 見学	24.	手作り教材作り (3) : 紙芝居又は絵本を作る
10.	第 1 回 手作り教材づくり (1) : 教科担当者指定の教材作成	25.	レポート作成 (排泄に関すること) (3)
11.	第 2 回 手作り教材づくり (2) : オリジナル手作り教材作成	26.	児童虐待事例の対応について学ぶ (DVD 視聴その他)
12.	ADHD (注意欠陥多動性障害児) について学ぶ (DVD 視聴等)	27.	レポート作成 (着脱に関すること) (4)
13.	第 3 回 手作り教材づくり (3) : 牛乳パックを用いた手作り教材作成	28.	子どもと保護者の対応を学ぶ (ビデオ視聴等) (3)
14.	視覚障害者、 身体障害者の体験 (手引き歩行、白杖歩行、車椅子歩行)	29.	発達障害 (アスペルガー症候群) について学ぶ
15.	前期教科のまとめ	30.	保育者としての心構え及び教科のまとめ

成績評価の方法 [評価項目と割合]			
作品提出	レポート	授業への取組み姿勢	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・授業終了後の到達度アンケート実施。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・参考資料等随時配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「新プリマーズ／保育／福祉 児童家庭福祉」 福田公教、山縣文治 編著 (ミネルヴァ書房)			
その他の (受講生への要望等)			
・事前の準備、教材作りのための材料及びハサミ、カッター等工具類の準備をすること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
y-fujioka7@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	社会福祉		
担 当 者 名	藤岡 良幸		
科 目 コ ー ド	2200022	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義・理念について理解させる。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。 3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。 4. 社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割を理解させる。 5. 福祉関連領域～医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握させる。 6. 現代における利用者保護制度を理解させる。 		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の全般について理解する。具体的には、社会福祉の意義、理念、法体系、制度及び行財政、福祉専門職、関連領域について理解する。 		
授 業 計 画			
1.	本講義の概要及びオリエンテーション、社会福祉の考え方		
2.	社会福祉を取り巻く環境		
3.	社会福祉の歴史		
4.	社会福祉の仕組み		
5.	社会福祉サービスの利用の仕組み		
6.	社会福祉の機関と施設		
7.	社会保障		
8.	低所得者福祉		
9.	児童家庭福祉		
10.	高齢者福祉		
11.	障害者福祉		
12.	地域福祉		
13.	利用者保護制度		
14.	社会福祉援助技術		
15.	社会福祉の担い手及び全体のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート		
90%	10%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の各章を予習し、理解しておくこと。 ・適宜、授業終了後に、理解度、到達度のアンケートをとる。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新・プリマーズ／保育／福祉 社会福祉[第4版]	石田慎二、山縣文治 編著	ミネルヴァ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<ul style="list-style-type: none"> ○「保育福祉小六法 2016年度版」(みらい) ○「社会福祉小六法 2017年度版」(ミネルヴァ書房) 			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・各章ごとの予習、復習を必ず行うこと。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
y-fujioka7@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		相談援助	
担 当 者 名		竹並 正宏	
科 目 コ ー ド	2200023	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	相談援助の理論や技術を用いる専門職の基本的姿勢及び、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等について修得する。また日々の保育の中で行われる子どものソーシャルスキルや発達を促すためのグループを活用した援助（グループワーク）、保育者が抱える子育てなどの問題を解決するための相談援助（ケースワーク）、地域のボランティアや子育て支援の形成（コミュニティワーク）のように様々な援助技術を用いることが重要であることを学び、子どもの気持ちや現実に寄り添った具体的な援助が可能となり、質の高いサービスの提供の技術を修得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 多様な福祉制度やサービスを活用し、ケアの提供を行うことを通して、個人及び家族の生活困難や生活問題を解決・緩和しより人間らしい暮らしを実現することを目指す姿勢が身に付いている。 対象、過程、技術、アプローチについて学び、本質である信頼感や安心感がどのように相談援助の方法と技術に係わっているか理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	ケースワーク①……ケースワークの定義、構成要素など		
2.	ケースワーク②……ケースワークの原		
3.	ケースワーク③……ケースワークの過程		
4.	グループワーク①……グループワークの定義、構成要素など		
5.	グループワーク②……グループワークの原則		
6.	グループワーク③……グループワークの過程		
7.	コミュニティワーク①……コミュニティワークの定義、構成要素など		
8.	コミュニティワーク②……コミュニティワークの原則		
9.	コミュニティワーク③……コミュニティワークの過程		
10.	ケアマネジメント①……ケアマネジメントの定義、構成要素など		
11.	ケアマネジメント②……ケアマネジメントの原則		
12.	ケアマネジメント③……ケアマネジメントの過程		
13.	総合事例演習①……生活課題を抱えるクライアントに対する総合的な援助演習		
14.	総合事例演習②……生活課題を抱えるクライアントに対する総合的な援助演習		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢	レポート	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・保育者として、計画、記録、評価、関係機関との協働、多様な専門職との連携、社会資源の活用、調整、開発に対する姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して臨む。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・資料等を配布予定。			
参考書又は参考資料等			
・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。			
・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・相談援助について学ぶことは、人間の信頼関係を築く手段、信頼関係を築く援助技術で心を開き保育者として、計画、記録、評価、関係機関との協働、多様な専門職との連携、社会資源の活用、調整、開発に対する姿勢が身に付くことを要望する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		社会的養護	
担 当 者 名		古谷 俊雄	
科 目 コ ー ド	2200024	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	この授業では、社会的養護の理念と概念を理解した上で、 ①現代社会における社会的養護の意義 ②社会的養護の制度・体系 ③社会的養護における子どもの人権と自立支援 ④社会的養護の現状と課題 等について検討を加える毎回、関係資料を基に授業を進めるが、適宜 DVD 視聴等を通して関心を高める。		
授業の到達目標	①社会的養護が求められている現代社会の現状について理解を深める。 ②子ども観の歴史の変遷を通して、子どもの人権について理解を深める。 ③社会的養護を担う里親、児童福祉施設等の役割について理解を深める。 ④社会的養護の意義を理解することを通して、保育士が果たすべき役割について認識を深める。		
授 業 計 画			
1.	社会的養護の概念と理念	－社会的養護とは－	
2.	社会的養護の展開	－歴史の変遷と現状－	
3.	社会的養護問題の本質	－子どもと家庭を取り巻く状況－	
4.	社会的養護と子ども観	－子どもの人権の変遷と養護理論－	
5.	社会的養護の仕組みと実施体系	－児童相談所の機能と役割－	
6.	社会的養護の体系	－家庭養護と施設養護の概要－	
7.	家庭養護の制度	－里親・ファミリーホームの役割と実際－	
8.	施設養護の基本原則	－個別化による自立支援と家族調査－	
9.	施設養護の特質	－特質としての集団生活－	
10.	施設養護の実際	－日常生活支援の内容－	
11.	社会的養護実践の枠組み	－個別対応と自立支援計画－	
12.	虐待問題と児童養護	－家庭、施設の実態と児童虐待－	
13.	施設の運営管理	－最低基準とサービス評価－	
14.	社会的養護援助者の資質と役割	－専門性と人間性－	
15.	まとめ	－社会的養護の現状と課題－	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト（もしくは小論文）	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・子ども虐待や貧困問題等、マスコミで頻繁に報道されている内容に普段から関心を抱き、考え、問題意識を深めておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
よくわかる社会的養護〔第2版〕	山縣文治、林浩康 編	ミネルヴァ書房	
保育福祉小六法 2017年版		みらい	
参考書又は参考資料等			
・講義の中で適宜、紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・被虐待児など家庭環境上、社会的養護を必要とする子ども達のために、何をしなければならないのか、一緒に考えましょう。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 20 分間は、小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		教育職の研究	
担 当 者 名		上村 初美	
科 目 コ ー ド	2000015	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	教育職とは、未発達な子どもを対象とし、人間を教育する職業であり、人間の生涯に大きな影響を与える重要な仕事である。従って、「教育職」の職務内容をあらゆる角度から検討し、教師の本来的役割を考察することを目標とする。なお、できる限り現実的事象を教材として取り上げ、進路決定へのプロセスの中で教科を捉えることを心がける。		
授業の到達目標	1.保育の場における教職の意義とその役割及び職務内容をあらゆる角度から検討し、保育現場に即した指導力を養う。 2.保育者としての学習目標や計画を考察し、自らの課題を明確にできる。		
授 業 計 画			
1.	授業のねらいと進め方、テキストの使い方、成績評価の方法など		
2.	保育の意義		
3.	保育者としての適性と義務		
4.	保育の歴史と思想（日本の幼稚園、保育所の歴史）		
5.	世界の歴史と思想（世界の幼稚園、保育所の歴史）		
6.	幼稚園と保育所等の目的、制度的技能について		
7.	〔幼稚園教諭の役割と職務内容について／保育士の役割と職務内容について〕		
8.			
9.	〔保育者としての保育技術を磨く〕		
10.			
11.	〔保育者になるための学習過程について〕		
12.	今、保育者に求められるもの		
13.	<ul style="list-style-type: none"> ・研究する保育者 ・職業人としての保育者 		
14.	教育職（保育者）としての課題……子育て支援等について		
15.	まとめ（要点の復習）		
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業への取り組み姿勢	その他（提出物）	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・倉橋惣三 『育ての心』及び ルソー 著 『エミール』を読み、講義内容の理解に役立ててほしい。（エミールは特に上巻を中心に） 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育者論	榎田三二子、大沼良子、増田時枝 編著	建帛社	
養護と教育が一体となった保育の言語化	全国社会福祉協議会 全国保育士会	トルロ	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進行状況に応じて、適宜紹介をする。 			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・受講に際しては、礼節を弁えた態度で臨まれることを希望する。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後10分間は小倉北区キャンパス2号館4階非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名	教育心理学		
担 当 者 名	福崎 淳典		
科 目 コ ー ド	2000016	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	教育心理学とは、学校、家庭、職場等の教育的事象に潜む法則を心理学の方法論を用いて解明する分野である。「保育」は養護と教育が一体となった営みであり、保育を実践していく上で教育心理学的な知識と技術の適用は不可欠である。また、教育心理学を学ぶことは、今日の子どもにかかわる多くの課題に対応するための示唆を得る上でも非常に重要である。		
授業の到達目標	①子どもの学習メカニズムや記憶の過程について理解し、効果的な学習指導法についての知識を習得する。 ②子どもの各発達段階に応じた発達論的基礎理論を習得する。 ③教育臨床上の問題や配慮が必要な子どもたちについての基本的な知識を習得する。		
授 業 計 画			
1.	保育と教育心理学	教育心理学の領域と保育	
2.	子どもの発達①	発達の生物学的基礎～愛着	
3.	子どもの発達②	兄弟関係～家族	
4.	学習行動の基礎	学習～記憶の仕組み	
5.	学びの動機づけ	動機づけとは何か	
6.	知的能力の発達	知能とは何か、知能検査	
7.	パーソナリティの発達	パーソナリティの発達と形成	
8.	教育・保育における評価	教育評価とは何か	
9.	小学校とのつながり	教科教育とのつながり	
10.	発達障害のある子どもの教育①	発達障害児への対応	
11.	発達障害のある子どもの教育②	事例からの検討	
12.	保育の中で生かす教育心理学	エンカウンター	
13.	家庭ぐるみの教育的支援	保護者の役割、 保育者のカウンセリングマインド	
14.	子どもをめぐる教育的問題	不登校・不登園～児童虐待	
15.	まとめ	これからの教育への生かし方	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業内で提出を求めるミニレポート及びコメントシート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをまとめ、語句を暗記するのではなく、理論を理解してもらいます。 ・レポートや課題はありませんが、1時間程度の復習を求めます。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に、適宜紹介します。 			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・履修者全体の理解度や到達度により授業内容及び進度が若干前後することがあります。不明な点や質問、もっと知りたい部分があれば積極的に申し出てください。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		発達心理学 I	
担 当 者 名		福崎 淳典	
科 目 コ ー ド	2200025	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	<p>本科目は保育士資格取得のための必修科目である。「発達心理学 I」では、子どもの心理面の発達過程を人格、社会性、遊び、子育てなどの様々な面からの基礎的な理論や体系を学んでいく。また保育士として、子どもの心の理解だけでなく、保護者の気持ちの理解や子育ての助言方法などについても習得していく。</p>		
授業の到達目標	<p>①心理学の観点から、子どもの発達過程を理解する。 ②保育士として子どもの心の変化や発達を見とっていき力をつける。 ③子どもの環境と課題を学び、教育、福祉、家庭など様々な分野からのアプローチを考える。 ④保護者の立場や気持ちを理解し、適切な助言方法を習得する。</p>		
授 業 計 画			
1.	発達心理学とは？	年齢に応じた特性の理解	
2.	子どもを取り巻く人間関係と文化	子どもに与えている環境と文化	
3.	子どものパーソナリティの発達①	自己意識と自我の発達	
4.	子どものパーソナリティの発達②	達成動機	
5.	子どものパーソナリティの発達③	価値観と性役割	
6.	子どもの社会性の発達	道徳性と向社会的行動	
7.	遊びの心理・機能	ボディイメージ・運動機能	
8.	遊びの発達①	遊びとは何か	
9.	遊びの発達②	描画の発達 おもちゃ・漫画・アニメの意味	
10.	遊びによる発達支援・演習	遊戯療法の理論から	
11.	乳幼児～児童期までの現状と課題	発達の課題と移行対象	
12.	保育の現状を考える	保育の現状から生じている課題	
13.	心理学理論を使った演習	他領域との比較	
14.	乳幼児期の子育て論	子育て支援・保育実習の語り	
15.	まとめ	自らの体験をたどる	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業中の課題及びコメントシート	※授業課題に参加しない者、 受講態度が良くない者は評価の対象としない。	
60%	40%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<p>・心理学を現場に生かせるかどうかは、子どもをしっかり観察できるかどうかで決まります。基礎的な理論を押さえたうえで、保育実習で実際に子どもをよく観察してきてください。また講義後、ノートを見直し、復習をしてください。</p>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
・授業中に資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「新・ブリーマーズ保育心理 発達心理学」無藤隆 他 (ミネルヴァ書房)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・授業内で様々な演習課題を行います。積極的な参加を求めます。質問や演習中の発言なども歓迎します。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		発達心理学 II	
担 当 者 名		福崎 淳典	
科 目 コ ー ド	2200026	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	「発達心理学II」では、「発達心理学I」で学んだ基礎的な知識の上に立って、特に児童期までの子どもの発達を深く理解することを目指す。また保育現場における事例を取り上げながら、より実践的な内容にも触れる。		
授業の到達目標	①子どもの心身の発達の中でも、特に乳児期から児童期までの子どもたちの発達について理解する。 ②保育における子どもの健全な発達支援に関わる知識と対応方法について理解する。		
授 業 計 画			
1.	発達の基本理論	発達とは何か、発達の原理	
2.	胎児期の発達①	母親の自覚、胎児期、新生児期の発達	
3.	乳児期の発達①	自己の発達、好みの発達	
4.	乳児期の発達②	運動機能、ことば、認知機能の発達	
5.	乳児期の発達③	他者とのかかわり、愛着	
6.	幼児期の発達①	集団生活、遊び	
7.	幼児期の発達②	思考の発達、言葉の獲得	
8.	幼児期の発達③	仲間関係、就学への準備	
9.	児童期の発達①	社会性、動機づけの発達	
10.	児童期の発達②	認知機能、パーソナリティの発達	
11.	対人職のための対人関係演習	保育士と職場の人間関係	
12.	子どもへの伝え方	自分の情報を整理する	
13.	子どもをとりまく心理的問題①	発達障害の理解	
14.	子どもをとりまく心理的問題②	気になる子の保護者への対応	
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業中の課題及びコメントシート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・実習等で子どもをよく観察しておいてください。気づいたことを授業内で提示してもらい、子どもの心について考える題材とします。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
○「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」岡本依子 他 (新曜社) ○「幼児学用語集」小田豊 他 (北大路書房)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・単位を取るためではなく、保育者として必要な心理学の知識を身につけたいという姿勢で取り組んでください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail			その他
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		発達心理学 III	
担 当 者 名		福崎 淳典	
科 目 コ ー ド	2200027	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	「発達心理学Ⅲ」では、児童期以降の発達に焦点を当てた内容を取り扱う。児童期では、保育を終えた子どもたちがどのような発達をするのかを学び、青年期では、受講者が自分自身を振り返り、自己理解を深める機会として位置づけたい。老年期については、高齢者が抱える問題やこれからの生き方について考えたい。		
授業の到達目標	①一生涯の発達の中でも、特に児童期以降の子どもたちの発達とそれぞれの時期の発達課題や特徴を理解する。 ②保育者としての自己理解を行い、職業人として、大人として、自分らしい生き方について考える。		
授 業 計 画			
1.	発達の基礎理論	発達とは何か	
2.	児童期の発達①	児童期の発達課題	
3.	児童期の発達②	不登校、いじめに対する理解のあり方	
4.	青年期の発達①	思春期、青年期とは何か	
5.	青年期の発達②	思春期、青年期の身体とこころ	
6.	青年期の発達③	思春期、青年期の特性に対する理解と対応	
7.	青年期の発達④	青年期の分析	
8.	青年期の発達⑤	自分とは何か	
9.	成人期の発達①	成人期の発達課題、中年期危機	
10.	成人期の発達②	大人の発達障害と心の悩み	
11.	老年期の発達①	老年期の身体・感覚・認知機能のエイジング	
12.	老年期の発達②	老年期における家族と社会	
13.	老年期の発達③	高齢化社会での生き方について考える	
14.	老年期の発達④	老年期の分析	
15.	まとめ	生きるということ、成長・発達	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
レポート	小テスト	授業内課題	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> 自己分析の課題を行います。詳細は授業中に指示します。 最新のニュースから取り上げられる事例を題材にしてすすめます。日頃から、新聞記事を通して社会問題に関心を向けてください。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
○「シリーズ生涯発達心理学⑤ エピソードでつかむ老年心理学」大川一郎 他 (ミネルヴァ書房)			
○「幼児学用語集」小田豊 他 (北大路書房)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・乳幼児以外の発達を知ること大切なことです。自分自身の心についても考えてもらえればと思います。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		臨床心理学	
担 当 者 名		松本 明夫	
科 目 コ ー ド	2200028	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択
授業の概要と方法	臨床心理学とは、こころの悩みや病を抱える人の心理学的な理解と援助方法を研究し実践する学問である。具体的にはクライアント（来談者）に対して心理アセスメントやカウンセリング等を行う。本講義では心理検査について概説し、子どものこころを理解するための新たな視点を提供したい。さらにカウンセリング技法について概説し、保育現場で出会う「気になる子どもとその保護者」に対する心理的な支援を行う際のヒントを提供したいと考えている。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の概要について正しく理解することができる。 2. 子どもの心を理解するための新たな視点を得る。 3. カウンセリング技法の概要について理解することができる。 4. 子どもやその保護者に対する心理的な支援を行う際のヒントを得る。 		
授 業 計 画			
1.	はじめに		
2.	子どもの発達とその障害 特に ADHD と ASD について		
3.	子どもの発達を評価する (1)新版 K 式発達検査 2001		
4.	子どもの発達を評価する (2)田中ビネー知能検査 V		
5.	子どもの発達を支援する (1)子どもへの支援		
6.	子どもの発達を支援する (2)保護者への対応		
7.	子どものメンタルヘルス (1)心身症・不登園など		
8.	子どものメンタルヘルス (2)いじめ・習癖など		
9.	子どもの性格を知る (1)バウムテスト実習		
10.	子どもの性格を知る (2)S-HTP 実習		
11.	プレイセラピー (1)アクスラインの 8 原則		
12.	プレイセラピー (2)ロールプレイ実習		
13.	箱庭療法		
14.	子どもの分析心理学		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	コメントシート		
50%	50%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・ 次回の講義で理解度を確認するため○×クイズを行うので、事後の復習に励んでください。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・ 適宜、プリントを配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「拝啓、アスペルガー先生」 奥田健次 (飛鳥新社)			
○「樹木画テスト」 高橋雅春ほか (北大路書房)			
○「子どもの深層」 秋山さと子 (海鳴社)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・ 講義では心理テストを実施し自らの性格分析を行うなど、体験的に理解が深まるようなワークを行います。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
a-matsumoto@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	小児保健 I		
担 当 者 名	井上 和子		
科 目 コ ー ド	2200029	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	子どもは将来の社会を創り出し、明るい未来につながる可能性を秘め、健全な身体と健全な心を持って発育していく。そのために子どもの保健に関する医学的知識と実践が必要となる。授業はパワーポイントを中心に講義を行い、必要に応じて DVD 学習を行う。		
授業の到達目標	○小児の成長・発達過程・生活・疾病を理解する。 ○医学的側面より小児を理解する。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：授業の進め方の説明。 生命の誕生について DVD 学習し、生命の尊さを学び、レポート提出。		
2.	子どもの発育・発達と保健		
3.	生理機能の発達と保健		
4.	運動機能の発達と保健		
5.	健康と病気、異常：免疫について DVD 学習		
6.	乳幼児の病気①感染症について (ウイルス・細菌・その他の感染症)		
7.	乳幼児の病気② (発育と栄養障害、アレルギー、消化器)		
8.	乳幼児の病気③ (呼吸器、循環器、泌尿器)		
9.	乳幼児の病気④ (代謝、内分泌)		
10.	乳幼児の病気⑤ (運動器、眼・鼻・皮膚)		
11.	乳幼児の病気⑥ (こころ・精神・神経系、悪性腫瘍、川崎病)		
12.	事故と応急処置① (子どもの事故と事故防止)		
13.	事故と応急処置② (応急処置について)		
14.	感染症と予防接種		
15.	前期小児保健のまとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・各授業項目の事前および事後学習を行うこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
子どもの保健	巷野悟郎 編	診断と治療社出版	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、提出レポートも参考にする。 ・講義の内容は、授業中に理解するようにしてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 20 分間は、小倉北区キャンパス保健室にて待機。		

授 業 科 目 名	小児保健 II		
担 当 者 名	井上 和子		
科 目 コ ー ド	2200030	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	子どもは将来の社会を創り出し、明るい未来につながる可能性を秘め、健全な身体と健全な心を持って発育していく。そのために子どもの保健に関する医学的知識と実践が必要となる。授業はパワーポイントを中心に講義を行い、必要に応じて DVD 学習を行う。		
授業の到達目標	・小児の成長、発達過程を理解し、安全な養育および保育が実践できる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：授業の進め方の説明、前期試験の解説 等		
2.	子ども保健の基本		
3.	身体発育の概念		
4.	精神機能の発達-言語、情緒、社会性の側面		
5.	新生児の特徴と正常、異常について		
6.	子どもの食事（発育に必要な栄養について）		
7.	子どもの生活環境（日常生活動作の発達過程、遊びを通しての生活環境）		
8.	子どもの精神保健（子どもの発達障害や虐待）		
9.	環境（日本の環境汚染について NHK 地球データマップの DVD 学習）		
10.	保育の多様化①（安全な保育ができるよう健康管理）		
11.	保育の多様化②（感染症の取り扱い）		
12.	子どもの発達と事故について学び、事故防止のための安全教育		
13.	感染症対策および感染拡大防止策について（インフルエンザ、ノロウイルス）		
14.	母子保健の動向、母子保健の現状、母子保健行政		
15.	児童養護施設の DVD 学習、後期小児保健のまとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・前期講義「小児保健 I」の復習を行うこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
子どもの保健	巷野悟郎 編	診断と治療社出版	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
・講義の内容は、授業中に理解するようにしてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 20 分間は、小倉北区キャンパス保健室にて待機。		

授 業 科 目 名		小児保健演習	
担 当 者 名		奥川 満子	
科 目 コ ー ド	2200031	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	子どもの健康と安全を守り、豊かな心身の発育・発達を助けることは、保護者が行っている毎日の育児の中でなされているが、より専門的な機能は保育士や幼稚園教諭に期待される。そこで、子どもの健康状態を把握し、異常の早期発見や健康教育などについて、実践のできる知識と技術を学ぶことを目的とする。授業は、講義において援助方法の根拠や手順などについて学び、さらに、演習を通して援助方法のあり方を深めていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の大切さを理解し、子どもの健やかな成長を手助けすることができる。 2. 健全な子どもを理解し、子どもの保健活動の場を理解することができる。 3. 子どもの特性を理解し、乳幼児期の健康状態を正確に観察・記録ができる。 4. 子どもの疾病を理解し、その予防及び救急時の対応について理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	乳幼児の健康とは：小児期の分類、健康指針と観察と記録の必要性		
2.	形態的成長とその評価：乳幼児に必要な身体計測		
3.	バイタルサイン（体温・呼吸・脈拍・血圧・意識状態）の意義と測定		
4.	精神神経の発達と乳児健診：感覚・運動・情緒・社会性等（母子手帳も含む）		
5.	栄養（乳児）：母乳・人工栄養・混合栄養・調乳について		
6.	栄養（幼児）：離乳食・食習慣のしつけ方・現在の問題点（偏食・生活習慣病）		
7.	排泄：乳幼児のオムツのあて方・幼児のトイレトレーニングの必要性		
8.	睡眠：睡眠習慣のしつけ方・乳幼児の抱き方・おんぶひもの使用時の留意点		
9.	歯の健康：清潔習慣（手洗い・うがい・歯みがき）のしつけ方		
10.	清潔：沐浴の意義と観察の必要性（人形を使用して沐浴を行う）		
11.	予防と健康Ⅰ：病気への対応と感染対策について		
12.	予防と健康Ⅱ：乳幼児の事故と応急処置・心肺蘇生法について		
13.	保育実習を通して…グループワーク		
14.	子どもの保健活動の場：保育所・児童養護施設・知的障害施設・乳児院		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業中に数回行う小テスト	授業への取組み姿勢	
80%	10%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・演習に関しては、「一人で実施できる」まで事後学習をすること。再指導を希望する場合は、事前に申し込んで下さい。メールでも受け付けます。特にオムツの当て方等。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新版 子どもの保健Ⅱ	佐藤益子/ 中根淳子 編著	ななみ書房	
参考書又は参考資料等			
授業の中で参考書や資料を紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・上記の計画は、本授業のガイドラインである。授業の進行状況により変更する場合もある。授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールをすること。但し、提出物は受け付けない。 <課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
mokgawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		子どもの食と栄養	
担 当 者 名		室井 由起子	
科 目 コ ー ド	2200032	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 保育士必修
授業の概要と方法	人間の食生活の基礎は乳幼児期に形作られ、この時期からの食生活習慣形成能力を高めていくことは不可欠であり、現場で、食育を実施する際、保育士の担う役割は非常に大きい。現場で食育を充実させるうえでの管理栄養士・栄養士・調理士との連携及び、子どもたちの栄養の基本を学び実践できる知識を身につける。		
授業の到達目標	まず、自らの食事に目をむけ、身体をつくる食事の重要性についての認識、健康的に食べるために食品を選べる知識を身につける。 発達段階に応じた食や栄養の特徴を知ること及び、現場での多職種との連携方法を学び実践できるようにする。		
授 業 計 画			
1.	はじめに・・・「子どもの食と栄養」を学ぶ目的	16.	成人期・妊娠期・授乳期の食生活
2.	栄養に関する基本的知識① ・・・食品の分類、それぞれの機能	17.	乳児期の食生活①・・・母乳栄養
3.	栄養に関する基本的知識② ・・・三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）	18.	乳児期の食生活②・・・人工栄養
4.	栄養に関する基本的知識③ ・・・ビタミン、ミネラル、水分	19.	乳児期の食生活③・・・離乳、離乳食
5.	子どもの食生活の問題	20.	乳児期の食生活④・・・ベビーフード
6.	子どもの発育、食べる機能の発達	21.	幼児期の食生活① ・・・食機能の発達、食事の仕方とマナー
7.	子どもの消化吸収機能	22.	幼児期の食生活②・・・間食、むし歯予防
8.	献立と食品構成、食事バランスガイド	23.	幼児期の食生活③・・・お弁当、食生活上の問題
9.	衛生配慮、食の安全について	24.	学童期・思春期の食生活・・・栄養上の問題
10.	栄養成分表示	25.	特別な配慮を要する場合① ・・・食物アレルギーへの対応
11.	保育所における食育	26.	特別な配慮を要する場合② ・・・体調不良、疾病への対応
12.	食育の内容	27.	保育所給食／行事食
13.	食育の計画	28.	乳幼児の食事・おやつ計画
14.	食育の実践	29.	乳幼児の食事・おやつの実践
15.	前期のまとめ、レポートについて	30.	まとめ
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業中の課題	レポート	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・日常生活の中で、食事に対して興味をもつようにしてください。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養	堤ちはる、土井正子 編著	萌文書林	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
・まず自分の食事をしっかり選んで食べられるようになってください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
muroi1120@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		家庭支援論	
担 当 者 名		竹並 正宏	
科 目 コ ー ド	2200033	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	家庭支援に関する基本的な知識や技術を修得するとともに、演習を通して具体的な保育場面で家族に対してどのような対応や援助を行うべきなのかを考え、子どもや子育てに関する様々な問題が増大し、また多様化、複雑化している。これらの問題の解決は子どもに対するケアだけでは難しく、子どもの家族やその周辺に対してもケアを行うことが求められる。保育士は子どもだけでなく家族に対するケアを行う視点と技術、知識が求められその内容について把握する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭支援の仕組みそのものが、さまざまななかかわりの中で機能することを理解し、子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する姿勢が身に付いている。 2. 保育者は子どものみならず個別の家庭環境を考慮して子育て不安や不満といった悩みの解決を図っていかねばならない意志を持ち、自己の責務を果たすことを理解する。 		
授 業 計 画			
1.	家庭支援の基礎知識① 保育士と家庭支援、家族の抱える問題とは何か		
2.	家庭支援の基礎知識② 地域における子育ての社会資源の基本的視点		
3.	家庭支援の基礎知識③ 地域における子育ての社会資源の支援拠点事業		
4.	保育所での家庭支援の実際① 面接相談援助①要保護者への対応		
5.	保育所での家庭支援の実際② 面接相談援助②さまざまな家庭への支援		
6.	保育所での家庭支援の実際③ 面接相談援助③多文化への対応		
7.	保育所での家庭支援の実際④ Eメール、連絡帳での相談援助		
8.	保育所での家庭支援の実際⑤ グループワークを活用した援助①捉え方		
9.	保育所での家庭支援の実際⑥ グループワークを活用した援助②実践方法		
10.	保育所での家庭支援の実際⑦ コミュニティワークを活用した援助		
11.	虐待事例への対応① 虐待を防止するために		
12.	虐待事例への対応② 虐待発見時の対応		
13.	障害児の家族への援助① 障害児の家族についての理解		
14.	障害児の家族への援助② 障害児の家族への援助		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取り組み姿勢	レポート	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・法や相談機関を深く学び、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して臨む。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
保育者が学ぶ家庭支援論	植木信一	建帛社	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回、小テストを行う。 ・家庭支援について学ぶことは、家庭を構成する家族メンバーやその相互関係に働きかけ、必要な機能や役割が円滑に果たせるよう、回復できるよう支援する役割を担う保育士にとって重要であることを認識して臨む。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	教育・保育課程論		
担 当 者 名	前川 公一		
科 目 コ ー ド	2200034	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	保育者は、保育の計画のもつ意義を理解し、それを立案する素地的能力を身に付ける必要がある。そこで、具体的な教育課程や保育課程、指導計画をもとに、その園での目的や目標を達成するための内容や編成の仕方などについて、基礎的な理解をするとともに、ワークを通して幼児の発達や生活の特徴に応じた計画立案能力を付けていくことを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に計画が必要な理由が理解できる。 2. 教育課程や保育課程についての概念、その編成や展開の仕方等が理解できる。 3. 指導計画及びその種類と作成の基本について理解できる。 4. 幼児の発達や生活の特徴及びその指導計画のあり方を具体的に理解できる。 5. ゲームや手遊び、絵本、製作活動などの部分指導計画が立案できる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・・・授業の内容、進め方などの説明		
2.	教育課程・保育課程の考え方・・・教育課程、幼稚園教育要領、保育所保育指針		
3.	長期の指導計画の考え方・・・指導計画の作成の手順、指導計画の種類と実際		
4.	幼稚園における教育課程・・・教育課程の編成、教育課程の実際		
5.	保育所における保育課程・・・保育課程の編成、保育課程の実際		
6.	保育所の幼児の指導計画・・・0歳児、1歳児、2歳児の発達と生活の特徴		
7.	幼稚園3歳児の指導計画・・・3歳児の発達と生活の特徴、指導計画の実際		
8.	幼稚園4歳児の指導計画・・・4歳児の発達と生活の特徴、指導計画の実際		
9.	幼稚園5歳児の指導計画・・・5歳児の発達と生活の特徴、指導計画の実際		
10.	幼稚園文化祭の計画と実際・・・計画的保育の理解		
11.	指導計画立案過程の理解・・・ねらいや内容の設定、環境構成		
12.	「手遊び」の指導計画の立案・・・中心となる活動の理解と立案過程のワーク		
13.	「絵本」の指導計画の立案・・・中心となる活動の理解と立案過程のワーク		
14.	「製作活動」の指導計画の立案・・・中心となる活動の理解と立案過程のワーク		
15.	教育・保育課程論のまとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・教科書をもとに事前、事後の学修をし、分からないことを積極的に質問するようにして下さい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
教育課程保育課程論	河邊貴子 編著	東京書籍	
参考書又は参考資料等			
・授業に関係する参考書は、その都度紹介します。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・幼児教育について、具体的な指導計画案などの書き方も指導しますので、主体的な参加を期待します。教育・保育課程についての知識は、実際に教育・保育を行う際に極めて重要ですので、授業内容を理解するようにして下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
maekawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		保育内容総論	
担 当 者 名		梶田 郁子	
科 目 コ ー ド	2200035	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>【前期】 幼稚園や保育所で行われている生活の内容や、特別に催される園の行事等の保育内容が、どのような保育の目的・目標・ねらいのもとに構想されているか具体的に学習する。さらに環境を通して行う教育の考え方や、子ども理解にはじまる一連の保育の展開について理解する。</p> <p>【後期】 前期の学習を基に、改めて子どもにとっての遊びのもつ意味や、保育者のかかわり方等を学ぶと共に、幼稚園における教育課程と指導計画のあり方、保育所における保育課程と指導計画のあり方について具体例を基に学習する。また、現在の保育内容を理解するために、保育内容の変遷、現代における保育内容に関する課題や問題点について考える。</p>		
授業の到達目標	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針における「目標」や「子どもの発達」「保育内容」を関連付けて保育内容を理解する。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 発達や幼児理解に基づく保育内容のあり方について理解する。 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本である「環境を通して行う教育」や「遊びを通しての総合的指導」「保育の計画」などについて事例を通して具体的に理解する。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容についての理解を深める。 3. 保育の多様な展開の現状を知り、保育内容の課題について考える。 		
授 業 計 画			
1.	保育の基本と保育内容 (1) 保育内容とは何か	16.	環境と保育内容 (1) 幼児の発達と環境
2.	保育の基本と保育内容 (2) 保育の構成と保育内容総論で学ぶこと	17.	環境と保育内容 (2) 環境を通して行う教育① 環境の構成の意味
3.	幼稚園教育要領と保育内容 (1) 幼稚園教育要領の法的位置づけと改訂の柱・領域と総合的活動	18.	環境と保育内容 (3) 環境を通して行う教育② 環境を構成する視点
4.	幼稚園教育要領と保育内容 (2) 幼児教育の特質と保育内容① ねらい及び内容	19.	遊びと学び (1) 幼児にとっての遊び、遊びの中で学んでいること
5.	幼稚園教育要領と保育内容 (3) 幼児教育の特質と保育内容② 環境の構成と保育の展開	20.	遊びと学び (2) 遊びを通しての総合的指導
6.	保育所保育指針と保育内容 (1) 保育所保育指針の法的位置づけと保育内容	21.	遊びと学び (3) 遊びの援助の在り方① 遊びを中心とする教育の在り方と援助
7.	保育所保育指針と保育内容 (2) 保育所保育の特質と保育内容① 養護に関わるねらい及び内容	22.	遊びと学び (4) 遊びの援助の在り方② 遊びを学びとして根づかせるために
8.	保育所保育指針と保育内容 (3) 保育所保育の特質と保育内容② 教育に関わるねらい及び内容	23.	保育内容と計画 (1) 幼稚園における教育課程と指導計画の実際
9.	成熟社会の中の子どもと保育・教育 (1) 発達の捉え方	24.	保育内容と計画 (2) 保育所における保育課程と指導計画の実際
10.	成熟社会の中の子どもの保育・教育 (2) 生きる力としての保育・教育内容	25.	保育内容の変遷 (1) 戦前の保育内容の変遷
11.	幼児理解と保育内容 (1) 幼児理解とは	26.	保育内容の変遷 (2) 戦後の保育内容の変遷
12.	幼児理解と保育内容 (2) 保護者との連携	27.	保育内容における現状と課題 (1) 特色ある保育の問題
13.	幼児理解と保育内容 (3) 子どもを見る目	28.	保育内容における現状と課題 (2) 小学校教育との関連、家庭や地域との関連
14.	幼児理解と保育内容 (4) 幼児理解と保育の展開	29.	保育内容における現状と課題 (3) 保育者の資質の向上
15.	まとめ	30.	まとめ

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
定期試験	授業への取組み姿勢	
70%	30%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
<ul style="list-style-type: none"> 教科書を事前に読んで授業に臨んでください。 インターンシップを利用して、積極的に幼稚園や保育所で自主実習をして子どもの観察をしてください。 		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
新保育シリーズ「保育内容総論」	小田豊、神長美津子、西村重稀 編著	光生館
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> 講義の進度に応じて、適宜紹介する。 		
その他の (受講生への要望等)		
<ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心に授業を進めていくが、必ず毎時間演習をして、考える力を育成するようにする。 必ず毎時間参考資料として幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針解説書を持参すること。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
i.masuda@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	健康（指導法）		
担 当 者 名	木本 節子		
科 目 コ ー ド	2200036	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	乳児・幼児期は人間の生涯において、もっともはつらつとした生活が展開される人格形成の基盤となる発達優位の時期である。その子どもたちの健やかな成長のために健康安全な生活を展開していくことの重要性和保育者としての役割を学ぶとともに保育内容「健康」の位置づけを明確化するとともに養護と教育の一体化を図り、子どもたちの「生きる力」の基礎を培うことの出来る保育者を育成したい。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容を理解し「生きる力」の基礎を育む保育者であることの必要性が体得できる。 2. 「健康」の意義について学び、養護と健康の関係の深さを修得できる。 3. 養護と教育が一体となった保育について修得できる。 4. 教育要領に位置づけられた、食習慣と食育、特に保育内容（5）について理解し、その指導法について体得できる。 5. 人間が生きていく土台となる基本的な生活習慣について理解し、保育現場での指導法について体得できる。 6. 幼時期の心身の発達と特徴について理解できる。 		
授 業 計 画			
1.	保育内容「健康」の意義 - 現代社会における人間にとっての健康・養護とは		
2.	子どもと健康について - 子どもの生活病理（子どもに及ぼす悪影響）		
3.	保育内容「健康」のねらい - 編成と位置づけ（養護と教育が一体となった保育）		
4.	保育内容「健康」の内容① - 「内容」事項及び解説		
5.	保育内容「健康」の内容② - 附属幼稚園の事例を挙げながら指導法について学ぶ		
6.	保育内容「健康」の内容③ - 附属幼稚園の事例を挙げながら指導法について学ぶ		
7.	健康な生活の基礎 - 基本的な生活習慣の意義と内容		
8.	子どもにとっての運動遊びについて① - 筑紫オリンピック大会準備		
9.	子どもにとっての運動遊びについて② - 筑紫オリンピック大会参加		
10.	健康と安全（安全マニュアル）① - 安全の意義と安全指導		
11.	健康と安全（事例研究）② - 幼児の事故（固定遊具・交通安全・病気への予防）		
12.	発達段階に即した遊び及び安全① - グループ研究を行いその関わりについて演習		
13.	発達段階に即した遊び② - 子どもの生活と発達における学び・関わりについてグループ研究を行い演習		
14.	ビデオ「子どもはうったえている」鑑賞- 感想をレポートする		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	提出物	授業への取り組み姿勢	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
① 附属幼稚園と連携したシラバスの中で、園児たちと行事などを共有することが保育現場での応用力に繋がる。			
② 子どもが育つ環境と社会の変化について自分なりに考えてみてほしい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	
保育内容「健康」	井筒紫乃	圭文社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○『附属幼稚園「安全マニュアル」』			
そ の 他（受講生への要望等）			
※成績評価については、授業中のノート、作品などの提出状況及び定期試験の結果を総合して評価を行います。			
・教育要領・保育所指針を理解することは保育者になる為の基礎知識です。また、健康の領域は養護と密接な関わりがあり、乳幼児期の発達段階を考慮した保育のあり方をこの授業の中で学んで下さい。			
・授業内容について理解不足の学生は、授業終了後を活用して指導を受けて下さい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		人間関係（指導法）	
担 当 者 名		寺本 普見子 ・ 竹並 正宏	
科 目 コ ー ド	2200037	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	人は、お互い支えあって生きていく存在であり、人との結びつき、人間関係の中にこそ認められるといえる。平成 20 年に文部科学省より「幼稚園教育要領」が改訂された。他領域とくらべ、「人間関係」には「生きる力」の育成を中心とした子どもにふさわしい道徳性を目指す位置として「人間関係」が重要な役割を担う領域であることが示されている。自分の力で行動することの充実感を味わう、親しみ、かかわり、愛情、信頼感を持ち、望ましい習慣や態度を身に付けることを「ねらい」とする。子どもの視点から人とのかかわりをとらえ明確にし、生活や遊びを総合的に援助できるような保育者の姿勢を理解するとともに、他領域との関連性の重要さを学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」に示されている「ねらい」「内容」等について理解する。 2. 領域「人間関係」と他の領域との相互関係を踏まえながら修得する。 3. 子どもの発達と人間関係を理解する。 4. 子どもの視点から人とのかかわりをとらえ、園生活と人間関係を学ぶ。 5. 領域「人間関係」において地域、高齢者とのかかわりを理解する。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション、授業内容の説明		
2.	保育における「人間関係」の領域のとらえ方		
3.	保育における「人間関係」の領域のねらい		
4.	保育における「人間関係」の領域の内容の取扱い		
5.	保育における「人間関係」の五領域との関連性		
6.	子どもの発達と人間関係・乳幼児の発達を支える人間関係		
7.	子どもの発達と人間関係・＜家庭、地域、園＞子どもを取り巻く人的環境		
8.	子どもの発達と人間関係・人間関係の発展と発達の諸側面		
9.	園生活と人間関係・園生活の構造		
10.	園生活と人間関係・園生活の中で育つ人間関係		
11.	園生活と人間関係・さまざまな保育形態の中で育つ人間関係		
12.	地域・高齢者との活動		
13.	人間関係がもたらすもの・・・・・・・・グループ研究①		
14.	社会性の発達・・・・・・・・グループ研究②		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢	提出物	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・毎回の授業内容については教科書を事前に予習しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
演習 保育内容人間関係	田代和美、松村正幸	建帛社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	
参考書又は参考資料等			
・教科書補足のため、プリント配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
①授業ファイル（毎回の授業内容を記述）を作成、提出すること。			
②提出物の期日を守ること。			
③授業内容について質問等、対応が必要な学生は授業終了後、あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	環境（指導法）		
担 当 者 名	高井 真夫		
科 目 コ ー ド	2200038	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくために必要な知識、技術、判断力を習得する。特に、領域「環境」に示されているねらいと内容について、その基本的な考え方を他の領域との相互の関連性を踏まえながら解説し、幼児が好奇心や探究心を持って周囲のさまざまな環境とかかわり、主体的に生活（あそび）を展開できるようにするための具体的な指導法および活動事例などについて学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「環境」に示されている「ねらい」や「内容」等について、その基本的な考え方を理解する。 2. 子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うための領域「環境」に関係する多くの活動事例を学び、その指導法について理解する。 3. 保育者として知っておいて欲しい身近な動物、植物及び自然事象などの自然環境や自然科学に関する多くの知識を身に付けることができ、それらに興味、関心を示すことができる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション	授業内容全体の説明	
2.	幼児教育(保育)のめざす方向	幼児教育(保育)の基本	
3.	領域「環境」の考え方	領域「環境」のとらえ方と保育の展開	
4.	領域「環境」のねらい、内容	領域「環境」のねらい、内容および内容の取扱い	
5.	幼児の発達と環境の構成	幼児の発達、環境の構成および幼児の活動	
6.	植物とのふれあい	植物とふれあうことの意義と活動の事例	
7.	動物とのふれあい	動物とふれあうことの意義と活動の事例	
8.	物とのふれあい	身近な素材とふれあう活動と事例	
9.	遊具・用具とのふれあい	用具への親しみと遊具を使って遊ぶ事例	
10.	自然事象とのかかわり 1	気象現象にかかわる活動と事例	
11.	自然事象とのかかわり 2	季節、天体にかかわる活動と事例	
12.	地域とのかかわり	地域の事および施設にかかわる活動と事例	
13.	情報とのかかわり	情報機器、絵本・言語情報にかかわる活動と事例	
14.	数量・図形とのかかわり	数量・図形にかかわる活動と事例	
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への参加度(発表、課題提出)		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>・授業のはじめに前回の授業内容の復習はするが、領域「環境」の内容が広い範囲にわたるため、毎回の授業内容については、教科書、ノートでその都度確実に理解しておいて欲しい。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
新子どもと環境〈理論編〉	奥井智久、芦田宏	三晃書房	
参考書又は参考資料等			
○「幼稚園教育要領解説」 文部科学省（フレーベル館）			
○「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>・教科書に沿って段階的に授業を進めるが、発表、課題提出を課すため欠席すると不利になるので注意すること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
takai@hcc.ac.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		言葉（指導法）	
担 当 者 名		寺本 普見子	
科 目 コ ー ド	2200039	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>「言葉」は、子どもの様々な側面と刺激し合い育ち合うものであり、人と人との関係の中で「心」を大切にすることによって生きるものである。乳幼児がいかに主体的に環境と関わり、生活体験を通しての言葉を自分のものとしていくか、又、いかに言葉を使って自分の気持ちや考えを表現していくのか。つまり「言葉の獲得」を援助する保育者としての立場から考える。教材としての童話・絵本・紙芝居・人形劇等について立体的に授業を進めていき、子どもの言葉の発達と指導法の在り方を学習する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「言葉」の領域について理解する。 2. 子どもの「言葉」獲得にあたっての発達的な特徴について理解する。 3. 保育における「言葉」に対する援助の実際、及び園行事について理解する。 4. 発達段階別絵本の扱い方を理解する。 5. 言葉獲得のための文化財の活用の仕方を理解する。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション 授業内容の説明		
2.	保育における「言葉」の領域のとらえ方		
3.	保育における「言葉」の領域のねらい、内容の取扱い		
4.	保育における「言葉」の五領域との関連性		
5.	子どもの「言葉」獲得にあたっての発達的な特徴について		
6.	日々の保育を豊かにする園行事の展開		
7.	ことばが育つ環境について		
8.	ことばを豊かにする「ことばあそび」		
9.	子どもを育てる言葉の文化財（絵本・素話・紙芝居）		
10.	子どもを育てる言葉の文化財（指人形・手遊び）		
11.	子どもを育てる言葉の文化財（パネルシアター）		
12.	子どもを育てる言葉の文化財（ペープサート）		
13.	子どもの言語障害について		
14.	保育者の言語感覚について		
15.	まとめ・到達目標・カルテ作成		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢	提出物	
80%	10%	10%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、準備学習、事後学習について連絡します。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・教科書補足のため、プリント配布。			
そ の 他 （受講生への要望等）			
① 授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）してください。			
② 提出物は期日までに必ず提出してください。			
③ 授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応します。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		表現（指導法）	
担 当 者 名		木本 節子	
科 目 コ ー ド	2200040	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	<p>表現という、音楽、造形的なものとして考えることが多い。しかし本当の意味の表現とは自分の内面的な「こころ」の動きを表出するものであり、その表出も心の育ちの度合いによって異なってくる。その「こころ」の内面を人間の持っているあらゆる手段（書く、描く、歌う、体など）を通して表出することが表現活動である。その子どもの表現活動を豊かにするためには保育者自身が豊かな感性を持つことが重要であり、それが子どもの豊かな表現意欲へと繋がってゆくのである。そこで附属幼稚園の生活や遊びの姿を通して子どもたちの心の動きやつぶやきを観察しそれを受容共感したり、見守ったりしながら表現する過程を大切に、自己表現を楽しみ、大学祭・保育教職実践演習との関連性を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<p>①領域「表現」のねらいと内容を理解し、キャリア教育・保育教職実践演習との関連性について理解できる。 ②「表現の意義」、保育者の豊かな感性について学び、子どもと感動体験を共有することの大切さを附属幼稚園の保育現場を通して体得しそれを保育に展開する方法を学ぶ。 ③附属幼稚園の行事について理解し事前準備の必要性、教材、教具の選び方や環境構成について理解する。 ④創作絵本の内容を理解し、自分なりの表現活動を楽しむ。 ⑤生活や遊びの連続性を確保し適切な環境を構成することの必要性を理解する。</p>		
授 業 計 画			
1.	領域「表現」とは何か	表現と感性について-A グループ このほり造形活動を共有する	
2.	心身の健康に関する領域「健康」と表現活動	-A グループ このほり交流会に参加	
3.	人とのかかわりに関する領域「人間関係」と表現活動		
4.	身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」と表現活動		
5.	言葉の獲得に関する領域「言葉」と表現活動		
6.	感性と表現に関する領域「表現」と表現活動	-B グループ 運動会道具づくり演習	
7.	生活的表現活動	-B グループ 運動会リハーサル参加・(6月)運動	
8.	創造的表現活動		
9.	創作絵本（一本のすももの木）を黙読したり、他者（園児）へ読み聞かせをする	-C グループ 誕生会準備・参加	
10.	一本のすももの木を通して五領域の関連性について学ぶ（総合的指導）	-D グループ 学園内のすももの狩り	
11.	感性と創造性を育む表現 ①表現を豊かにする環境と援助 ②季節と表現活動（体の動き、うた、弾く、演じるなど）	公開保育を通して活動と展開方法を学ぶ	
12.	アクティブラーニングを立案	自分達で制作した作品を活用して表現活動へつなげていくことにより他の授業との関連性を学ぶ (附属幼稚園園児参加)	
13.	アクティブラーニングを計画		
14.	アクティブラーニングを実施（発表）		
15.	まとめ・ 到達目標・カルテ作成		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢	小テスト	レポート
60%	20%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>①附属幼稚園と連携を密にしたシラバスの中で、公開保育などを通して園児と表現活動や行事などを共有することが保育現場での応用力につながる。 ②表現力を身につけるためには、感動体験が不可欠である。幼い頃の感動した絵本や心に残った原体験などをまとめて授業に臨んでほしい。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
一本のすももの木	木本節子 著		
参考書又は参考資料等			
○「幼稚園教育要領」 文部科学省 ○「保育所保育指針」 厚生労働省			
そ の 他（受講生への要望等）			
・授業内容について理解不足の学生は授業終了後、指導を受けること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名	保育内容（子どもと環境）		
担 当 者 名	富永 睦子		
科 目 コ ー ド	2200041	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭選択必修 保育士選択
授業の概要と方法	子どもたちが環境にどの様に関わり、その関わりが領域「環境」の内容に示されている具体的な経験として積み重なる為に、「何が必要か、何を保障し、支えなければならないか」等、環境の捉えに対する感性や環境構成援助について考える力を養う。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境が子どもの育ちや学びにどんな意味を持っているか、環境の重要性を理解する。 ・環境と体験学習との関係や、子どもの豊かで多様な経験を支える為に、保育環境をどう捉え、活動を実践していくか具体的事例を基に視点と理解を深める。 		
授 業 計 画			
1.	幼児期は環境による教育であることの意味をしっかりと捉える		
2.	環境の中に埋め込まれている学びや芽生えについて		
3.	環境を活かす為の指導計画の視点		
4.	◇春の季節を活かす		
5.	・風との出会い（まわる、揺れる、膨らむ、転がる） 自然物（竹の子、桜、チューリップ、石）を活かす		
6.	・新聞紙を活かす工夫（迷路作り、鳥になって、やぶったり、丸めたり、つめたり）、オタマジャクシを育てる		
7.	◇夏の季節を活かす		
8.	・自然現象（雨を活かす出会い、流れる、ためる、色流し）、水遊び（泡作り、スポンジを使って）		
9.	・夏野菜を活かす（切ってみよう、何ができるかな、匂い、形、スタンプ遊び）		
10.	◇秋の季節を活かす		
11.	・自然物（木の実／葉、イモのつる、ススキを使って）、光がつくるもの（影のおもしろさや色のきれいさ）		
12.	・クリスマスをテーマに（材料を工夫して活かすグッズ作り）、フアフアを探そう		
13.	◇冬の環境を活かす		
14.	・お正月遊びのいろいろ（おせち作り、おみくじごっこ、こま作り）、節分・ひな祭り（オニグッズ）		
15.	・野菜の水栽培、ミカンで遊ぶ（匂い・形・分ける）、雪や氷との出会い（ペンダント、氷のかお）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
ノート提出		レポート提出	
50%		50%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
特になし			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
・子どもが自ら環境に働きかけ、意欲的に活動し、好奇心や探究心を膨らませていく様な「身近な環境への出会わせ方や活かし方」を具体的に学んでほしい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義開始 10 分前と終了後 10 分間は、小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて対応。		

授 業 科 目 名	保育内容（子どもの生活と遊び）		
担 当 者 名	岩橋 敏子		
科 目 コ ー ド	2200042	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭選択必修 保育士選択
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちに関わる「生活と遊び」の意味や本質に関する知識を深める ・子どもの思いや願いを捉え、遊びの体験の中に五領域のねらいを相互に関連させながら、総合的活動を展開していく方法を学ぶ。 		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの「生活の自立と生活指導の重要性」について理解する。 ②子どもにとっての「遊びの意味」や「教育的意義」について理解する。 ③子どもは遊びを通して、どんな学びや芽生えのきっかけを手に入れているか、遊びの発達段階、課題、展開、援助について実践例を基に理解する。 		
授 業 計 画			
1.	子どもと生活 ・子どもの育ちと生活の関係、生活指導の目的と重要性の理解		
2.	子どもと生活 ・園生活の中にある生活指導場面、年齢別の援助、課題の捉え		
3.	子どもと遊び ・総合的指導の為の計画、具体的活動展開、援助の方法		
4.	◇春の季節を活かすあそび		
5.	・風の力をあそびにつなげて、光と影のあそび、こいのぼりと運動あそび		
6.	・チューリップを使って（葉、花、球根）／朝顔の栽培の中で「気付く」「知る」		
7.	◇夏の季節を活かすあそび		
8.	・雨や水を活かして（色、音、集める方法）／カタツムリの飼育で学ぶ（生態、命、作る）		
9.	・スポンジの特徴を活かして／砂や石を使って大きな顔と口を作ろう		
10.	◇秋の季節を活かすあそび		
11.	・木の葉、実を活かした遊び（色、量、形、命）／おひさまの不思議		
12.	・お店屋さんごっこやクリスマスをテーマに（ごっこあそびへの展開／材料を工夫する製作）		
13.	◇冬の季節を活かすあそび		
14.	・お正月をテーマに（廻るに着目、文字や数への興味、伝統文化を知る）		
15.	・雪、氷との出会い／節分、ひなまつりの遊びの展開		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
レポート・他	ノート・作品提出	授業への取組み姿勢	
40%	40%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
・子どもの育ちに必要な多くのことが埋め込まれている遊びを、単にマニュアルとして知るのではなく、「何がどう育つか、育てるか」を総合的活動の実践例を通して読み取ってもらいたい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		保育内容（子どもの文化と表現）	
担 当 者 名		今津 尚子	
科 目 コ ー ド	2200043	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	幼稚園教諭選択必修 保育士選択
授業の概要と方法	本授業では、日本の子ども文化の歴史や教育的意義を知り、子どもの各年齢の発達段階の理解と関わり方を学び、その伝承について学生同士主体的に探究していく。児童文化財の教材研究をする中で保育実践に役立つ指導法を学び、表現することの楽しさや保育者としての喜び、使命感が持てるように演習を行う。		
授業の到達目標	① 児童文化財の内容を知り、その教育的意義を理解する。 ② 保育における子どもの発達に合わせた児童文化財の活用方法や指導法を習得する。 ③ 児童文化財を教材として作成し、現場で役立つ指導法を体得しながらスキルアップを図る。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション（学習グループの構成を行い、授業内容と評価法について概説する）		
2.	子どもの文化の歴史と教育的意義について説明する。（子どもの現状についてグループ討議をする）		
3.	子どもの発達と文化財について説明する。（各年齢の発達段階に即した遊びについて考察する）		
4.	伝承遊びの実践と指導法を解説する。（伝承遊びの演習を行う）		
5.	保育に生かす教材を作成する。（ネームプレート）		
6.	保育に生かす教材を作成する。（壁面構成）		
7.	保育に生かす教材を作成する。（“ウェビング”の手法を利用した玩具）		
8.	児童文化財の研究と感性を育てる教材を作成する。（行事に役立つ表現内容と教材の研究）		
9.	教材の研究①…テーマ決め、内容の構成、指導案の作成		
10.	教材の研究②…製作		
11.	教材の研究③…演習発表・アクティブ・ラーニング法の学修（評価と改善）		
12.	児童文化財の研究と感性を育てる教材を作成する。（保育実践に役立つ表現方法と教材の研究）		
13.	教材の研究①…エプロンシアターの製作		
14.	教材の研究②…エプロンシアターの製作（表現方法）		
15.	エプロンシアターの演習発表・授業総括・レポート、ファイル提出		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
論文・まとめのレポート	演習発表	授業中の発表、討論	授業態度、授業の参加度
50%	30%	10%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義にて、事前準備についての説明や事後学修の振り返りをする。 ・授業内容のファイルを作成（授業内容の記述・配布した資料の添付、レポートの整理）する。＊最終日に提出する。 ・日頃から子どもが育つ環境、社会の変化、児童文化財について文献や報道を通じて把握する。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
・授業に応じ、毎回資料を作成し配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・授業に必要な材料は事前に準備し、当日必ず持参すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
shouai@kwuc.ac.jp	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	乳児保育 I		
担 当 者 名	早川 とも子		
科 目 コ ー ド	2200044	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	近年、乳児の保育・子育て支援が社会的に要求され「乳児保育」の充実が求められてきている。乳児が心身共に健全に発育するために保育者として乳児の生活の支援、援助、配慮のあり方を理論的、具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	1) 生命の誕生を喜び、乳児の発達過程を理解し、保育することに喜びを持つ。 2) 乳児保育の役割と機能、乳児への適切な支援、配慮する方法を理解する。 3) 乳児の基本的信頼関係を育み、母子関係、愛着関係の大切さを理解する。 4) 乳児や家庭を取り巻く現状を把握し、保護者とのパートナーシップの大切さを考える。		
授 業 計 画			
1.	乳児保育とは何か。児童福祉法、制度を理解する。		
2.	乳児保育とは何か。「人間発達における乳児期の意味」について理解する。(DVD 視聴、グループ討議)		
3.	「赤ちゃんの生後1年間の驚くべき能力」DVD 視聴を通して理解する。		
4.	愛着関係と自我の育ち、人とかかわることの大切さを理解する。レポート作成。		
5.	現代の親の特徴と子育て支援の方向性を理解する。		
6.	6ヶ月未満児の身体機能を学ぶ。		
7.	6ヶ月未満児の生活(授乳、排泄、睡眠機能)を学び、配慮、援助を理解する。 (人形を使用して、授乳、オムツ換えの演習)		
8.	6ヶ月未満の言葉の発生、人とかかわりを学び、配慮、援助、環境構成について理解する。		
9.	6ヶ月児～1歳3ヶ月の身体機能を学ぶ。		
10.	6ヶ月児～1歳3ヶ月の生活(授乳、排泄、睡眠機能)を学び、配慮、援助を理解する。		
11.	6ヶ月児～1歳3ヶ月の人とかかわり(言葉、社会性)を学び、配慮、援助、環境構成について理解する。		
12.	誕生から1歳3ヶ月児の発達を促がすあそびを学ぶ。(わらべうた、絵本)		
13.	乳児の発達を促がす手作りおもちゃ作成。		
14.	集団生活の中での病気や配慮点、安全について理解する。		
15.	保育所を中心とした子どもの育ちをめぐる連携を理解する。(事例研究)		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート・発達表	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成時に、関係者からの聞き取りを行っていく。 ・年齢の発達、配慮、援助を事後学修として「発達表」作成すること。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
改訂 新・乳児の生活と保育	松本園子	ななみ書房	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ○「演習 乳児保育の基本」 萌文書林 ○「新保育講座 14 乳児保育」 ミネルヴァ書房 ○「乳児保育の実践 子育て支援」 ミネルヴァ書房 ・DVD「現代心理学 発達と支援」を視聴する。 ・資料を配布 			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・提出の期日を守ること。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後10分間は小倉北区キャンパス2号館4階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		乳児保育 II	
担 当 者 名		早川 とも子	
科 目 コ ー ド	2200045	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	近年、乳児の保育・子育て支援が社会的に要求され「乳児保育」の充実が求められてきている。乳児が心身共に健全に発育するために保育者として乳児の生活の支援、援助、配慮のあり方を理論的、具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	1) 「人」の誕生の重さを理解し、保育することに喜びを感じる。 2) 乳児の発達の道筋を理解し、適切な配慮、援助する方法を理解する。 3) 乳児保育を保育課程から指導計画を立案することを学ぶ。 4) 保育の記録、反省、評価することを理解し、保育に生かすことを知る。 5) 乳児や家庭を取り巻く現状を把握し、保護者とのパートナーシップの大切さを考える。		
授 業 計 画			
1.	1歳3ヶ月児～2歳児の身体機能の発達を学ぶ。		
2.	1歳3ヶ月児～2歳児の生活（食事、排泄、睡眠機能）を学び、配慮、援助を理解する。		
3.	1歳3ヶ月児～2歳児の人とのかかわり（言葉、社会性）を学び、配慮、援助、環境構成を理解する。		
4.	1歳児の発達を促がす遊びを学ぶ。（わらべうた、ことばあそび、絵本）		
5.	2歳児の身体機能の発達を学ぶ。		
6.	2歳児の生活（食事、排泄、睡眠機能）を学び、配慮、援助を理解する。		
7.	2歳児の人とのかかわり（言葉、社会性）を学び、配慮、援助、環境構成を理解する。		
8.	2歳児の発達を促がす遊びを学ぶ。（わらべうた、文学あそび、絵本、ごっこあそび）		
9.	乳児の発達、その特質を現場の乳児の姿を通して理解する。		
10.	保育指針より乳児保育を学ぶ。		
11.	保育計画（保育課程から指導計画を作成するための観点、要点を学ぶ）		
12.	記録、反省、評価について（次の保育に生かす方法を学ぶ）		
13.	保育所での保育と乳児院での養護との違いについて理解する。		
14.	保護者と信頼関係を築く子育て支援の在り方を理解する。		
15.	乳児と生活を共にする保育者の役割を学ぶ。		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	発達表	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・年齢の発達、配慮、援助を事後学修として「発達表」を作成すること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
改訂 新・乳児の生活と保育	松本園子	ななみ書房	
参考書又は参考資料等			
○「演習 乳児保育の基本」 萌文書林 ○「新保育講座 14 乳児保育」 ミネルヴァ書房 ○「乳児保育の実践 子育て支援」 ミネルヴァ書房 ・DVD「保育指針」を視聴する。 ・資料を配布			
そ の 他（受講生への要望等）			
・提出の期日を守ること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後10分間は小倉北区キャンパス2号館4階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		障害児保育 I	
担 当 者 名		水江 富美子	
科 目 コ ー ド	2200046	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	障害児保育について、幅広く基本を学び、気になる子どもや、障害のある子どもの状態を理解する。また、保育の在り方や、個別のニーズに応じた支援方法を学ぶ。 ビデオを利用して、統合保育の様子を見る。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育の歴史を知る。 2. 現在の障害児保育の流れを知る。 3. 様々な障害について理解する。 4. 保育場面での関わり方や、保育士の役割の基本を知る。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	障害児保育の歩み		
3.	障害のある子どもの理解		
4.	障害児保育の理念、形態、保育に必要な視点		
5.	障害児保育の現状		
6.	発達の理解		
7.	障害の原因的理解		
8.	発達障害 自閉症スペクトラム		
9.	気になる子どもとその他の障害の理解		
10.	障害のある子どもの保育の基本目標		
11.	保育者の基本姿勢		
12.	保育の場でできる援助：環境		
13.	保育の場でできる援助：視覚支援		
14.	専門的指導法		
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
新・障害のある子どもの保育	伊藤健次 編	みらい	
参考書又は参考資料等			
・講義中に適宜、資料を配布する。			
そ の 他 （受講生への要望等）			
・いろいろなメディアで障害について発信されていることに、関心をもって欲しい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	障害児保育 II		
担 当 者 名	水江 富美子		
科 目 コ ー ド	2200047	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	「障害児保育Ⅰ」で学んだことをベースに、「障害児保育Ⅱ」では、効果的なコミュニケーション方法や、活動場面での具体的な支援方法を学ぶ。事例をとおして、要因や支援方法を各自が考える。また、保護者支援、学校、地域との連携について、どのように進められているかを知る。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の検討を通して、様々な行動に対応できるようになる。 2. 子どもを肯定的に受け入れ、子どもの視点に立って考えられる保育士を目指す。 3. 保育実習で、気になる子どもとの出会いの中で、学んだことを活かす。 4. 連携を通して地域の資源を知る。 		
授 業 計 画			
1.	行動観察		
2.	応用行動分析の保育への応用		
3.	基本的な生活習慣の援助		
4.	課題分析		
5.	ことばやコミュニケーションの支援 ①支援の必要性		
6.	ことばやコミュニケーションの支援 ②支援の方法		
7.	個別支援と集団支援		
8.	遊びの支援		
9.	造形の支援		
10.	障害のある子どもの保育の計画		
11.	保育の実践と評価		
12.	小学校との連携		
13.	保護者への支援		
14.	保育関連施策		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
新・障害のある子どもの保育	伊藤健次 編	みらい	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義中に適宜、資料を配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・いろいろなメディアで障害について発信されていることに、関心をもって欲しい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名	社会的養護内容		
担 当 者 名	竹並 正宏		
科 目 コ ー ド	2200048	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	里親制度や児童福祉施設（特に児童養護施設、乳児院、障害児施設、児童自立支援施設など）の目的と機能、用いられる援助技術および現状と課題を理解するとともに、子どもとその家族を支えるための様々な機関等の理解や連携の必要性と方法について理解を深める。また児童養護及び里親家庭における児童養護の制度や援助内容について把握する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についての姿勢が身に付いている。 2. 児童福祉法に触れながら、個々の児童に応じた支援計画を作成して、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について身に付いている。 3. 目標を定め実施のための計画を立て、ソーシャルワークの方法と技術について適切に行動することができる。 		
授 業 計 画			
1.	児童養護とは・・・児童養護の概念を理解する		
2.	児童養護の理念、原則、方法・技術①児童養護の理念、原則について理解する		
3.	児童養護の理念、原則、方法・技術②児童養護の方法について理解する		
4.	家庭・家族に困難をもつ子どもの養護①里親制度の概要について理解する		
5.	家庭・家族に困難をもつ子どもの養護②里親制度の現状について理解する		
6.	家庭・家族に困難をもつ子どもの養護③乳児院について理解する		
7.	家庭・家族に困難をもつ子どもの養護④児童養護施設の概要について理解する		
8.	家庭・家族に困難をもつ子どもの養護⑤児童養護施設の現状について理解する		
9.	家庭・家族に困難をもつ子どもの養護⑥母子生活支援施設について理解する		
10.	子どもの養護①知的障害児施設、自閉症児施設について理解する		
11.	子どもの養護②肢体不自由児施設、重症心身障害児施設について理解する		
12.	子どもの養護③心身の発達に援助を求める地域療育システムについて理解する		
13.	子どもへの援助と養護①情緒障害や非行のある子どもの特徴についての理解		
14.	子どもへの援助と養護②情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設の援助理解		
15.	まとめ		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
定期試験	授業への取り組み姿勢	レポート	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉の目的や状況に応じた適切な言動をとることができる姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して予習及び復習に取り組む。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
子どもの養護-社会的養護の原理と内容-	松本峰雄	建帛社	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布して重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 			
そ の 他（受講生への要望等）			
・社会的養護内容を通して、家庭支援、児童家庭福祉の目的や状況に応じた適切な言動をとることができ、身に付くことを認識して臨むこと。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
takenami@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	保育相談支援		
担 当 者 名	山下 藹子 ・ 早川 とも子		
科 目 コ ー ド	2200049	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士必修
授業の概要と方法	子育て中の母親の孤立、子育て経験の不足や悩み、不安を抱える親を支える身近な家族、地域力の弱体化する中、子どもと子育て家族を取り巻く環境の変化が著しい。そこで、保育士の専門性をいかした保護者支援の在り方を理論的、具体的に事例を通じて、内容や方法を学ぶ。更に、地域の専門、関係機関との連携を図り、支援活動の役割、機能を理解する。		
授業の到達目標	1) 保護者支援の意義と原則について理解する。 2) 保護者支援の基本を理解する。 3) 保護者相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4) 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。		
授 業 計 画			
1.	子育て、子育ての現状を理解し、子育て（保護者）支援の理念	山下担当	
2.	保育士の特性と専門性を生かした保護者支援の視点（事例研究）	山下担当	
3.	保育士資格の法制化と保育士の課題（DVD 視聴）	山下担当	
4.	子ども・家庭福祉の理念・サービスと保育士の位置関係（子どもの最善の利益と福祉の重視）	山下担当	
5.	保育指導の意義と基本視点（手作り絵本作成）	山下担当	
6.	信頼関係を基本とした保育相談支援と保育ソーシャルワーク	山下担当	
7.	地域の資源活用と関係機関との連携・協力（DVD 視聴）	山下担当	
8.	保育支援を必要とする保護者への対応（事例研究・グループ討議）	山下担当	
9.	求められる保護者支援の内容、方法（事例研究）	山下担当	
10.	保護者支援の展開過程と基本技術構造	早川担当	
11.	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス	早川担当	
12.	保育所（園）における保育相談	早川担当	
13.	保育所（園）における特別な対応を必要とする家庭への支援（グループ討議）	早川担当	
14.	児童擁護施設等要保護児童の家庭に対する支援（DVD 視聴 事例研究 ・グループ討議）	山下担当	
15.	障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援（DVD 視聴 事例研究・グループ討議）	山下担当	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業への取り組み姿勢	提出物	レポート
60%	15%	15%	10%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・レポート作成に事前勉強をしておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
「保育相談支援」	柏女霊峰・橋本真紀	ミネルヴァ書房	
※その他資料については、授業中に適宜資料配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「保育者の保護者支援」（フレーベル館） ○「保護者支援（スキルアップ講座）」ひかりのくに社 ○「保育の友 園と家庭をつなぐコミュニケーション事例集」全国社会福祉協議会			
そ の 他（受講生への要望等）			
①手作り絵本の材料準備をすること。 ②提出物の期日をまもること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。		

授 業 科 目 名		保育実習 I	
担 当 者 名		岩橋 敏子 ・ 藤岡 良幸	
科 目 コ ー ド	2200050	授 業 形 態	実習 (保育所実習)
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	4 (※1年後期・2年前期を 合計した単位数)	履 修 方 法	保育士必修 レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	保育士は、保育所や児童養護施設等の社会的な役割を具体的に理解した上で、子どもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。この授業の中で、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学んだ上で、保育士としての役割や職業人としての倫理観についての素地を習得することによって、学内での行事や保育・教職実践演習へのつながりを学ぶ。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ○観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ○既習の教科の内容を踏まえて、子どもに対する保育や保護者への支援の在り方などを学ぶ。 ○保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する。 ○保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	保育所の役割と機能についての理解①～保育所の生活と1日の流れ		
2.	保育所の役割と機能についての理解②～保育所保育指針の理解と保育の展開		
3.	子ども理解①～子どもの観察とその記録による理解		
4.	子ども理解②～子どもの発達段階の理解 (0・1・2歳児)		
5.	子ども理解③～子どもの発達段階の理解 (3・4・5歳児)		
6.	子ども理解④～子どもへの援助や関わり		
7.	保育内容・保育環境についての理解と学習①～保育計画に基づく保育内容		
8.	保育内容・保育環境についての理解と学習②～子どもの発達段階に応じた保育内容		
9.	保育内容・保育環境についての理解と学習③～子どもの生活や遊びと保育環境		
10.	保育内容・保育環境についての理解と学習④～子どもの健康と安全		
11.	保育の計画、観察、記録についての理解①～保育過程と指導計画の理解と活用		
12.	保育の計画、観察、記録についての理解②～記録に基づく省察・自己評価		
13.	専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習①～保育士の業務内容		
14.	専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習②～職員間の役割分担や連携		
15.	専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習③～保育士の役割と職業倫理		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
実習先からの評価表・実習記録・提出物		オリエンテーション記録を含むレポート提出	
80%		20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学 編		
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスパワーを活用して指導する。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp (岩橋) / y-fujioka7@hcc.ac.jp (藤岡)			

授 業 科 目 名		保育実習 I	
担 当 者 名		岩橋 敏子 ・ 藤岡 良幸	
科 目 コ ー ド	2200050	授 業 形 態	実習（施設実習）
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	4 （※1 年後期・2 年前期を 合計した単位数）	履 修 方 法	保育士必修 レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	保育士は、保育所や児童養護施設等の社会的な役割を具体的に理解した上で、子どもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。この授業の中で、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学んだ上で、保育士としての役割や職業人としての倫理観についての素地を習得することによって、学内での行事や保育・教職実践演習へのつながりを学ぶ。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ○観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ○既習の教科の内容を踏まえて、子どもに対する保育や保護者への支援の在り方などを学ぶ。 ○保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する。 ○保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	施設の役割と機能についての理解①～施設の生活と 1 日の流れ		
2.	施設の役割と機能についての理解②～施設の役割と機能		
3.	子ども理解①～子どもの観察とその記録による理解		
4.	子ども理解②～個々の状態に応じた援助や関わり		
5.	養護内容・生活環境の理解と学習①～計画に基づく活動や援助		
6.	養護内容・生活環境の理解と学習②～子どもの心身の状態に応じた対応		
7.	養護内容・生活環境の理解と学習③～子どもの活動と生活の環境		
8.	養護内容・生活環境の理解と学習④～健康管理・安全対策の理解		
9.	計画と記録についての理解①～支援計画の理解と活用		
10.	計画と記録についての理解②～記録に基づく省察・自己評価		
11.	専門職としての保育士の役割と職業倫理についての理解と学習①～保育士の業務内容		
12.	専門職としての保育士の役割と職業倫理についての理解と学習②～職員間の役割分担や連携		
13.	専門職としての保育士の役割と職業倫理についての理解と学習③～保育士の役割と職業倫理		
14.	実習の心得		
15.	まとめ		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
実習先からの評価表・実習記録・提出物		オリエンテーション記録を含むレポート提出	
80%		20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学 編		
参考書又は参考資料等			
○「施設実習パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵 編（わかば社）			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導 I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
t0106h0730@hcc.ac.jp（岩橋） / y-fujioka7@hcc.ac.jp（藤岡）			

授 業 科 目 名		保育実習指導 I	
担 当 者 名		岩橋 敏子 ・ 藤岡 良幸	
科 目 コ ー ド	2200051	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2 (※1年後期・2年前期を合計した単位数)	履 修 方 法	保育士必修 認定ベビーシッター必修
授業の概要と方法	学外で保育実習を受けるには、保育実習の意義・目的・実習内容を理解した上で保育者として自らの課題を明確にしていくことが求められる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務については必ず遵守しないといけないものである。学生は、実習の計画、観察、記録、自己評価を行うとともに、事前事後指導を通して実習の総括を行う。その上で、自分の新たな課題を明確にしていける保育者としての素地を修得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益への考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 5. 実習の事前・事後指導を通して総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 		
授 業 計 画			
1.	保育所実習の意義・目的及び実習に向けてのスケジュールについて		(保育所)
2.	施設実習の意義・目的		(施設)
3.	保育所の役割と機能及び保育士の勤務内容・勤務体制について		(保育所)
4.	施設実習の基本的理解		(施設)
5.	子どもの人権と最善の利益の考慮について		(保育所)
6.	施設実習に対する不安		(施設)
7.	保育所実習における達成すべき自己課題について		(保育所)
8.	施設別の実習の内容		(施設)
9.	保育所実習記録の書き方・使い方指導		(保育所)
10.	施設保育士とソーシャルワーク		(施設)
11.	オリエンテーションの捉え方について		(保育所)
12.	施設実習までに身につけておくこと		(施設)
13.	お礼状の書き方指導		(保育所)
14.	施設実習課題の設定		(施設)
15.	保育所実習前学内オリエンテーション		(保育所)
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
授業への取組み姿勢	レポート	小テスト	ノート提出
20%	40%	20%	20%
授 業 外 で 行 っ て 欲 し い 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・ 各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学保育学科 編		
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・ 参考資料随時配布			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導Ⅰ」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解できないときは、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
y-fujioka7@hcc.ac.jp (藤岡)			
t0106h0730@hcc.ac.jp (岩橋)			

授 業 科 目 名	保育実習指導 I		
担 当 者 名	岩橋 敏子 ・ 藤岡 良幸		
科 目 コ ー ド	2200051	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2 (※1年後期・2年前期を合計した単位数)	履 修 方 法	保育士必修 認定ベビーシッター必修
授業の概要と方法	学外で保育実習を受けるには、保育実習の意義・目的・実習内容を理解した上で保育者として自らの課題を明確にしていくことが求められる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務については必ず遵守しないとイケないものである。学生は、実習の計画、観察、記録、自己評価を行うとともに、事前事後指導を通して実習の総括を行う。その上で、自分の新たな課題を明確にしていける保育者としての素地を修得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益への考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 5. 実習の事前指導を通して総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 		
授 業 計 画			
1.	実習の反省、総括及び自己評価について①	(保育所)	
2.	保育の仕事と福祉施設	(施設)	
3.	実習の反省、総括及び自己評価について②	(保育所)	
4.	福祉施設実習での学びの目的	(施設)	
5.	実習時における記録の捉え方について	(保育所)	
6.	福祉施設の理解と概要	(施設)	
7.	年齢別発達段階再認識①	(保育所)	
8.	福祉施設実習での実習生の学び	(施設)	
9.	年齢別発達段階再認識②	(保育所)	
10.	利用者の日常生活から実習生が学んでほしいこと	(施設)	
11.	年齢別発達段階再認識③	(保育所)	
12.	福祉施設実習へ向けての心構えと基礎理解	(施設)	
13.	実習に向けての課題・目的確認及びまとめ	(保育所)	
14.	福祉施設実習の準備及び事前学習	(施設)	
15.	施設実習前学内オリエンテーション	(施設)	
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
レポート	授業への取り組み姿勢	小テスト	ノート提出
40%	20%	20%	20%
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・ 各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
保育所保育指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	
実習の手引き	東筑紫短期大学保育学科 編	東筑紫短期大学	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・ 参考資料随時配布			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導 I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解できないときは、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
y-fujioka7@hcc.ac.jp (藤岡)			
t0106h0730@hcc.ac.jp (岩橋)			

授 業 科 目 名		保育実習 II (保育所)	
担 当 者 名		岩橋 敏子	
科 目 コ ー ド	2200052	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	「保育実習Ⅰ」をふまえ「保育実習Ⅱ」は、保育士の資格を取得するために必要な教科目の一つである。その為には今まで学んできた教科目(理論)を習得し保育の現場において保育内容を計画・実践・記録及び自己評価を行い、保育士としての役割を体得するとともに保護者とのかかわりや職業人としての倫理観について学び専門性を豊かにすることを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的に実践を通して理解を深めることができる。 2. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にしていくことで保育への理解を深めることができる。 3. 既習の教科や「保育実習Ⅰ」の経験を踏まえ、子どもへの保育及び子育て、保護者支援について総合的に学び理解することができる。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み理解を深めることができる。 5. 保育士の業務内容や職業倫理については実践に結び付けて具体的に理解することができる。 6. 保育士としての資質や自己の課題を明確化することができる。 		
授 業 計 画			
1.	保育所の役割や機能の具体的展開についての理解①-養護と教育が一体となって行われる保育とは-		
2.	保育所の役割や機能の具体的展開についての理解②-保育所の社会的役割と責任-		
3.	観察に基づく保育理解① -子どもの心身の状態や活動観察		
4.	観察に基づく保育理解② -保育士等の動きや実践の観察		
5.	観察に基づく保育理解③ -保育所の流れや展開の把握		
6.	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携についての理解と学習① -環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育に対する理解		
7.	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携についての理解と学習② -入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援		
8.	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携についての理解と学習③-地域社会との連携		
9.	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価についての理解① -保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の課程の理解		
10.	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価についての理解②-作成した指導計画に基づく保育実践と評価		
11.	保育士の業務と職業倫理についての理解①-多様な保育の展開と保育士の業務		
12.	保育士の業務と職業倫理についての理解②-多様な保育の展開と保育士の職業倫理		
13.	実習の心得		
14.	自己の課題の明確化		
15.	実習前オリエンテーション		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
実習先の評価及び実習記録簿 他	レポートを含む提出物		
80%	20%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・実習中に実施する設定保育内容に対する準備は自分でシュミレーションすると共にすべて事前に用意しておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、参考資料を配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレール館)			
○「実習の手引き」東筑紫短期大学			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
※成績評価については、実習先からの評価、実習記録、レポートなどにより総合的に評価します。			
・学外の実習に出る為、学内での「保育実習指導Ⅱ」の授業には必ず出て下さい。			
・実習前の事前指導及びオリエンテーションには必ず出席して下さい。			
・実習後のレポートは期日を守って提出して下さい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
t0106h0730@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		保育実習 III (施設)	
担 当 者 名		藤岡 良幸	
科 目 コ ー ド	2200053	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	1.児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を習得する。		
授業の到達目標	1.児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		
授 業 計 画			
1.	施設の養護全般に参加し、生活支援・養護技術を習得する。		
2.	子どもの個人差を理解し、対応方法を習得させる。特に発達の遅れや被虐待児、生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その方法を学ぶ。		
3.	援助計画を立案し、演習する。		
4.	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。		
5.	地域社会に対する理解を深め、連携方法を学ぶ。		
6.	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。		
7.	保育士としての倫理観を具体的に学ぶ。		
8.	児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を確立する。		
9.	東筑紫短期大学の保育学科の学生として、実習を行うことの意義・責任を学ぶ。		
10.	実習先が学生に求めている内容を学ぶ		
11.	守秘義務の重要性を理解する		
12.	部分実習・責任実習・レクリエーションを行う		
13.	実習におけるトラブルシューティングを学ぶ		
14.	先輩の体験談と現場の職員の声を聴く		
15.	実習の振り返りを行う		
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
学内・施設オリエンテーション、施設実習 10 日間、実習日誌、施設の評価		レポート	
80%		20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・実習終了後のアンケート（北九州市児童養護施設連絡協議会、その他施設）を行う。 ・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
実習の手引き (本学及び北九州市児童養護施設連絡協議会分)			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「福祉施設実習ハンドブック」岡本幹彦 他（みらい）			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
※成績評価については、オリエンテーション、施設実習、実習日誌、施設の評価レポート等により評価。 1. 実習前の事前指導、オリエンテーション学内・施設は必ず出席すること。 2. 実習後のレポートは、期日を守って提出すること。 3. 実習及び講義は、常に実習にふさわしい服装・髪型その他で出席すること。 4. 「保育実習指導Ⅲ」の授業には必ず出席すること。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
y-fujioka7@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		保育実習指導 II	
担 当 者 名		岩橋 敏子	
科 目 コ ー ド	2200054	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	<p>【前期】 保育について総合的に学ぶ為に、実習や既習の教科内容における関連性を踏まえて保育能力を培うことが必要である。そのため、実習においては保育内容の計画・保育指導案作成・保育環境準備・実践などを通して学ぶだけでなく、保育士としての専門性や職業人としての倫理についても十分な理解を求められることから実習前の演習の中で、保育に対する認識や自己課題が明確にできる力を習得する。</p> <p>【後期】 保育所実習後の振り返りや総括を行う中で、保育士として必要な資質及び子どもの最善の利益を考慮した保育に対して具体的に理解していくことが必要である。また、保育実践力の総括として実習時に行った設定保育の発表や関連する教科目で習得してきた童謡・わらべうた・絵本など各年齢における年間計画を作成することで保育技術を豊かにし総合的な保育実践力につなげていく。そのために総括と自己評価を行うことが大切であり、自己課題を明確にしていくことを目的とする。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。 2. 実習や既習の内容からその関連性を踏まえ、保育実践力を培うことができる。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶことができる。 4. 保育士の専門性と保育者としての資質・職業倫理について理解することができる。 5. 実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にすることができる。 		
授 業 計 画			
1.	保育実習Ⅱの意義と目的 -1回目の実習を振り返り2回目の実習の目的を明確にする。	16.	保育実習における総合的な学び① -実習の振り返り、総括及び保育士の資質に必要なものを考える。
2.	保育実習Ⅱの段階及び実習内容について -実習の手引き、参考プリント読み合わせをする。	17.	保育実習における総合的な学び② -子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解について
3.	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解を考える -子どもの最善の利益を考慮した保育とはどのようなものかをグループで考え発表する。	18.	保育実習における総合的な学び③-子どもの保育と保護者支援について
4.	子どもの保育と家庭支援について -実習先で観察してきた事例などをグループ内で意見交換し発表する。	19.	計画と記録・自己評価①-保育の全体計画に基づいた具体的な計画と実践について
5.	保育実践① -手作り教材作成 (パネルシアター作成)	20.	計画と記録・自己評価② -保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善について
6.	保育士の専門性と職業倫理について -保育士の専門性とは、職業倫理とはどのようなものかを討議する。	21.	保育士の専門性と職業倫理とは
7.	保育実践② -作成した教材(パネルシアター)を使って発表する。	22.	保育実践力の育成① -子どもの状態に応じた保育士の適切な関わりとは?
8.	保育計画(保育課程、指導計画)について① - 保育計画の必要性を考える。	23.	保育実践力の育成② -保育技術を生かした保育実践発表① (年齢別設定保育の実践)
9.	保育計画(保育課程、指導計画)について② -グループで月別カリキュラムを作成する。	24.	保育実践力の育成③ -保育技術を生かした保育実践発表② (年齢別設定保育の実践)
10.	保育実習Ⅱにおける課題の捉え方について -1回目の実習から振り返って考える自己課題をグループ討議する。	25.	保育実践力の育成④ -保育技術を生かした保育実践発表③ (年齢別設定保育の実践)

11.	実習記録日誌の書き方指導① -実習記録日誌の書き方について学ぶ。	26.	保育実践力の育成⑤ -保育課程に基づく年齢別・月別一覧表作成 (童謡・わらべうた)
12.	実習記録日誌の書き方指導② -実習記録のまとめ方、自己課題のまとめ方について学ぶ。	27.	保育実践力の育成⑥ -保育課程に基づく年齢別・月別一覧表作成 (童謡・わらべうた)
13.	手作り教材作成 ① -未満児用にタオル野菜作成：作業開始	28.	保育実践力の育成⑦ -保育課程に基づく年齢別・月別一覧表作成 (絵本)
14.	手作り教材作成 ② -未満児用にタオル野菜作成：仕上げ	29.	事後指導における総括と自己評価
15.	実習に対する心構え (テーマ有) -レポート作成	30.	課題の明確化・まとめ

成績評価の方法 [評価項目と割合]

【前期】

レポート・手作り教材等

100%

【後期】

グループ討議への参加度・実践発表

授業への取組み姿勢

レポート

40%

20%

40%

授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)

- ・手作り教材は、時間内で仕上がらなかった場合、次回の発表時に間に合うよう仕上げてくること。
- ・事前の学内オリエンテーションは必ず出席すること。

使用テキスト

書籍名

著者

出版社

- ・講義中に適宜参考資料を配布する。

参考書又は参考資料等

- 「実習の手引き」東筑紫短期大学
- 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 (フレーベル館)

その他の (受講生への要望等)

※成績評価については授業中に書いたレポート及び手作り教材の提出や設定保育の実践発表、グループ討議への参加度、記録提出などで総合的に評価する。

【前期】

- ・学外実習に出る為、学内での「保育実習Ⅱ」の授業には必ず出て下さい。

【後期】

・後期は実習後なのでその経験を基に実践力を高めるような演習をします。人前で発表するのでしっかりと自分の考えをまとめて臨んでほしい。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail

その他

t0106h0730@hcc.ac.jp

授 業 科 目 名		保育実習指導 III	
担 当 者 名		藤岡 良幸	
科 目 コ ー ド	2200055	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	保育士選択必修
授業の概要と方法	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ばせるとともに、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培わせる。また、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ばせる。さらには、保育士の専門性と職業倫理を理解させ、実習の事前事後を通じて総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にさせる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理を理解する。 5. 実習の事前事後を通して、総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にする。 		
授 業 計 画			
1.	施設実習とは何か（保育実習Ⅲの目的・意義を再確認する）	16.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設①）を発表する。
2.	施設実習の基本的理解（グループ討議）	17.	事例発表 各施設別、実習中の事例（乳児院①）を発表する。
3.	実習に対する不安、実習までに身につけておくこと（グループ討議）	18.	事例発表 各施設別、実習中の事例（母子生活支援施設）を発表する。
4.	実習生に求められるもの（守秘義務等）	19.	事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児入所施設）を発表する。
5.	実習課題の設定（実習課題の作成）	20.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童発達支援センター）を発表する。
6.	実習初日の心得（グループでの自己紹介の練習）	21.	事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児支援施設①）を発表する。
7.	各施設の一日の流れと実習内容	22.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設②）を発表する。
8.	実習日誌とは（各自、実習日誌を書いてみる）	23.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童相談所）を発表する。
9.	指導計画案とは（各自、指導計画案の作成）	24.	事例発表 各施設別、実習中の事例（就労継続支援B型施設）を発表する。
10.	部分実習・責任実習・レクリエーションの実際（マジックショーをやってみる）	25.	事例発表 各施設別、実習中の事例（知的障害者通所施設）を発表する。
11.	日々の振り返りと反省会	26.	事例発表 各施設別、実習中の事例（総合療育センター）を発表する。
12.	実習終了後の作業（実習先への礼状を書く、実習の振り返り）	27.	事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設③）を発表する。
13.	学内オリエンテーション	28.	事例発表 各施設別、実習中の事例（乳児院②）を発表する。
14.	学内オリエンテーション	29.	事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児支援施設②）を発表する。
15.	まとめ	30.	まとめ
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
実践発表	授業への取り組み姿勢	グループ討議への参加度	レポート
40%	20%	20%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・インターンシップを利用して保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・参考資料随時配布			
参考書又は参考資料等			
○「施設実習ガイド」 駒井美智子 編著（萌文書林）			
○「福祉施設実習」 小野澤昇、田中和則、大塚良一 編著（ミネルヴァ書房）			
○「施設実習パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵 共著（わかば社）			
○「新版 施設実習の常識」 教育・保育実習を考える会 編（蒼丘書林）			
そ の 他（受講生への要望等）			
・前期で行う「保育実習Ⅲ」の施設と同様（種別）の施設において、ボランティア活動等をすることが望ましい。			
・「保育実習Ⅲ」で行った施設の他に、種別の違う施設へのボランティア活動を行ってほしい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
y-fujioka7@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	保育・教職実践演習（幼稚園）		
担 当 者 名	前川 公一・寺本 普見子・都留 守・梶田 郁子 他		
科 目 コ ー ド	2200056	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	幼稚園教諭必修 保育士必修
授業の概要と方法	保育・教職実践演習の授業は、教職課程の他の授業科目を通して学生が身に付けてきた知識・技能を点検・確認するとともに学生が不足している授業内容を補完・向上させ、教育や保育の現場で保育者としての使命感、責任感、教育的愛情などを身に付けていくことが目標である。そこで、学生が自分の課題をもって授業に参加できるようにするため、授業最初のオリエンテーションで「保育者として必要な資質能力に関する意識調査」を実施する。それを踏まえて、教職の意義、職務内容、コミュニケーション能力、幼児の理解等の補完・向上を図る。また、子どもの指導や学級経営等の指導計画案を作成し、模擬授業を実施する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針について理解し、それを保育現場で生かそうとする。 2. 保育者としての使命感、責任、愛情をもって、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 3. 授業を通して、幼稚園教育要領や保育所保育指針等への理解を深めることができる。 4. 子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、人間的交流ができる。 5. 模擬授業を通して、その展開方法や環境づくりについて修得できる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション（授業概要の説明、到達度チェック）		
2.	自己評価し、自己の課題についての検討（KJ法による課題の分類と明確化）		
3.	目標を明確にしたグループ編成（自分に付きたい力、やれそうなこと、やってみたいこと）		
4.	個人及びグループの活動計画の作成		
5.	指導計画案の作成①（情報処理）		
6.	指導計画案の作成②（情報処理）		
7.	指導計画案の見直し・検討		
8.	模擬授業の準備①（材料の準備、環境構成等）		
9.	模擬授業の準備②（リハーサル）		
10.	模擬授業の実施と評価①（幼稚園、保育園）		
11.	模擬授業の実施と評価②（幼稚園、保育園）		
12.	模擬授業の実施と評価③（幼稚園、保育園）		
13.	指導計画案の修正と指導計画案集の作成①（情報処理）		
14.	指導計画案の修正と指導計画案集の作成②（情報処理）		
15.	保育・教職実践演習のまとめと学修成果の確認		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
指導計画案	模擬授業	グループ討議等授業への取り組み姿勢	
40%	40%	20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習や保育実習等での報告書などを活用するため資料を整理し、活用できるようにしておいて下さい。 ・今までに学んできたことをしっかり修得しておくようにして下さい。 ・自分の目標を明確にし、自分なりに教材研究し、指導技術を学んでおくようにして下さい。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・授業に関係する参考書は、その都度紹介します。			
そ の 他 （受講生への要望等）			
<p>※成績評価については、保育者として最小限必要な資質能力が身に付いているか否かという観点から各評価項目の割合にもとづいて総合的に評価します。</p> <p>・テキストについては、教職課程の教科で指定された全テキスト、参考書、参考資料等を活用するとともにプリントを適宜配付します。</p> <p>・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待します。</p>			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		キャリア教育演習 I	
担 当 者 名		学科教員	
科 目 コ ー ド	2200069	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法		保育者として、いかに自己実現していくかという観点から、教育・保育現場の実状や必要とされる知識・技能について学ぶことを目的とする。演習では、保育者の生き甲斐や悩みなどに触れ、保育者として自己実現していくための課題について討議しながら考えていく。基本的な教育・保育課題に関わって求められる方法や技能について具体例を提示して考え、身に付けることを目指す。	
授業の到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的な常識について理解し、適切な行動をとることができる。 2. 学校行事等に積極的に参加し、協働して取り組み、学校生活を充実することができる。 3. 保育実習や施設実習等に関わる授業を通して、職場に必要な知識を理解し、適切な行動ができる。 4. 就職活動に関わる諸活動を通して、必要な知識や技能を身に付けることができる。 	
授 業 計 画			
1.	◎オリエンテーション（学園の歴史を知り建学の精神について理解し、記念館の見学をする） ○レクスポ大会について（意義、目的、グループ編成など） ○前期履修届の確認	16.	◎後期の学習と生活の心構えについて ◎「手袋人形の実演を見て、製作の計画を立てる」 ○「追試・再試」について ○「クラス役員決め」「清掃当番」「後期受講登録」について
2.	◎「教職課程」について 学科長講話 「教職課程履修の手引き」をもとに ○「保育実習」「教育実習」の心構えについて ○「インターンシップ」について	17.	◎各グループで「パネルシアター発表会」の会場設営をして練習をする ◎「パネルシアター発表会」をする
3.	◎実習着に付ける名札を製作する。 ○「母校へのメッセージ」作成のための写真撮影（附属幼稚園）	18.	◎「保育者としてのメイク、ヘアメイクについて」（美容ファッションビジネス学科 教員）
4.	◎情報化社会の光と影（情報管理センター） ○「母校へのメッセージ」を修正し完成させる	19.	◎「感染症の予防と対策、及び感染症の子どもへの対応について」（保健室）
5.	◎「認定子ども園附属幼稚園児との『お弁当交流会』の目的について理解し、『お弁当交流会』の準備をする	20.	◎「先輩からのメッセージ」（保育所に就職している先輩）
6.	◎「児童養護施設の実態と課題」について学び、学外実習（施設見学）の準備をする（双葉学園 主任） （双葉学園で勤務している本学卒業生）	21.	◎「幼稚園の魅力」について（私立幼稚園連盟）
7.	◎『お弁当交流会』について、認定子ども園附属幼稚園の先生にお話を伺う	22.	◎「手袋人形発表会」をする（各自が製作した手袋人形を使って手遊びの実演を発表し合う）
8.	◎「認定子ども園附属幼稚園園児との『お弁当交流会』を行う。（園児と手遊びなどをして交流を深め、手作り弁当を園児と一緒に食べる） 前半	23.	◎「先輩からのメッセージ」（幼稚園に就職している先輩）
9.	◎「認定子ども園附属幼稚園園児との『お弁当交流会』を行う。（園児と手遊びなどをして交流を深め、手作り弁当を園児と一緒に食べる） 後半	24.	◎「エプロンシアター講習会」をする（エプロンシアターの実演を見て演じる）
10.	◎学外研修（施設見学） －各施設の特徴と実態を学ぶ－の準備をする	25.	◎「同和教育講座Ⅰ」（2回目）
11.	◎「リプロダクティブヘルスライツ」研修	26.	◎「幼稚園教育の今日的課題と取組」（子ども園附属幼稚園）
12.	◎パネルシアターの実演を見て、製作の計画をたてる	27.	◎「専攻科ガイダンス」（専攻科教員）
13.	◎「同和教育講座Ⅰ」（1回目）	28.	◎「保育実習Ⅰ（観察実習）」に向けて
14.	◎パネルシアターを製作する	29.	◎「先輩の就職活動体験記」（保育学科2年生）
15.	◎前期試験に向けて ◎夏休みの過ごし方について ◎幼稚園実習について	30.	◎進級へ向けて（2年生になって学びたいこと、身に付けたい力）自己評価をする

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
授業や諸活動に対する取組み姿勢	レポート	
50%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に次の授業でまでに必要な内容を指示するので、新聞やテレビ、インターネット、著書、論文などで集め、準備しておくようにする。 		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な資料は、適宜配付する。 		
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関係する参考書等は、その都度紹介する。 		
その他の (受講生への要望等)		
<p>※成績評価については、キャリア教育演習の成果が出ているかといった点も勘案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。 ・キャリアについての意識を強くもつように努め、自分の進路を考えていくようにする。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		

授 業 科 目 名		キャリア教育演習 II	
担 当 者 名		学科教員	
科 目 コ ー ド	2200070	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	保育者として、いかに自己実現していくかという観点から、教育や保育の現場で必要とされる知識・技能について深く学ぶことを目的とする。演習では、保育者の生き甲斐や悩みなどに触れ、保育者として自己実現していくための課題について討議しながら考えていく。教育や保育の課題に関わる知識・技能について具体例を提示して考え、身に付けることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的な常識について理解し、適切な行動をとることができる。 2. 学校行事等に積極的に参加し、協働して取り組み、学校生活を充実することができる。 3. 保育実習や施設実習等に関わる授業を通して、職場に必要な知識を理解し、適切な行動ができる。 4. 就職に関わる諸活動を通して、必要な知識・技能を身に付けることができる。 		
授 業 計 画			
1.	キャリア教育演習の目的・内容・計画	16.	就職演習 (3) 履歴書の書き方
2.	情報化社会に潜む危険性	17.	就職演習 (4) 作文・小論文の書き方
3.	書写正しい平仮名の書き方	18.	大学祭の意義・目的について
4.	幼稚園と保育所・認定こども園	19.	「卒業に向けて」単位取得確認
5.	就職ガイダンス	20.	情報処理演習
6.	学科長講話 (保育者としての心構え)	21.	情報処理演習
7.	就職演習 (1) 将来の職業選択	22.	情報処理演習
8.	就職演習 (2) 将来の職業選択	23.	情報処理演習
9.	特別講座 (認定こども園について)	24.	子どもの安全・防犯対策
10.	私立幼稚園連盟就職懇談会	25.	針供養・成人式等についての学習
11.	保育園連盟就職懇談会	26.	幼稚園教育の課題 (外部講師の講話)
12.	適性検査による自己分析・自己診断	27.	保育現場における環境整備・誕生表作成
13.	社会人としての身だしなみ	28.	卒業に向けての心構え
14.	専攻科ガイダンス	29.	卒業関係連絡・諸注意・書類作成等
15.	定期試験と夏休みの過ごし方	30.	まとめ
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
授業や諸活動に対する取り組み姿勢		レポート	
50%		50%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準備学習・事後学習等)			
・授業中に次の授業までに必要な内容を指示するので、新聞やテレビ、インターネット、著書、論文などで集め、準備しておくようにする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
・授業に必要な資料は、適宜配付する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・授業に関係する参考書等は、その都度紹介する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<p>※成績評価については、キャリア教育演習の成果が出ているかといった点も勘案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。 ・キャリアについての意識を強くもつように努め、自分の進路を考えていくようにする。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。			

授 業 科 目 名		在宅保育論	
担 当 者 名		木本 節子 ・ 岩橋 敏子	
科 目 コ ー ド	2200071	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	認定ベビーシッター必修
授業の概要と方法	<p>近年、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、母親の仕事と、育児の両立支援策が多様に展開されている。さらに、母親の育児不安や孤立感、子ども虐待などが社会問題となっている今日、厚生労働省より「家庭訪問保育」・「居宅訪問型保育」などが平成 27 年度から公的保育制度に位置付けられ、多種の保育サービスが実施されている。</p> <p>そこで、本学では保育士の資格を取得し、さらに在宅保育・在宅保育論・基礎研修などの履修科目を修了することによって集団保育と個別保育（家庭内保育と家庭外保育）の特徴をより深く理解し、「質の高い専門性豊かな温かいベビーシッターの資格と同時に居宅訪問型保育の資格」を取得することを目的としている。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭訪問保育」と「居宅訪問型保育」の制度と意義を理解する。 ・「家庭訪問保育」と「居宅訪問型保育」の社会的役割と実務を修得する。 ・「家庭訪問保育」と「居宅訪問型保育」の目的を理解し、温かな心ある保育者としての自覚をもつ。 ・「家庭訪問保育」と「居宅訪問型保育」サービスの現状を知る。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	家庭訪問保育とは		
3.	家庭訪問保育者としての心得（保育マインド）		
4.	家庭訪問保育を行うための基礎的な知識		
5.	乳幼児の生活と遊び 発達と心理（子ども虐待） 乳幼児の栄養と食事 小児保健Ⅰ・Ⅱ 心肺蘇生法 ※1		
6.	居宅訪問型保育の概要・保育内容		
7.	居宅訪問型保育の運営と環境整備・安全の確保とリスクマネジメント		
8.	居宅訪問型保育者の倫理と保護者への対応		
9.	特別に配慮を要する子どもへの対応		
10.	一般型家庭保育訪問の業務の流れと事故の予防と対応		
11.	さまざまな家庭訪問保育		
12.	実践演習保育技術（食事と栄養編）		
13.	実践演習保育技術（お世話編）		
14.	実践演習保育技術（遊び編）		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取り組み姿勢	レポート	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な保育について自主的に学んでおく。 ・保育実習において 0 歳児～3 歳児までの対応の仕方を体得する。 ・この資格（認定ベビーシッター）は保育士資格取得が必要条件である。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
家庭訪問保育の理論と実際 ～居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト	公益社団法人全国保育サービス協会 監修	中央法規出版株式会社	
参考書又は参考資料等			
・講義中に適宜、資料を配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>※1 「発達と心理」については本学「発達心理学」にて実施。 「乳幼児の栄養と食事」については本学「子どもの食と栄養」にて実施。 「小児保健Ⅰ・Ⅱ」については本学「小児保健Ⅰ・Ⅱ」にて実施。 「心肺蘇生法」については本学「体育」にて実施。</p> <p>・授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
t0106h0730@hcc.ac.jp（岩橋）			

授 業 科 目 名		こども音楽療育概論	
担 当 者 名		佐藤 佳美	
科 目 コ ー ド	2200073	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	こども音楽療育士必修
授業の概要と方法		障がいのあるこどもの音楽療育の基礎・専門知識について学習する。心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びの関係、音楽療育の意義と障害種別の具体的援助法を学ぶ。	
授業の到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのあるこどもの音楽療育の基礎的理念を説明することができる。 ・心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びの関係、さらに障害種別の具体的援助法を説明することができる。 	
授 業 計 画		事前・事後学習について	
1.	オリエンテーション :授業目標及び本授業の到達目標を確認する。	0歳～5歳児の心身の発達をまとめる。	
2.	心身の発達と音楽的発達① :0・1歳児の心身の発達と音楽遊びとの関係について学ぶ(映像を見る)	0・1歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。	
3.	心身の発達と音楽的発達②: 2・3歳児の心身の発達と音楽遊びとの関係について学ぶ(映像を見る)	2・3歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。	
4.	心身の発達と音楽的発達③: 4・5歳児の心身の発達と音楽遊びとの関係について学ぶ(映像を見る)	4・5歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。	
5.	音楽療育の基礎知識①:音や音楽の中に見えるものについて学ぶ	音や音楽の中に見えるものをまとめる。	
6.	音楽療育の基礎知識②:音や音楽の多感覚性とその可能性について学ぶ	音や音楽の可能性についてまとめる。	
7.	音楽療育の主な概念①:同質と即興演奏について学ぶ	同質と即興演奏についてまとめる。	
8.	音楽療育の主な概念②:音と動き、リラクゼーションについて学ぶ	音と動き、リラクゼーションについてまとめる。	
9.	音楽療育の主な概念③: 自己実現のための音楽/コミュニケーションについて学ぶ	自己実現のための音楽/コミュニケーションについてまとめる。	
10.	音楽療育の主な概念④: 言葉と音・音楽/認知の学習と音・音楽について学ぶ	認知の学習と音・音楽についてまとめる。	
11.	音楽療育の実際①:個別の音楽療育について学ぶ	個別の音楽療育についてまとめる。	
12.	音楽療育の実際②:グループの音楽療育について学ぶ(1)	音や音楽の使い方についてまとめる。	
13.	音楽療育の実際③:グループの音楽療育について学ぶ(2)	音や音楽の使い方についてまとめる。	
14.	音楽療育の実際④:グループの音楽療育について学ぶ(3)	音や音楽の使い方についてまとめる。	
15.	まとめ	音楽療育についてまとめる。	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験(筆記試験)	提出物		
70%	30%		
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)			
※各授業計画の欄を参照			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
音とひとをつなぐコ・ミュージックセラピー	中島恵子 山下恵子	春秋社 2002	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・心身共に健康で受講してくださることを望みます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshimi-dell@i.softbank.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		こども音楽療育演習	
担 当 者 名		佐藤 佳美	
科 目 コ ー ド	2200074	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	こども音楽療育士必修
授業の概要と方法	障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術技能について学習する。発達援助のための音や音楽の使い方、障害種別、形態別（個別、集団など）の療育の具体的方法、楽器の活用法や身体表現と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のあるこどもを対象にした音楽療育の実践ができる。 ・発達援助のために音や音楽の使い方を理解して、音楽を構成したり、療育活動を構成したりすることができる。 ・発達に合わせた遊びを創造することができる。 		
授 業 計 画		事前・事後学習について	
1.	オリエンテーション： 授業目標及び本授業の到達目標を確認する。リズムムーブメントの活動の実際（楽譜配布）	シラバスを読み、授業の流れを理解する	
2.	基礎的技術の習得①：打楽器、鍵盤楽器の基礎的な技術を習得する。	〃	
3.	基礎的技術の習得②：打楽器、鍵盤楽器の基礎的な技術を習得する。 楽器の名称と基礎奏法を習得する。	〃	
4.	基礎的技術の習得③：手遊び・歌遊びの実際を学ぶ。	手遊び5曲、動物の歌を練習する。	
5.	基礎的技術の習得④：身体活動と音・音楽を学ぶ。	リズムムーブメントの練習。	
6.	音楽構成の方法：音や音楽、CDの曲を聴いて、音楽の構成について考え、実際に楽器構成する。	さんぼ、ドラえもんサザエさん、などを練習する。	
7.	肢体不自由児への音楽療育：肢体不自由児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	肢体不自由児の音楽療育に関する課題。	
8.	発達障害児への音楽療育①：発達障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	発達障害児の音楽療育に関する課題。	
9.	発達障害児への音楽療育②：発達障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	発達障害児の音楽療育に関する課題。	
10.	発達障害児への音楽療育③：発達障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	発達障害児の音楽療育に関する課題。	
11.	知的障害児への音楽療育：知的障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	知的障害児の音楽療育に関する見直し、課題。	
12.	視覚・聴覚障害児への音楽療育： 視覚障害児・聴覚障害児に対する個別音楽療育の集団音楽療育の具体的方法を学ぶ。	視覚障害児・聴覚障害児の音楽療育に関する課題。	
13.	発達援助のための遊びと音楽①：発達を援助していくための遊びの創造を学ぶ。	障害を設定して遊びを考案する。	
14.	発達援助のための遊びと音楽②：発達を援助していくための遊びの創造を学ぶ。	障害を設定して遊びを考案する。	
15.	まとめ： 半期を振り返り、障害のあるこどもたちへの音楽療育の実践ポイントを演習する。	これまでの課題を復習する。	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験（筆記試験）	提出物		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
※各授業計画の欄を参照			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
音とひとをつなぐコ・ミュージックセラピー	中島恵子 山下恵子	春秋社 2002	
保育所保育指針解説	厚生労働省		
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshimi-dell@i.softbank.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名		こども音楽療育実習	
担 当 者 名		佐藤 佳美	
科 目 コ ー ド	2200075	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	こども音楽療育士必修
授業の概要と方法	音楽療育士は、保育所や療育センター施設等の社会的な役割を具体的に理解した上で、こどもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、こどもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。この授業の中で、更に、障害児通園部において5日間の実習を行う。障害児との積極的な関わり、支援者の意図、心身の発達過程と音楽的発達との関係、障害種別の具体的援助方法の意義を見出すことのできる現場実習とする。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合療育センター、障害児施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。 ・観察やこどもとの関わりを通して、こどもへの理解を深めることができる。 ・既習の教科の内容を踏まえて、こどもに対する保育や保護者への支援の在り方などを学ぶことができる。 ・保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解することができる。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。 		
授 業 計 画		事前・事後学習について	
<p>講義で概論、演習で学んだことを実習に活かした音楽（音、歌あそび、楽器あそび、身体表現等）を用いて療育総合センター、障害児発達支援センター等での見学・観察実習・参加実習を通して具体的実践方法を学ぶ。</p> <p>〈実習先〉 北九州市立総合療育センター及び北九州市立総合療育センター西部分所において5日間の学外実習もしくは、恵光園こどもの家、門司光の子学園等において5日間の実習を行う。</p> <p>〈オリエンテーション〉 ・実習の意義と目的、実習の内容、実習の心得。</p> <p>〈実習前学習〉 ・実習前に対象児を確認し、障害についての理解を深める。 ・障害児通園部の施設の特徴を理解する。</p> <p>〈実習の指標〉 ・障害のあるこどもたちと積極的に関わりを持つことが出来る。 ・支援者の療育の意図を理解することが出来る。 ・心身の発達過程と音楽的発達との関係を、現場を見て理解することが出来る。 ・障害種別の具体的援助方法の意図を見出すことが出来る。</p> <p>〈実習段階〉 ① 療育実習の2側面 受動的側面 障害児の観察と理解。 能動的側面 障害児と積極的に関わりを持つことが出来る。 ② 実習の段階 見学・観察実習、参加実習。</p> <p>〈実習内容〉 ①見学・観察実習、参加実習障害児及び音楽療育の実際を理解する。 ②参加実習：音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。 ③実習担当者より訪問指導を受ける。</p> <p>〈実習後の学習〉 ・音楽療育実習記録簿及び、音楽療育実習日誌を作成・提出する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・施設の生活と1日の流れ ・施設の役割と機能 ・障害児の見学と観察の理解 ・援助計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価 ・障害児の発達段階の理解 ・療育士の業務内容・療育士としての役割分担や連携 ・障害児の理解を深める ・音楽療育場面に参加し、積極的にこども達に関わる ・まとめ 	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
実習先からの評価表・実習記録・提出物		オリエンテーション記録を含むレポート提出	
80%		20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
※各授業計画の欄を参照			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
音とひとをつなぐコ・ミュージックセラピー	中島恵子 山下恵子	春秋社 2002	
保育所保育指針解説	厚生労働省		
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
yoshimi-dell@i.softbank.jp		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名		レクリエーション概論	
担 当 者 名		木原 寛子	
科 目 コ ー ド	2200058	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	日本のレクリエーション運動は 50 年を超える歴史がある。その半世紀に及ぶ成果を踏まえ、新しい時代にふさわしいあり方を求めてレクリエーション運動は大きく変わろうとしている。子どもたちから高齢者までさまざまな人々が心身ともに健やかで生き生きとした暮らしが展開される地域社会を目指している。そして、多種多様なレクリエーション活動を通して温かな豊かな絆を創りあげることである。レクリエーション・インストラクターの資格を取得して子どもから高齢者までさまざまな人々と楽しさを共有し共感し、社会に貢献できる人材を育成する。		
授業の到達目標	楽しさや心地よさを活用して子どもから高齢者、さまざまな人々を支援するための基礎的な考え方や技術を学び、レクリエーションを提供する側としてホスピタリティを理解し、コミュニケーションの技法や集団を対象としたコミュニケーション・ワークの技術を習得する。		
授 業 計 画			
1.	【レクリエーションの基礎理論】 ①レクリエーションとは何か ②レクリエーション運動の歴史とその背景 ③レクリエーションへの期待		
2.	【レクリエーション運動を支える制度】 ①レクリエーション運動の使命 ②レクリエーション組織		
3.	【レクリエーション・インストラクターの役割】 ①レクリエーション支援の考え方 ②レクリエーション・インストラクターに期待される役割		
4.	【ライフスタイルとレクリエーション】 ①ライフステージごとの課題とレクリエーション ②家族とレクリエーション		
5.	高齢社会の課題とレクリエーション		
6.	少子化の課題とレクリエーション		
7.	【地域とレクリエーション】 ①地域のとらえ方と課題への取り組み ②レクリエーションを通じた「つながり」の再生、創造		
8.	【レクリエーション事業論】 ①レクリエーション事業の考え方 ②レクリエーション事業の展開方法 ③プログラムの組み立て方		
9.	【事業計画 I】 ①個人のアセスメントに基づいたプログラム ②市民を対象とした事業のつくり方		
10.	【レクリエーション活動の安全管理】 ①安全管理の考え方（事故・事件への対応）②危険（リスク）を予測して回避する ③事故が起こった時の対応		
11.	【コミュニケーション・ワーク】 ①ホスピタリティとは ②ホスピタリティの示し方		
12.	【アイスブレイキングの意義と基本技術】 ①アイスブレイキングの意義 ②アイスブレイキングの基礎技術		
13.	【目的に合わせたレクリエーションワーク】 ①素材・アクティビティの選択		
14.	対象者に合わせたレクリエーションワーク（企画・立案・準備・実行・評価・反省）を実践		
15.	レクリエーション支援の総まとめ 自己課題について		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業への取り組み姿勢	ノート・レポート	発表（個人・グループ）	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・授業ノートを作成し、毎回の授業内容の記述と配布した資料を添付する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・必要に応じて資料配布			
そ の 他（受講生への要望等）			
「レクリエーション概論」に併せて、「レクリエーション実技」の受講、現場実習 3 回以上、「保育実習 I」を修得して「レクリエーション・インストラクター」の資格取得手続きの運びとなります。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
tomo119k@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名		レクリエーション実技	
担 当 者 名		木原 寛子	
科 目 コ ー ド	2200059	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	レクリエーション・インストラクター必修
授業の概要と方法	「レクリエーション概論」で学んだことを踏まえ、レクリエーション運動の必修活動を理解して実践する。ホスピタリティやアイスブレイキングを身につけ、子どもから高齢者まで幅広いコミュニケーション・ワークに役立てる。北九州市レクリエーション協会が主催する行事や活動に現場実習として参加し地域の皆様と様々なレクリエーション活動体験し、学習して個々の力にする。		
授業の到達目標	①人と向き合う力（相手の話をきちんと聞く姿勢） ②集団を育てる力（一緒に楽しみ、脇役にまわる） ③地域と繋がる力（ボランティア活動・子育て支援・町内会の行事）		
授 業 計 画			
1.	前期オリエンテーション	16.	後期オリエンテーション
2.	ホスピタリティの理解と実践	17.	現場実習参加に向け企画、立案
3.	アイスブレイキングの意義 1 ①アイスブレイキングとは ②アイスブレイキングの活用が期待される現場・局面	18.	現場実習参加に向けた企画、立案、役割分担、準備
4.	アイスブレイキングの意義 2 アイスブレイキングの基礎技術を習得	19.	現場実習参加に向けた企画、準備、製作
5.	野外活動（ネイチャーゲーム・自然観察・ウォーキング）	20.	現場実習参加に向けて製作したものをを用いて遊びの実践（シュミレーション）
6.	生涯スポーツに向けて（ニュースポーツの実践）1 チャレンジ・ザ・ゲーム	21.	現場実習の振り返り（評価・反省）
7.	生涯スポーツに向けて（ニュースポーツの実践）2 インディアカ	22.	季節に合わせたレクリエーション支援 企画、立案、役割分担、準備
8.	生涯スポーツに向けて1 レクリエーションダンス	23.	季節に合わせたレクリエーション支援の実践、振り返り
9.	生涯スポーツに向けて2 レクリエーションダンス 対象者を理解して展開を考える	24.	対象者の特性を考えた事業計画 立案、計画
10.	クラフト（ものづくりを楽しむ）1 板じめによるうちわづくり（絵具を用いて障子紙を染色）	25.	対象者の特性を考えた事業の実践1（乳幼児）実践～振り返り
11.	クラフト（ものづくりを楽しむ）2 板じめによるうちわづくり（骨組みに貼り、完成まで）	26.	対象者の特性を考えた事業の実践2（児童期）実践～振り返り
12.	製作したうちわを用いて遊びを企画 （個々で考え、グループで楽しむ工夫をする）	27.	対象者の特性を考えた事業の実践3（青年・壮年・中年期） 実践～振り返り
13.	製作したうちわを用いた遊びの実践1	28.	対象者の特性を考えた事業の実践4（老年期）実践～振り返り
14.	製作したうちわを用いた遊びの実践2	29.	自己課題について ディスカッション
15.	前期まとめ	30.	後期まとめ
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業への取組み姿勢		ノート・レポート	発表（個人・グループ）
60%		20%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・授業ノートを作成し、毎回の授業内容の記述と配布した資料を添付する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
・必要に応じて資料配布			
そ の 他（受講生への要望等）			
「レクリエーション概論」と併せて「レクリエーション実技」の受講、現場実習3回以上、「保育実習Ⅰ」を修得して「レクリエーション・インストラクター」の資格取得手続きの運びとなります。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tomo119k@hcc.ac.jp			